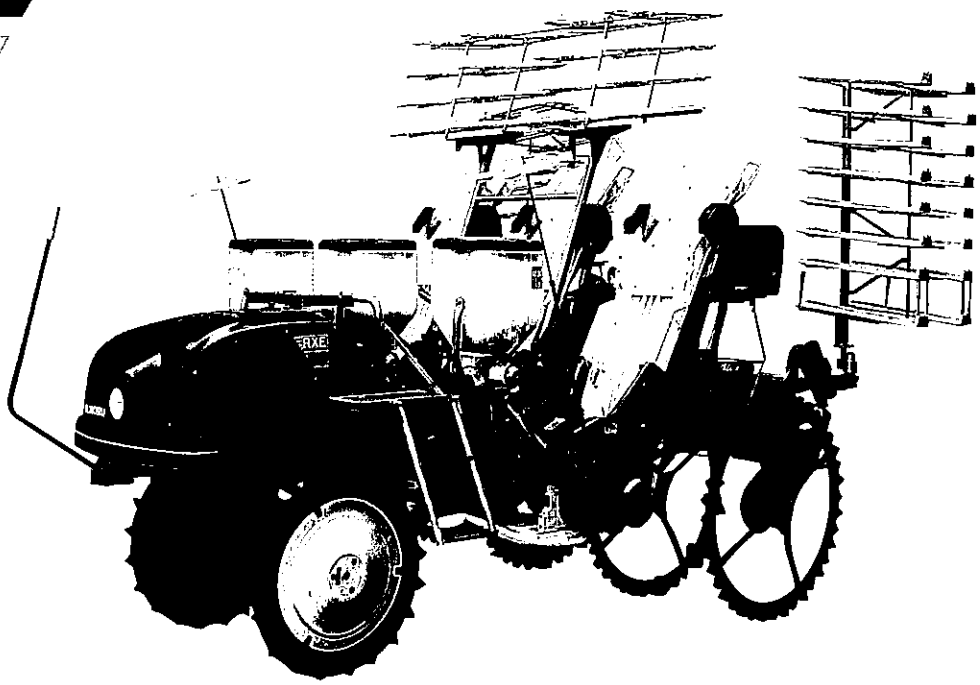
使用する前に必ずよく読んで正しく使いましょう

みのるポット成苗田植機
RXE-60〔乗用型〕

取扱説明書



みのる産業株式会社

田植機重要安全ポイント

1. ほ場まで移動するときは、トラック等にのせて 運搬します。

2. 燃料を補給するときは、火気厳禁 とします。
エンジンを停止 し冷機状態で行ないます。

3. エンジンを始動するときは、
VS 変速レバーを「停止」・主変速レバーを「中立」で行ないます。
周囲の安全を確認 してから行ないます。

4. 田植機を移動するときは、運転者以外乗車せず、
左右に転倒しないよう低速で 行ないます。

5. トラックへ積み・降ろしするときは、
強度・幅・長さの充分あるスリップしないアユミ板 を使用します。
スピードを落としアユミ板に直角に上がり・下がり します。
上がり・下がりの途中で主クラッチ・サイドクラッチペダルは踏みません。

6. ほ場へ出入りするときは、
スピードを落としあぜに直角 に移動します。
上がり・下がりの途中で主クラッチ・サイドクラッチペダルは踏みません。

7. 田植機を点検整備するときは、必ず安全な場所で
エンジンを止め、植付部をフックで固定します。

8. 補助者と共同作業を行なうときは、合図をし安全を確認 します。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要安全ポイントは
上記の通りですが、これ以外にも本文の中で安全上ぜひ守っていただきたい
事項を⚠を付けて説明しております。
よくお読みいただいて、必ず守っていただくようお願いいたします。

はじめに

●このたびは、本田植機をお買いあげいただき、まことにありがとうございました。

●この田植機は、水稲の田植えをするためのものであって、他の用途に使用しないでください。

●この取扱説明書は、田植機を使用する際にぜひ、守っていただきたい安全作業に関する基礎的事項、田植機を適切な状態で使っていただくための正しい運転・調整・整備に関する技術的事項を中心に構成しております。

●田植機を初めて運転される時はもちろん、日頃の運転・取り扱いの前にも初心に立ち返り入念に読み、充分理解され安全・確実な作業を心がけてください。

●この取扱説明書は、いつでも取り出して読めるように保管してください。

●田植機を貸与または譲渡される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を充分理解していただき、この取扱説明書を田植機にそえてお渡しください。

●この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買いあげいただいた、販売店・農協（JA）にご注文ください。

●なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行なうことがあります。
その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本田植機と一致しない場合がありますので、ご了承ください。

●もし、おわかりにならない点がございましたら、ご遠慮なくお買いあげいただいた、販売店・農協（JA）にご相談ください。

●取扱説明書の中の⚠ 重要 表示は、下記のように安全上、取り扱い上の重要なことを示しております。よくお読みいただき、必ず守っていただくようお願いいたします。

表　示	重　要　度
⚠ 危険	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示しております。
⚠ 警告	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示しております。
⚠ 注意	その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものを示しております。
重要	商品の性能を発揮させるための注意事項を説明しております。 よく読んで商品の性能を最大限発揮してご使用ください。

目　　次

安全のポイント……1
非特殊自動車としての取り扱い……1
安全な作業をするために……1
電装関係を取り扱う時は……7
安全表示ラベルについて……8

使用上のポイント……10

保証とサービスについて……15

各部の名称とはたらき……16
各部の名称……16
スイッチ・ランプのはたらき……18
レバー・ペダル・シートの取り扱い……20

作業前点検……27
給油・注油箇所の点検と補給……27
ペダル・レバーの点検……31

運転のしかた……32
エンジンの始動と停止のしかた……32
発進・停止・駐車のしかた……34
移動・運搬のしかた……36
ほ場への出入りのしかた……40

作業のしかた……41
ほ場と苗の準備……41
ほ場の準備……41
苗の準備……42
植付作業前の準備……44
植付株間の決めかた……44
替ギヤーの交換・切替レバーの切り替えかた……45
植付深さの調節のしかた……46
空箱受の取り付け……46
予備苗台後の取り付け……47
苗支持板の調節のしかた……48
植付作業の手順……49
油圧感度調節のしかた……52

ピッチング姿勢の調節のしかた……52
フロート引きバネの調節……53
ほ場での植えかた……53
あぜぎわマーカーの使いかた……54
旋回のしかた……54
外車輪作動スイッチの使いかた……55
苗の補給のしかた……56
空箱の取り出しかた……57
植えじまいのしかた……58
残り苗の取り出しかた……59
植付部の水洗いのしかた……61
安全クラッチが作動したとき……62
湿田での脱出のしかた……63

点検整備……64

定期点検……64
定期点検一覧表……65
給油・注油・点検一覧表……66
燃料・オイルの点検・補給・交換……66
燃料の排出……66
変速ミッションオイル……67
後輪ミッションオイル……67
植付ミッションオイル……68
油圧オイル……68
燃料フィルタポットの点検・掃除……69
エアクリーナエレメントの点検・掃除……70
点火プラグの点検・掃除・調整……70
燃料ホースの点検・交換……71
VS ベルト・油圧駆動ベルトの点検……71
車輪の点検……71
バッテリーの点検・交換……72
電装部の各配線コードの点検・交換……74
ヒューズの交換……75
スローブローヒューズの交換……75
植付作業後の手入れ……76

不調時の処置……78

サービス資料……80

主要諸元……80
標準付属品……81
主な消耗部品一覧表……82
注文部品の紹介……84

牽引……86

安全のポイント

本章では、田植機を効率よく安全にお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しております。充分に熟読されて、安全な作業を行なってください。

非特殊自動車としての取り扱い

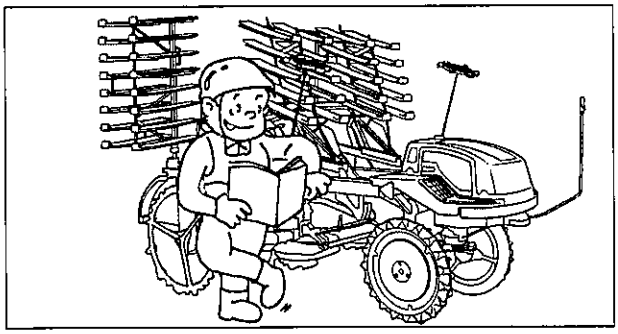
この田植機は、小型特殊自動車（農耕作業用自動車）として道路走行車輌の型式認定を受けておりません。従って、一般道路を走行することは違法行為になります。
移動する場合は、トラックなどにのせて運搬してください。
トラックの荷台から田植機機体が、幅方向にはみ出した状態で運搬すると、違法行為となりますので注意してください。

安全な作業をするために

■運転者の条件

(1) はじめに

この『取扱説明書』をよく読むことから始めてください。これが安全に快適に作業するための第1歩です。



(2) 体調について

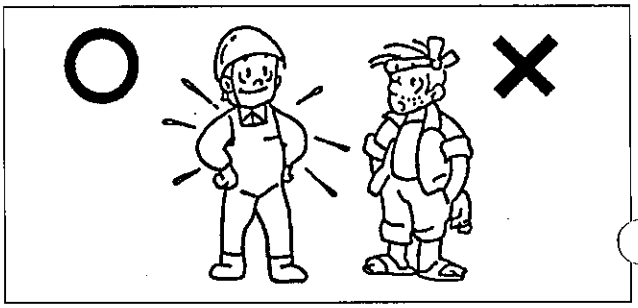
①飲酒時や過労ぎみの時は作業をしてはいけません。このような時作業を行なうと、誤操作などで思わぬ事故を引き起こします。作業する時は、必ず心身とも健康な状態で行なってください。

②妊娠している人・18才未満の人は運転しないでください。

③初めて運転する人は、操作に慣れるまで低速で運転してください。

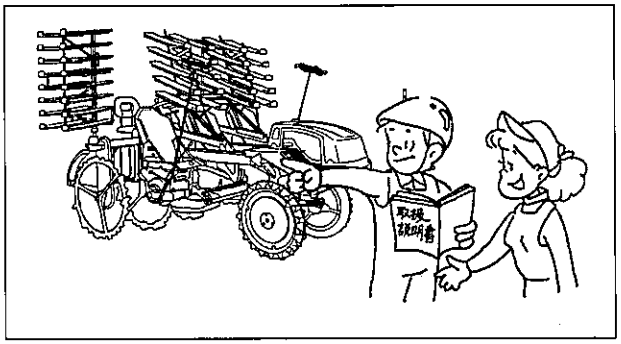
(3) 服装について

作業する時は作業に合わせた服装をしてください。服装が悪いと衣服が回転部に巻き込まれたりして大変危険です。また、はだしでの作業は絶対にしないでください。田植長靴かたびで作業してください。怠ると足をケガする恐れがあり危険です。ヘルメットや適正な保護具も着用してください。



■人に機械を貸す時は

田植機を人に貸す時は、取り扱いの方法をよく説明し使用前に取扱説明書を熟読するように指導してください。借りた人が田植機の運転に不慣れなため、思わぬ事故を引き起こすことがあります。



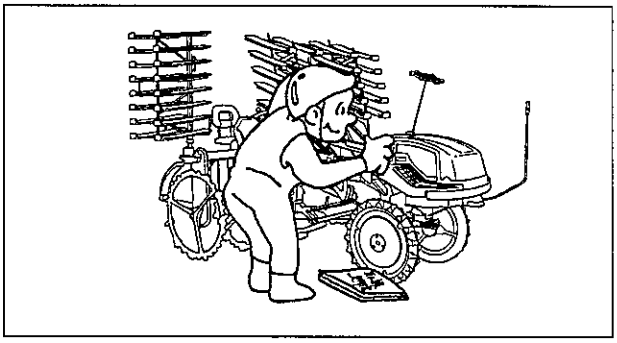
■作業を開始する前に

(1) 無理のない作業計画で

無理のないゆとりある作業計画を立てましょう。無理な作業計画は、あせりなどから思わぬ事故を引き起こすことがあります。

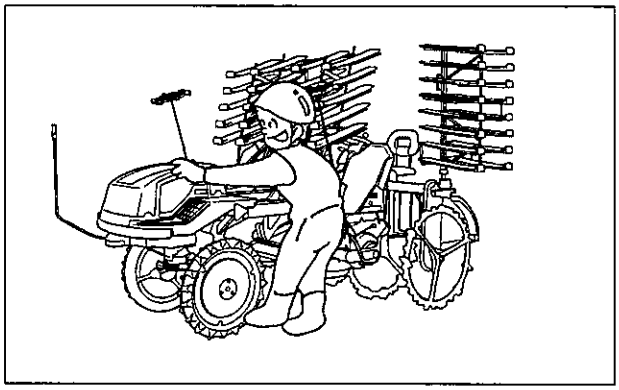
(2) 日常点検について

作業する前に、この取扱説明書を参考に必要な点検・注油は必ず行なってください。
特にブレーキおよび主クラッチ関係は忘れないでください。点検を怠ると、ブレーキの効きが悪かったりクラッチが切れなかったりして走行中や作業中の思わぬ事故につながります。



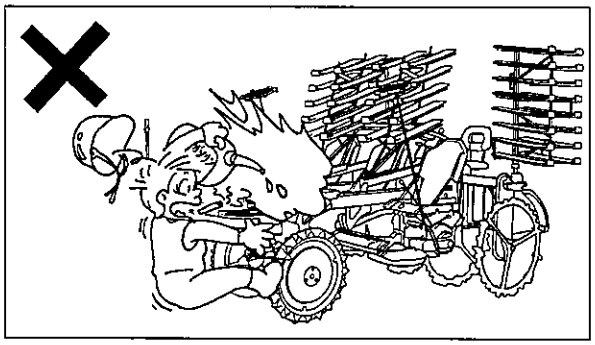
(3) 安全カバー類の装着確認

田植機を運転する前に、安全カバー類が外れたままになっていないか確認しましょう。
外れたままエンジンをかけたり、作業を行なうと危険な部分が露出して大変危険です。



(4) 燃料補給時は火気厳禁

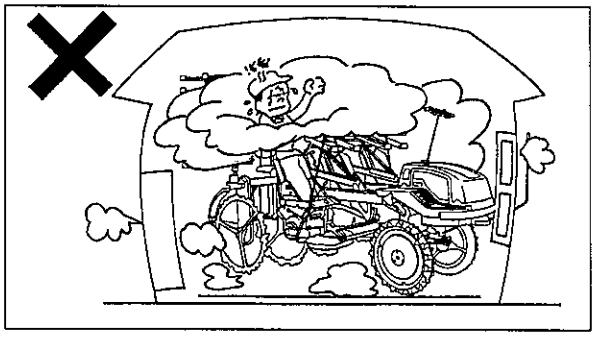
燃料を補給する時エンジンは必ず停止し、くわえタバコなどは絶対にしないでください。
田植機の周囲に火の気を近付けず、火気厳禁で行なってください。
守らなかった場合、火災の原因になります。



■エンジンの始動と発進

(1) 室内では充分に換気を

室内でエンジンを運転する時は、窓や戸を開けて換気を充分にしてください。換気が悪いと、排気ガス中毒を起こし大変危険です。



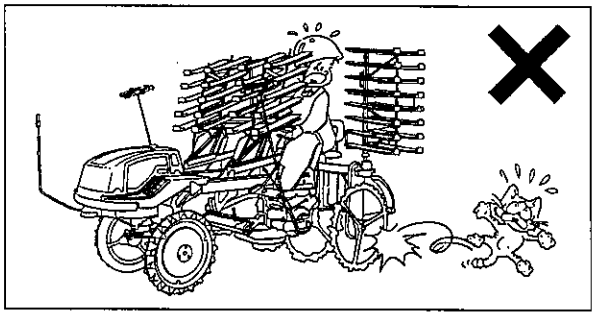
(2) エンジンの始動は、周囲を確認してから

①エンジンを始動する時は必ず座席に座って、VS変速レバー・主変速レバーやその他のレバー類の位置と周囲の安全を確認してから行なってください。確認を怠ると、急発進したりして大変危険です。

②エンジンを始動する時は、エンジンやマフラー等の上や周囲にゴミや燃えやすいものが無いことを充分確認してください。確認を怠ると、火災の原因になります。

(3) 急発進は、危険

発進する時は周囲の安全を確認して、ゆっくり発進してください。急発進すると思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。



■移動する時の注意

(1) 一般道路での自走禁止

この田植機は、自動車としての認定を受けておりません。従って一般道路を走行することは違法行為になります。ほ場への移動は、必ずトラック等にのせて運搬してください。

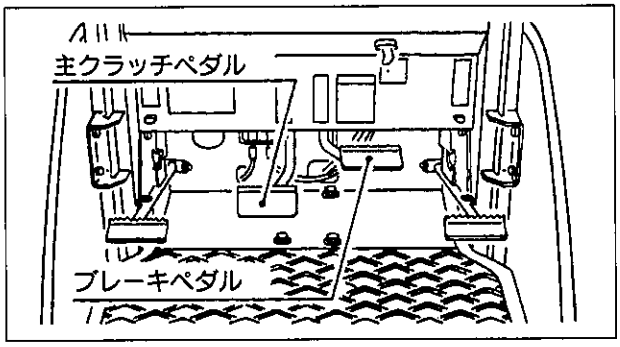
(2) 正しい運転姿勢で

ハンドルやクラッチは正しく操作し、わき見運転や片手運転をしてはいけません。接触事故や転落事故を引き起こす原因となります。

(3) ほ場の外でのブレーキの使いかた

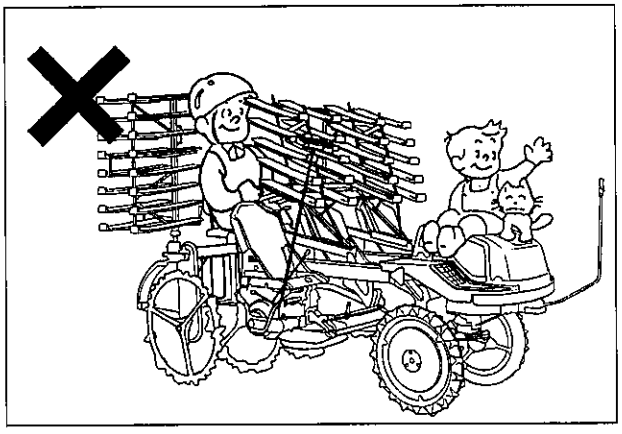
①ほ場の外でブレーキを使う場合、急停止は大変危険です。まずエンジン回転を低速にしてから、ブレーキペダルを踏んでください。

②ブレーキペダルを踏む時は、主クラッチペダルと同時に踏み込むか、VS変速レバーを「停止」にしてください。これを怠るとブレーキが効かず、衝突・転倒・転落事故を引き起こす恐れがあります。



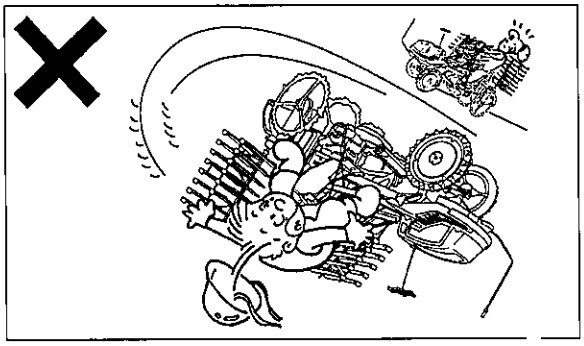
(4) 同乗禁止

田植機の上やカバー部には、いかなる場合も絶対に人はのせないでください。人が転落したりして大変危険です。



(5) ゆっくり移動

①高速で急旋回しないでください。急旋回すると転倒事故につながり大変危険です。

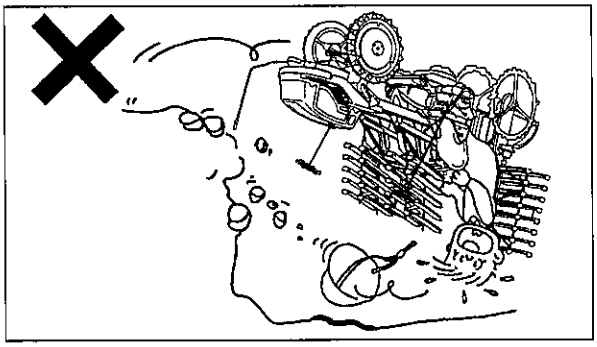


②凹凸の激しい場所・地面の軟弱な場所・傾斜地等での高速運転はしないでください。地面状況に応じた安全な速度で移動してください。これを怠ると衝突・転倒・転落事故を引き起こす恐れがあります。

③傾斜地を上がる時は低速でゆっくりと、下がる時はエンジンブレーキをかけ、決して主クラッチペダルを踏み込んだり変速レバーを中立状態にしないでください。足ブレーキの多用はブレーキを傷めるとともに、スリップや転倒の原因になり大変危険です。ブレーキペダルも踏み込まないようにしてください。

(6) 路肩に注意

両側が傾斜している所を移動する時は、速度を落として充分注意して移動してください。路肩がくずれて転倒したりして大変危険です。

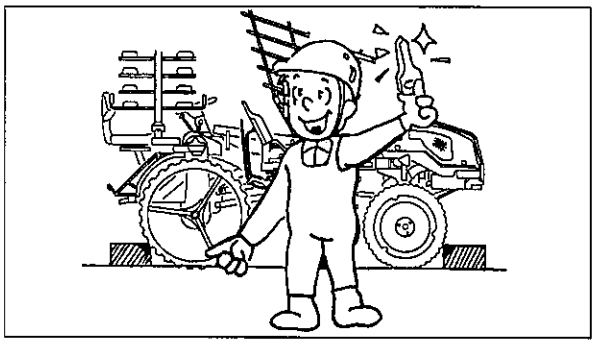


(7) 田植機から離れる時は

①田植機から離れる時は、エンジンを停止してキースイッチを抜き取り、駐車ブレーキをかけて車輪止めをしてください。

②止める所は広く平たんな地面の硬い場所を選んでください。田植機が自然に動き出したりして大変危険です。

③下に草やワラがある場所や、燃えやすい物の近くには田植機を置かないでください。マフラー等の熱で発火する恐れがあり、火災の原因になります。



■夜間作業の禁止

この田植機はライトを装備していますが、夜間作業は危険なので帰り時間等を配慮し、作業は早めに切り上げてください。
暗くなるまで作業をしていると、衝突・転倒・転落事故を引き起こす恐れがあります。

■移動・運搬時の注意

(1) トラックへの積み・降ろし

①積み・降ろし作業を行なう時は、トラックのエンジンを止めて、変速を「1速」または「R」の位置にして駐車ブレーキをかけ、車輪止めをして行なってください。これを怠ると積み・降ろし時、トラックが動いて転落事故を引き起こす恐れがあります。

②積み・降ろし作業は、誘導者を付けて周囲の安全を充分確認して行なってください。また田植機の直前や直後には、絶対に立たないでください。傷害事故の原因になり大変危険です。

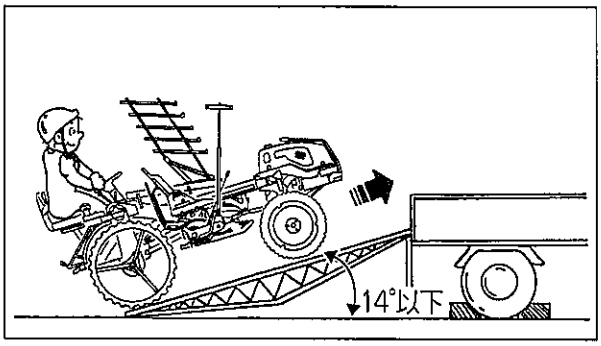
③左右の予備苗台後は積み込み前に取り外します。

④アユミ板は基準以上のものを使用し、田植機の重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。

〈アユミ板の基準〉
○長さ：車の荷台の高さの４倍以上 ○幅　：30cm以上 ○数量：２枚 ○強度：１枚の強度が900kg以上 ○すべり止めのあるもの

⑤アユミ板のフックは荷台に段差がないようにまた、ずれないよう確実に掛けてください。

⑥積み・降ろし作業は直進性を見定めて、積む時は主変速レバーを「作業」、降ろす時は「後進」でゆっくり行なってください。これを怠ると、転落事故の原因になり大変危険です。



⑦積み・降ろし作業中は、主クラッチペダルやサイドクラッチペダルを踏み込んではいけません。機体が横ブレして転落事故の原因になり大変危険です。

⑧万一途中でエンストした場合は、すぐブレーキペダルを踏み込み、その後徐々にブレーキをゆるめいったん道路まで降ろし、あらためてエンジンを始動してから行なってください。

⑨万一に備えて田植機の周辺には人を近付けないでください。

(2) 運搬する時

①トラック等で運搬する時は、駐車ブレーキをかけエンジンを停止し必ずロープで荷台に固定してください。また、運搬中は不必要な急発進・急ブレーキ・急ハンドルはしないでください。田植機が移動して大変危険です。

②長距離を運搬する場合は、安全のために途中でロープのゆるみ等を確認してください。

③ジャリ道や凹凸の激しい道はゆっくり走行してください。

■作業中の注意

気象条件などに注意して、作業実施の判断・作業方法や装備（服装）の選択に充分配慮してください。

(1) 作業中は、周囲の人に注意 (特に子供が近づくのは危険)

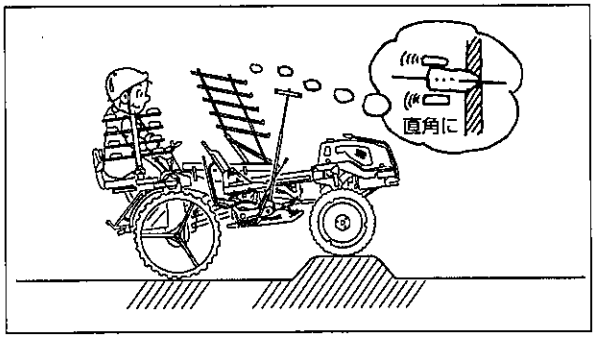
作業中は、作業者以外の人を田植機に近付けてはいけません。田植機自体や作業による飛散物等で傷害事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。

(2) 作業開始時は、声かけあって

作業を開始する時は周囲の安全を確認し、特に補助者とともに作業する時は、声かけあって行なってください。これを怠ると傷害事故の原因になり大変危険です。

(3) あぜごえ時の注意

あぜを横断する時は、植付部を低くして低速であぜと直角にゆっくり移動してください。斜めになると、スリップや横転の原因になり大変危険です。

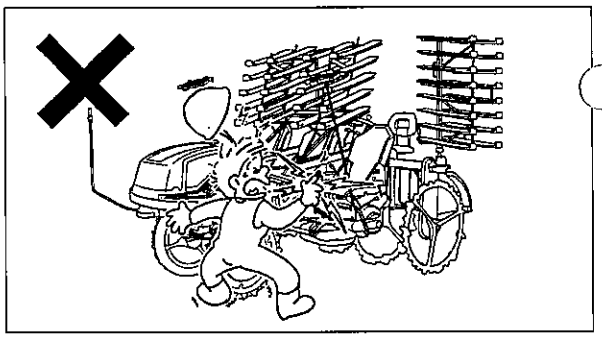


(4) アユミ板を使ってほ場の出入り

あぜの高さが高い所でのほ場の出入りでは、必ずアユミ板を使用してください。使用しなかった場合、衝撃で田植機を破損させたり、転倒することがあり大変危険です。

(5) 回転部・過熱部には手を触れない

作業中は、ロータリー爪・苗受等の回転部やエンジン・マフラー等の過熱部・バッテリー端子等の通電部などの危険な箇所には手を触れないでください。傷害事故の原因となり大変危険です。



■点検・整備時の注意

(1) 定期点検について

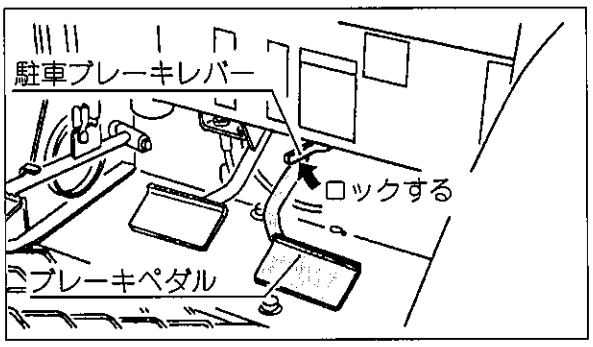
取扱説明書に従って定期点検をしてください。これは田植機を長持ちさせるとともに、安全で効率的な作業が行なえる第一歩です。

(2) 点検・整備は明るく広い場所で

点検・整備する時は、明るく平たんな広い場所で行なってください。これを怠ると思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

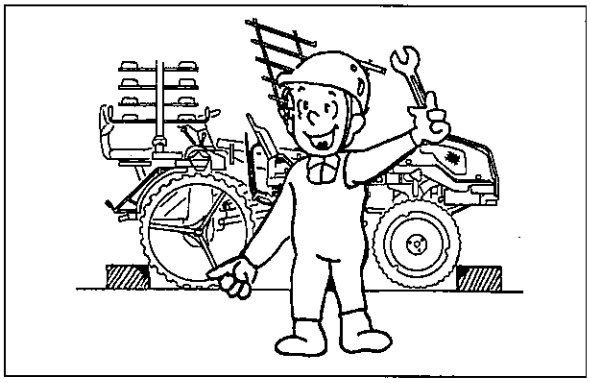
(3) 点検・整備は、エンジンを止めて

点検・整備する時は必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキレバーをロックし、植付部をフックで吊り下げるか下ろしてから行なってください。これを怠ると手や衣服が巻きこまれたり、はさまれたりして大変危険です。



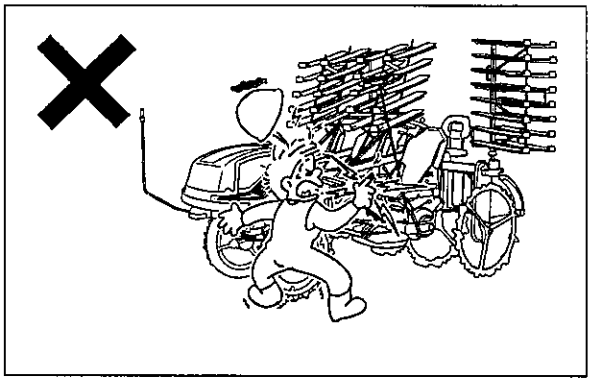
(4) 点検・整備は、適正な工具で

点検・整備を行なう時は、適正な工具を正しく使用して行なってください。まにあわせの工具で行なうと、整備中の傷害事故や整備不良による思わぬ事故を引き起こし、大変危険です。



(5) 過熱部分は冷めてから

①エンジンを切ってすぐに点検・整備をしてはいけません。エンジンなどの過熱部分が、完全に冷えてから行なってください。これを怠るとやけどなどの原因になります。



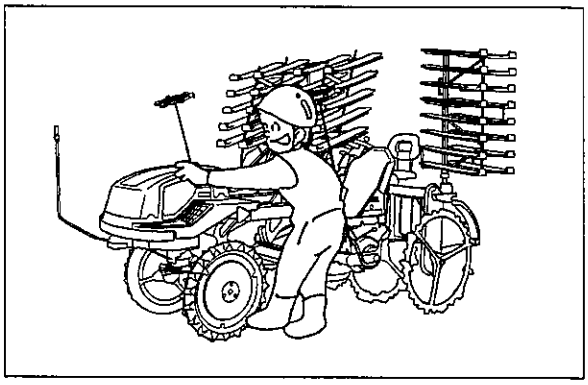
②点検・整備する時は、マフラー等の過熱部分のゴミ・ホコリはきれいに取り除いておいてください。これを怠ると作業中に発火したりして、火災を引き起こす恐れがあります。

(6) 機械の改造は厳禁

指定以外のアタッチメントの取り付けや改造は絶対してはいけません。田植機の故障や事故の原因になり大変危険です。

(7) カバー類は元通りに

点検・整備で取り外した安全カバー類は、必ず元の通りに取り付けてください。外したままエンジンをかけると、回転部や過熱部がむきだしになり、傷害事故の原因になり大変危険です。



■保管時の注意

(1) 燃料の抜き取り

長期格納する場合は、燃料タンクや気化器内の燃料を抜き取っておいてください。燃料が変質し田植機の故障の原因になるばかりでなく、引火などで火災の原因にもなり大変危険です。

(2) シートカバーは田植機が冷えてから

作業が終了してシートカバー等を田植機にかける時は、過熱部分が完全に冷えてから行なってください。熱いうちにカバー類をかけると火災の原因になり大変危険です。

(3) バッテリーケーブルを外す

長期格納する場合は、バッテリーケーブルを外しておいてください。外しておかないと、ネズミ等がケーブルをかじってケーブルがショートし、発火して火災の原因になり大変危険です。

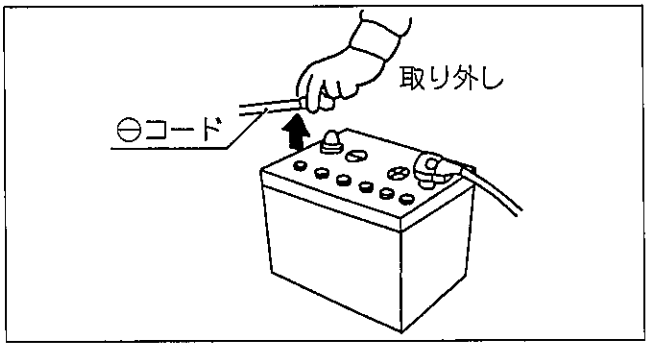
電装関係を取り扱う時は

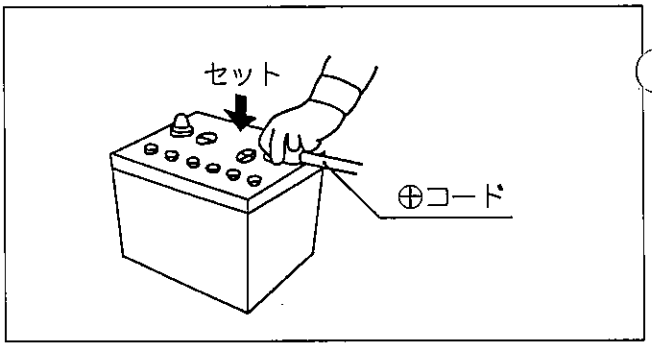
(1) 電気配線点検時の注意事項

①電気配線の点検は、必ずエンジンを停止して行なってください。エンジンをかけた状態での点検は、手や衣服が回転部に巻きこまれたりして大変危険です。

②接続部の点検は、キースイッチを「切」にし、バッテリーの⊖コードを外して行なってください。これを怠ると火花がとんだり、感電したり思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

③配線の端子や接続部のゆるみ、および配線の損傷は電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート（短絡）・漏電の原因となり火災事故になる恐れがあり大変危険です。傷んだ配線は、早めに交換・修理してください。





(2) バッテリー取り扱い時の注意事項

①ショートやスパークさせたり、たばこ等の火気を近付けないでください。また、充電は風通しのよい所で行なってください。これを怠ると引火爆発することがあり大変危険です。

②バッテリー液（電解液）は、希硫酸で劇毒物です。バッテリー液を体や衣服につけないようにしてください。失明ややけどをすることがあり大変危険です。もし目・皮膚・服についた時は、ただちに多量の水で洗ってください。なお目に入った時は、水洗い後、医師の治療を受けてください。

③バッテリーの着脱および点検をする時はエンジンを停止し、キースイッチを「切」にしてください。これを怠ると電気部品を損傷したり、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

④バッテリーコード（端子）を外す時は⊖コードを先に外します。バッテリーコードを取り付ける時は⊕コードを先に取り付けます。これを怠るとショートして火花がとんだりして危険です。

(3) ブースターケーブル使用時の注意事項

ブースターケーブル使用時には、危険のないように取り扱ってください。

①バッテリーの補水キャップを取り外してから接続してください。補水キャップが取り外してあれば、万一引火しても爆発力は低下しますので、被害は少なくなります。

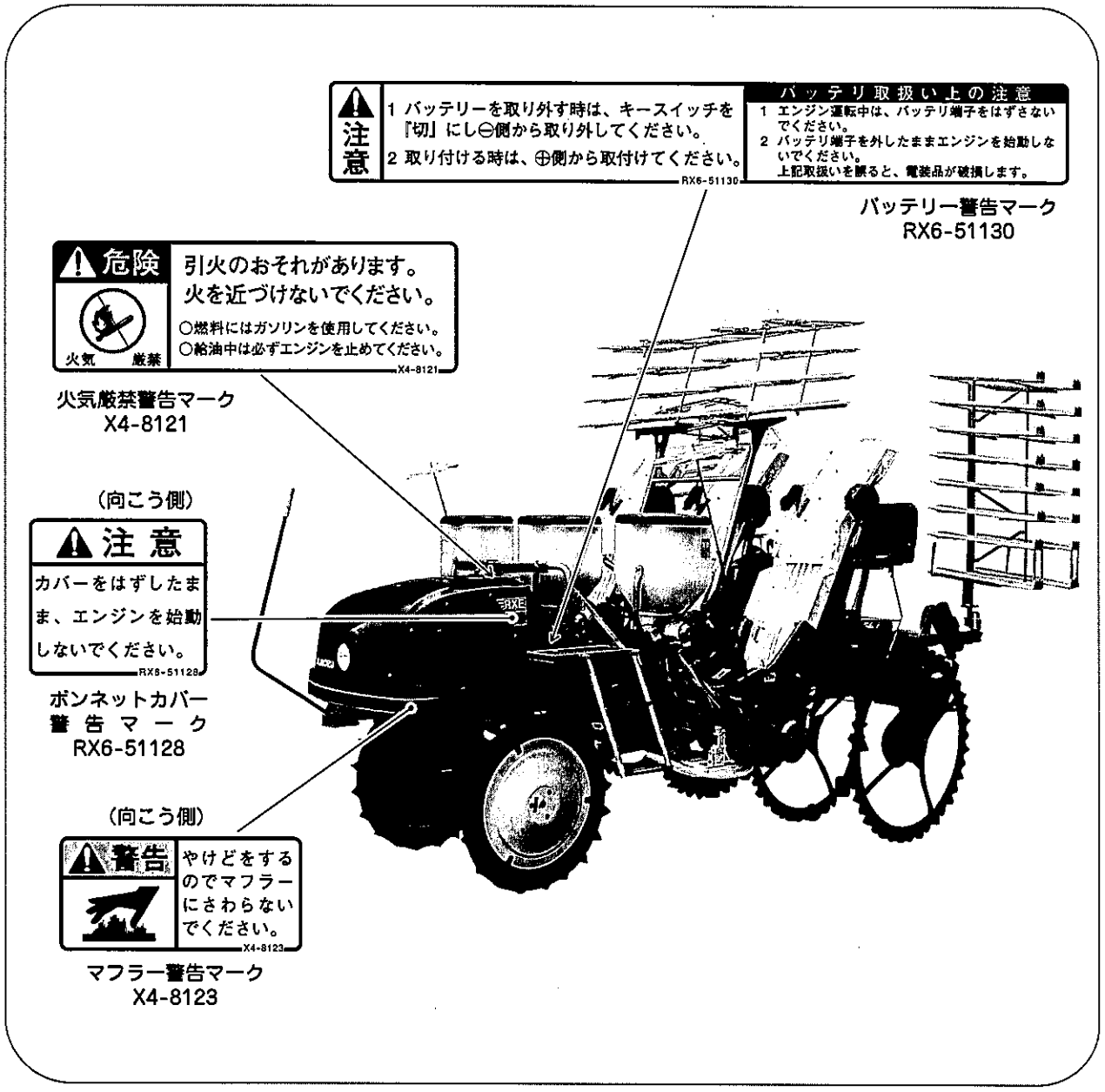
②ブースターケーブル接続前には、エンジンを停止してください。これを怠ると思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

③ブースターケーブルは、できるだけ通電容量の大きいものを選んで使用してください。通電容量が小さすぎると、ブースターケーブルが熱をもったり焼損したりして危険です。

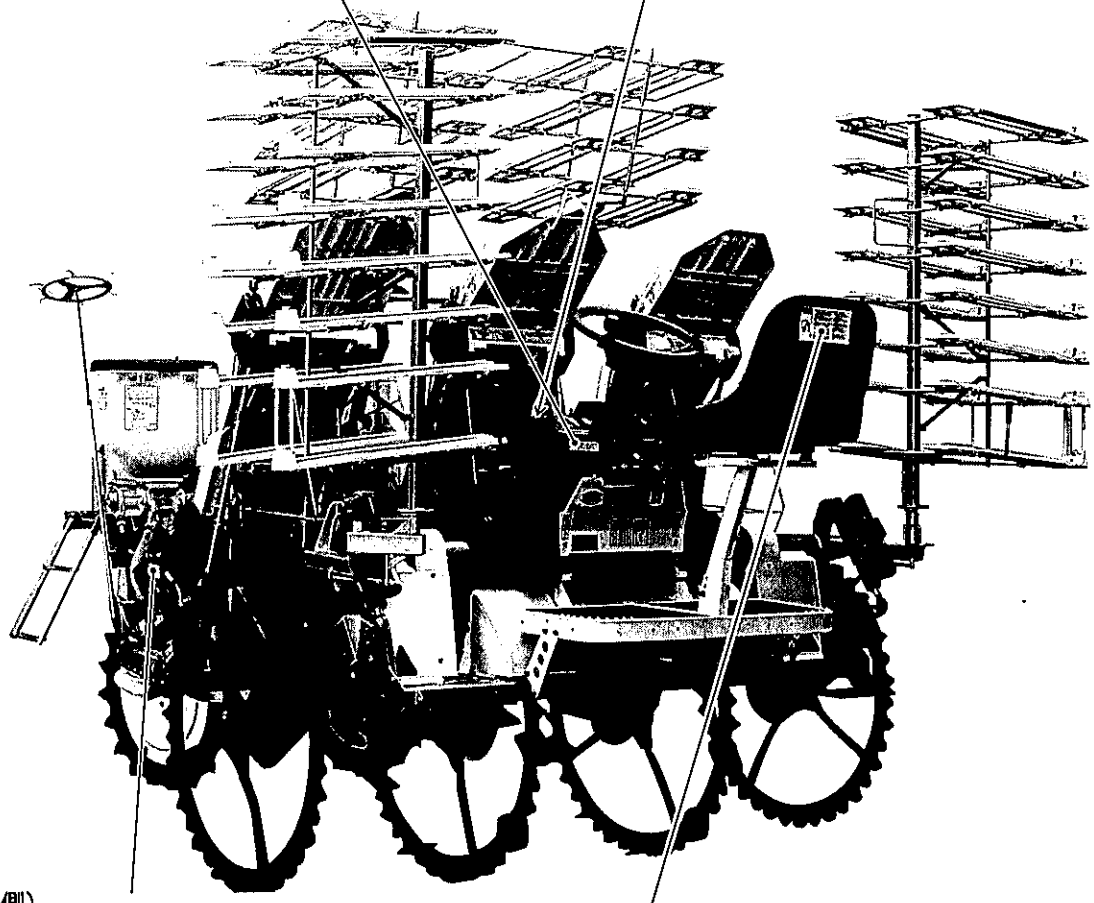
安全表示ラベルについて

●本田植機には、安全に作業していただくため、安全表示ラベルが貼付してあります。必ずよく読んで、これらの注意に従ってください。
●安全表示ラベルが破損したり、なくなったり読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。
●泥等がついた場合は、きれいにふきとり、いつでも読めるようにしてください。
●安全表示ラベルが貼付してある部品を交換する場合、同時に安全表示ラベルもお買いあげいただいた販売店・農協（JA）にご注文ください。

安全表示ラベル貼付位置



安全表示ラベル貼付位置



⚠注意
機械から離れる時は主変速レバーを『中立』にしエンジン停止のこと。
RX6-51131

主変速レバー警告マーク
RX6-51131

⚠警告
移動時・ほ場への出入りの際は、外車輪が完全に下がった状態で外車輪作動スイッチを「切」にしてください。
これを怠ると外車輪が作動して、機械が転倒し、大変危険です。
RXE6-51113

外車輪スイッチ警告マーク
RXE6-51113

（両側）

⚠注意
ケガをするおそれがあります。
苗を取出す時や、点検調整を行う時は、エンジンを止めてください。
X4-8124

植付部警告マーク
X4-8124

⚠注意
運転操作をする前に、必ず取扱説明書をよくお読みください。
1. この機械は一般道路の走行はできません。トラック等に載せて運搬してください。
2. 燃料補給する時は、エンジンを停止し、冷却状態で行なってください。
3. エンジンを始動する時は、周囲の安全を確認し、ＶＳ変速レバーを『停止』主変速レバーを『中立』で行なってください。
4. トラックへ積み・降ろしする時は、強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミを使用してください。
5. 機械を移動する時は、左右に転倒しないよう注意し、低速で行なってください。
6. ほ場へ出入りする時は、スピードを落とし、あぜに直角に走行してください。
7. 機械から離れる時はエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。
8. 点検調整する時は、安全な場所でエンジンを止め、植付部をフックで固定してください。
9. 補助者と共同作業を行なう時は、合図をし、安全を確認してください。
10. 屋内では排気ガスが溜まりやすくガス中毒の危険があるため、換気を十分に行なってください。
RXE60-51113

運転操作警告マーク
RXE60-51113

使用上のポイント

本田植機が使用できる耕盤の深さは40cmまでです。

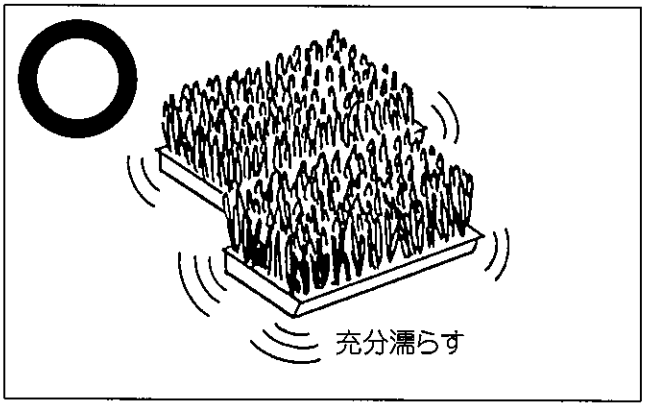
泥炭地、基盤整備田等で本田植機が沈むような耕盤の不安定な悪条件のほ場では使用できなかったり、田植機の早期破損の原因となります。また本田植機の特性をよく知って、それにできるだけ合わせた苗およびほ場の準備をしていただくことが大切です。

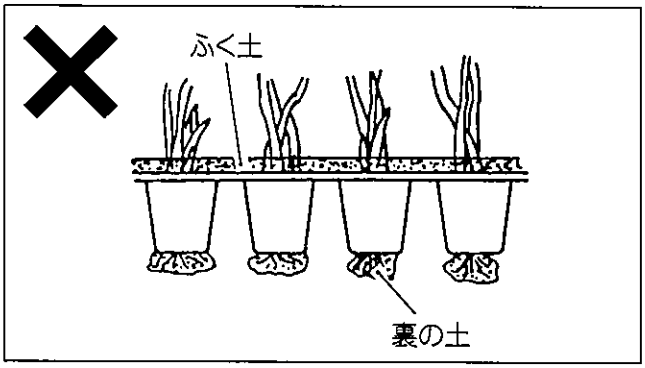
■苗について

(1) 苗は使用する前に必ずあぜぎわなどの水のあるところにつけて、ポットの中に水が充分浸透するまで濡らして植え付けをします。特に根張りのよい苗は、充分つけておきます。

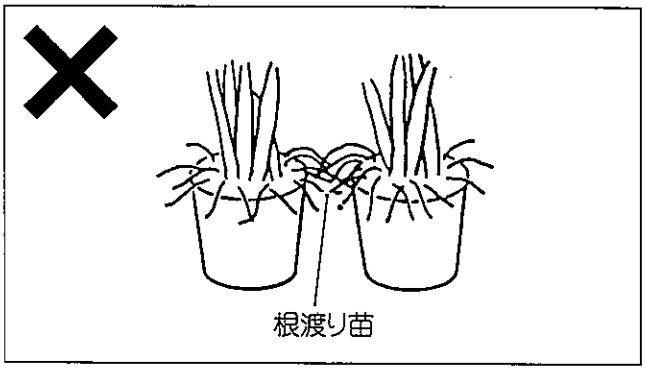
○ (2) 濡らして使用する場合が絶対条件ですが、非常に根張りの悪い場合や、ポットがくずれやすい土を使用している場合は、濡らしかたに注意してください。

(3) 苗箱の上面に余分のふく土をかけないようにまた、必ず根切りネットを使用して育苗してください。余分なふく土や裏の土は洗い流してから使用してください。守らないと苗が植付部へ送り込まれなかったり、空箱ガイドで空箱がつまって苗箱が破損したり、連続欠株となる場合があります。

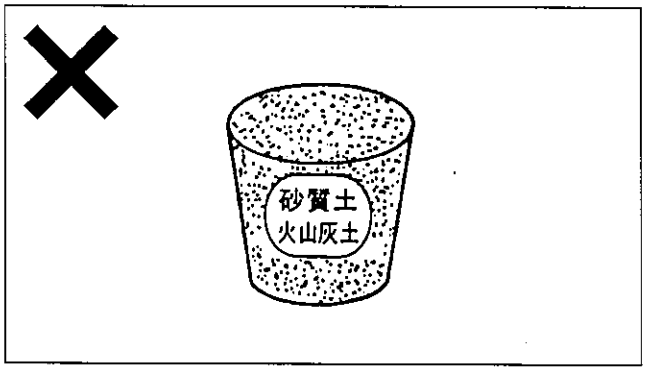




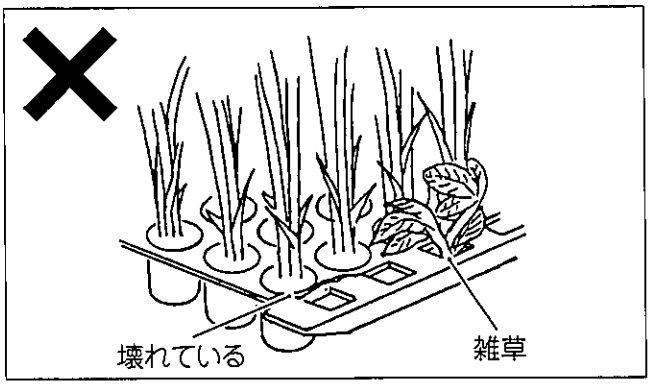
○ (4) 根渡りさせないよう、育苗の段階から注意してください。
（詳しくは「育苗のてびき」を参照）
根渡り苗は植え付けできないこともあります。



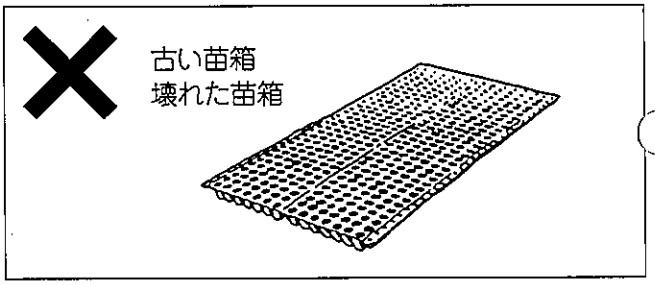
(5) 砂質土・火山灰土等を使用しますとポットがくずれやすく、植付不調となります。箱土に関しては、購入先にご相談ください。



(6) 箱のふちや角穴が壊れている苗箱は使わないでください。また、苗箱の角穴が土や雑草でふさがっている場合は取り除いてください。
守らないと苗が植付部へ送り込まれなかったり、空箱ガイドで空箱がつまって苗箱が破損したり、連続欠株となる場合があります。

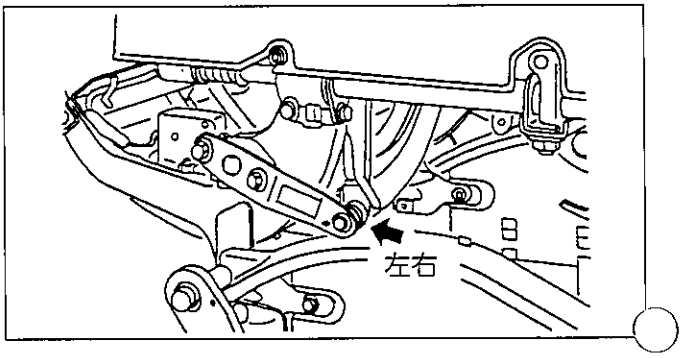


(7) 10年以上経過した古い苗箱や新しくても保管状態のよくない苗箱は材質がもろくなっています。苗供給時、苗箱送り時に破損して苗箱の送りができなくなり連続欠株の原因となります。
古い苗箱は計画的に新しい苗箱に更新するようにしてください。

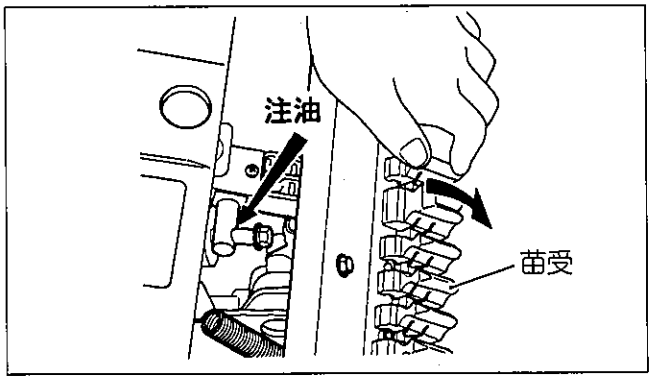


■注油

作動不良、また消耗を防ぐため毎日使用前に注油してください。
①縦送り爪下左・右

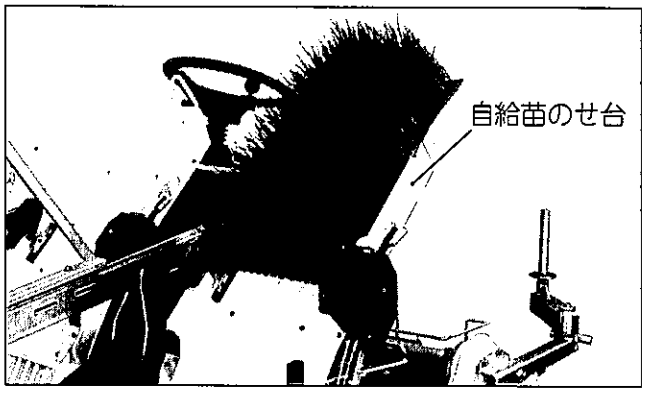


②上下送りバネ軸
苗受を上げた状態にして、手で苗受を下方向に押さえて注油してください。



■苗のセット

植え付け中の苗補給は、自給苗のせ台の苗がなくなったら予備苗台の苗箱を自給苗のせ台へ、まっすぐていねいにのせてください。



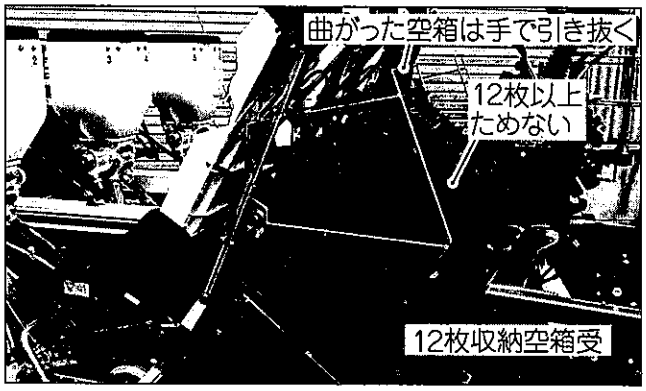
重要

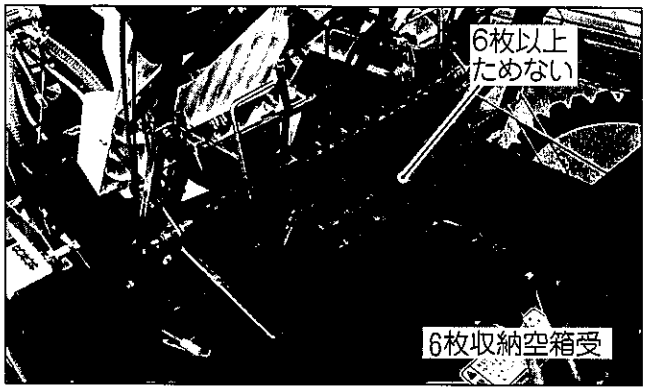
●中植付部はブザーが鳴ってから苗補給すると、前方の見通しが良い状態で作業ができます。

■空箱の取り出し

(1) 6枚収納空箱受には6枚以上空箱をためないでください。また、12枚収納空箱受には12枚以上空箱をためないでください。箱がつまって植付不調・苗箱の破損の原因になります。

(2) 休憩の後で作業を再開する時等で植付部から出てくる空箱に曲りグセがついている時、また部分的に変形・破損した空箱は空箱受への受け渡しが確実でなかったり、きちんと空箱受へ入らない事があります。
このような空箱は直接手で引き抜いてください。

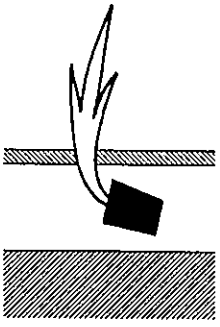




■植え傷みの注意

(1) 次のような条件の時、植え傷み苗になることがあります。このような場合は植付速度を落としてゆっくり作業を行なってください。
- ●貧弱な苗。
- ●根張りが悪い苗。
- ●ガイド板が変形している。（広くなった時）
- ●苗支持板が変形・欠落している。

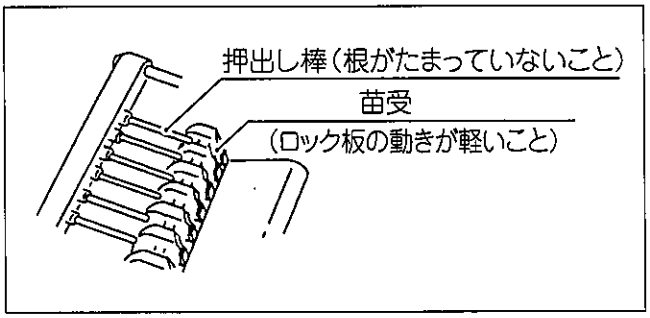
(2) 植付状態を確認しながら作業をしてください。



植え傷み苗

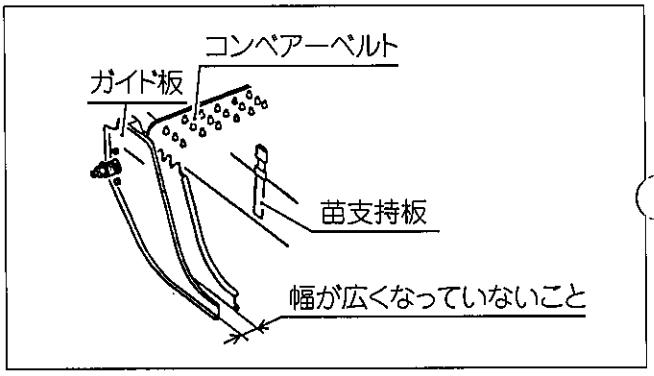
■植付部の水洗い

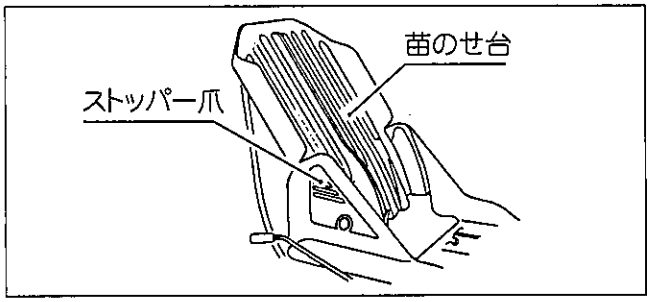
(1)苗受・押出し棒・コンベアーベルト・ガイド板・苗のせ台・縦送り爪・ストッパー爪・空箱ガイド等をよく水洗いしてください。
(2)休憩・食事の時・ほ場を変える時などには必ず洗ってください。

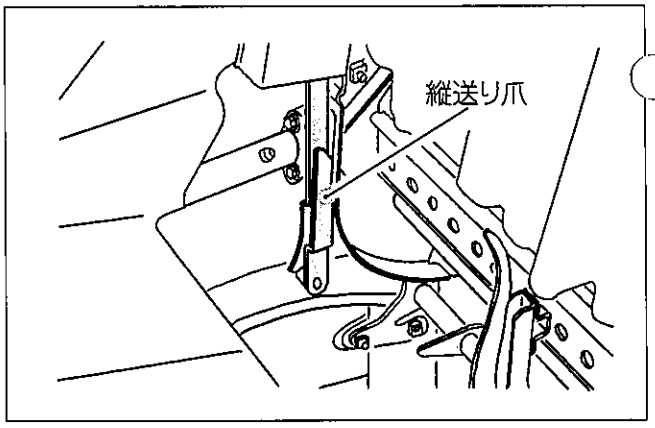


重要

- **ガイド板に泥・異物がつまり幅が広くなると植え傷みの原因となるので、きれいに洗ってください。(変形している場合は修正または交換してください。)**
- **苗支持板を変形させないように注意してください。植付不調になります。**

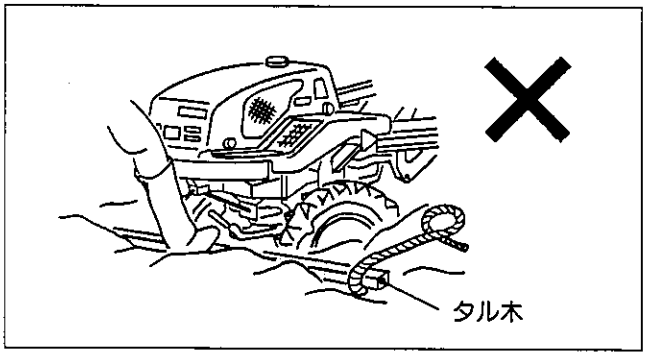


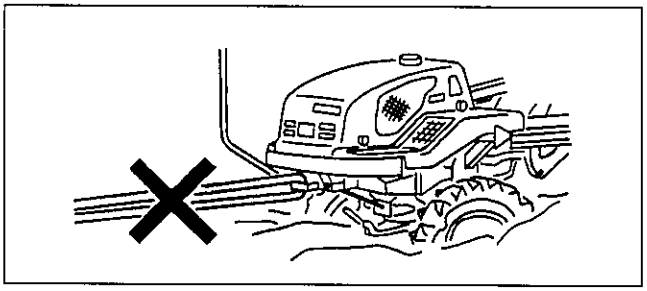




■湿田での脱出のしかた

(1)予備苗を全部降ろして田植機を軽くします。
(2)車輪に負担をかけないよう、油圧レバーを「下」、油圧感度調節レバーを「硬い」にして植付部が常に表土に下りているようにしておきます。
(3)前輪の前の泥をできるだけ除き、ジャッキアップして前輪の下にアユミ板をひき、VS変速レバーを「低」から「高」に繰り返し操作して、ゆっくり自力で脱出させてください。

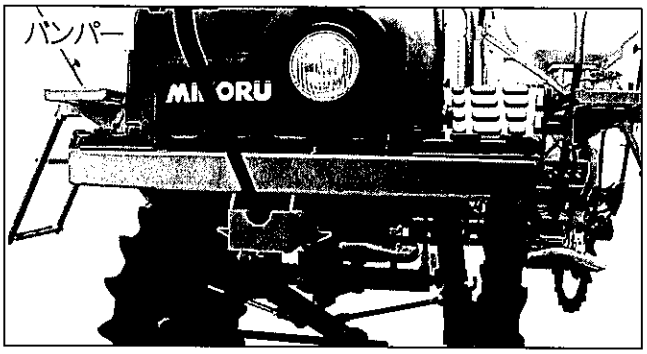


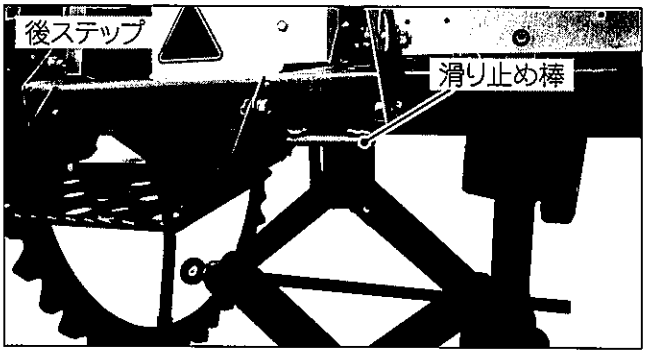


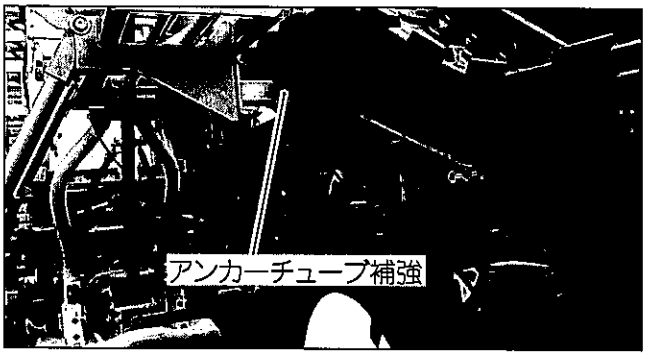
重要

●深いほ場で沈んで前進できなくなった場合は、絶対にトラクター等で引張らないでください。田植機が破損する恐れがあります。

●機体前方のジャッキアップは、バンパー中央1箇所だけでは、変形する恐れがありますので、左右のアンカーチューブ補強等も利用して、無理のないよう注意して引き上げてください。機体後方では後ステップ左右の滑り止め棒の所で行なってください。







保証とサービスについて

■商品の保証

この商品には、保証書が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

■サービスネット

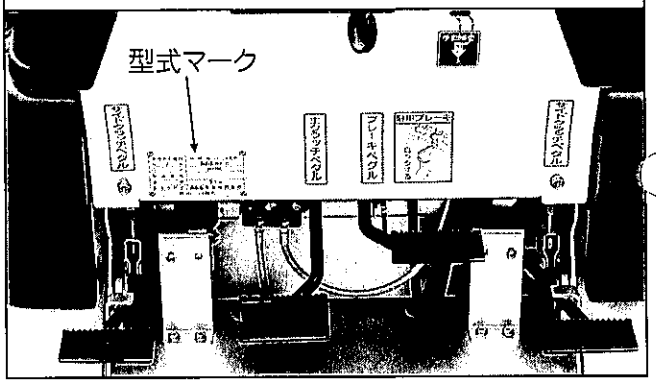
ご使用中の故障や不審な点およびサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた販売店・農協（JA）にお気軽にご相談ください。

その際 **(1) 型式名、区分および製造番号**

(2) エンジン番号

をあわせてご連絡ください。

型式名、区分および製造番号



エ　ン　ジ　ン　番　号



(型式マーク)

農機具の種類	
型　式　名	
区　　分	
製 造 番 号	

区　分	装　置　内　容	
	替 ギ ヤ ー	苗とう載数
RXE60	5,6,11,12	46
RXEH60	1,3,11,12	54

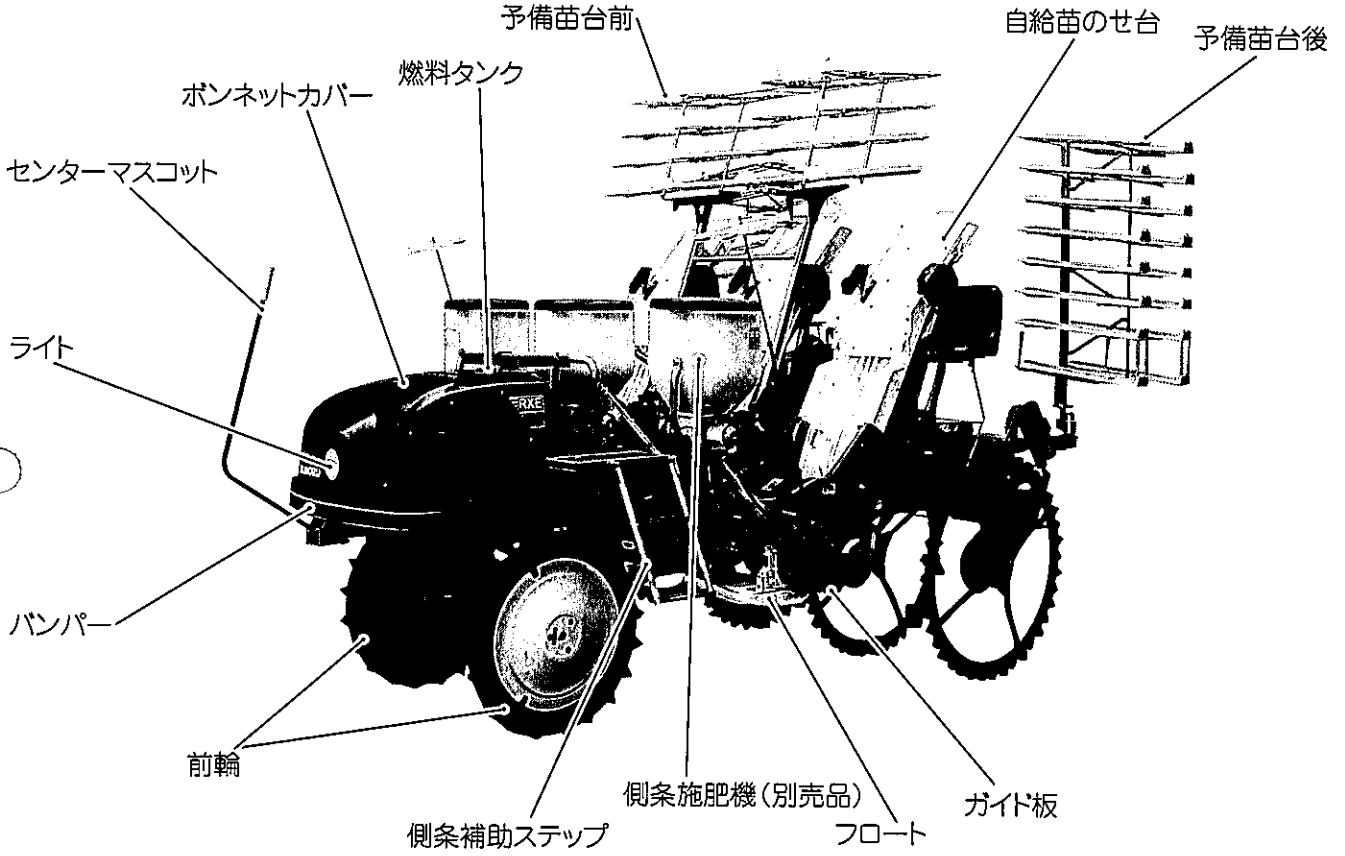
■補修用部品供給年限について

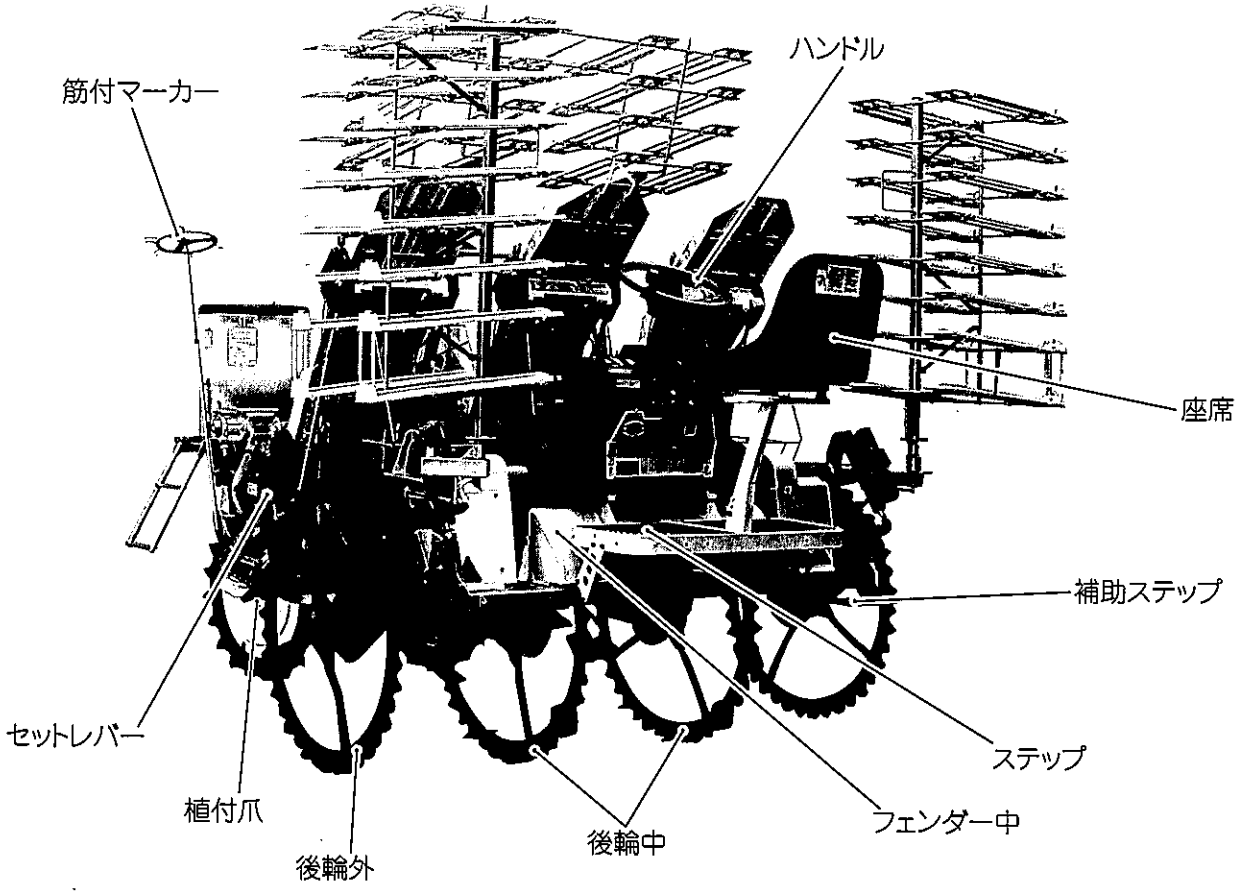
この商品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年といたします。
ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。

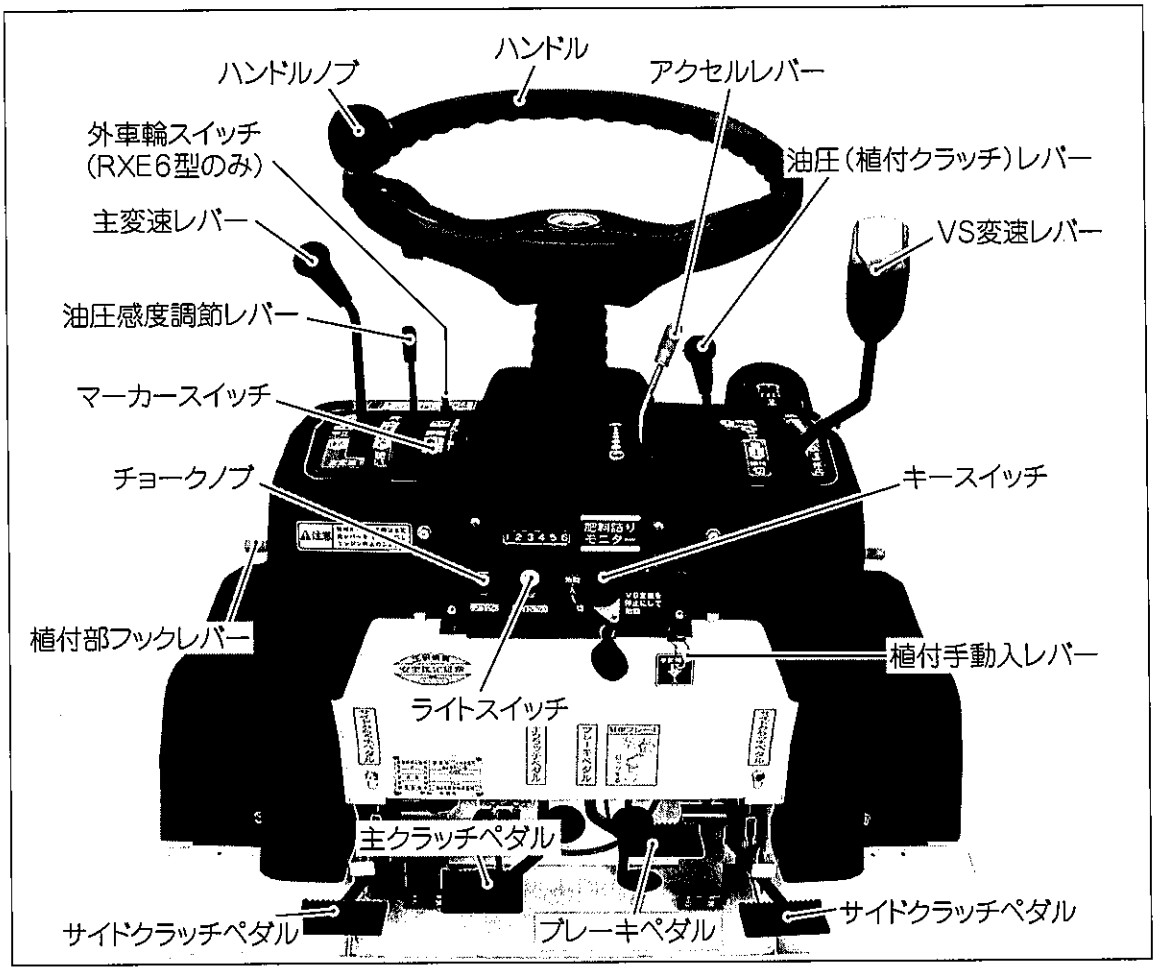
補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

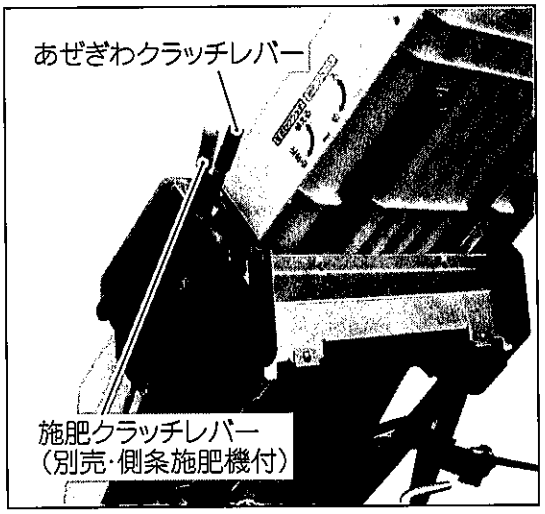
各部の名称とはたらき

各部の名称



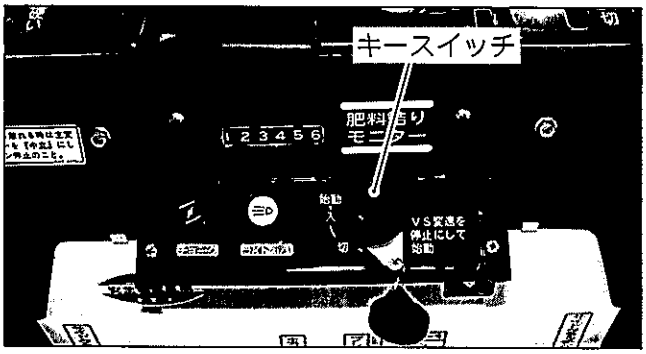



ハンドル
ハンドルノブ
アクセルレバー
外車輪スイッチ
(RXE6型のみ)
油圧(植付クラッチ)レバー
主変速レバー
VS変速レバー
油圧感度調節レバー
マーカースイッチ
チョークノブ
キースイッチ
植付部フックレバー
植付手動入レバー
ライトスイッチ
主クラッチペダル
サイドクラッチペダル
ブレーキペダル
サイドクラッチペダル


あぜぎわクラッチレバー
施肥クラッチレバー
(別売・側条施肥機付)

スイッチ・ランプのはたらき

■キースイッチ



切……エンジンが停止します。
ライト・苗供給ブザー・燃料ゲージ・側条施肥モニターは作動しません。

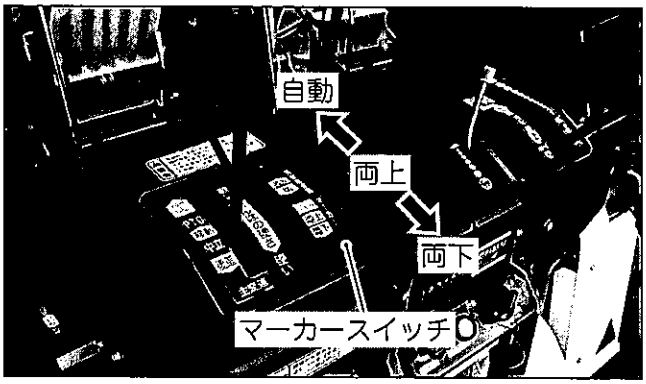
入……エンジンが回転中の位置です。
ライト等の電装品が使用できます。

始動……VS変速レバーを「停止」にしてエンジン始動。
手を離せば「入」にもどります。

重要

- **エンジン回転中はキースイッチを「始動」に絶対に回さないでください。**
- **スターターの作動は1回5秒程度とし、始動しないときは10秒程度休止してから再び操作をくり返してください。**

■マーカースイッチ



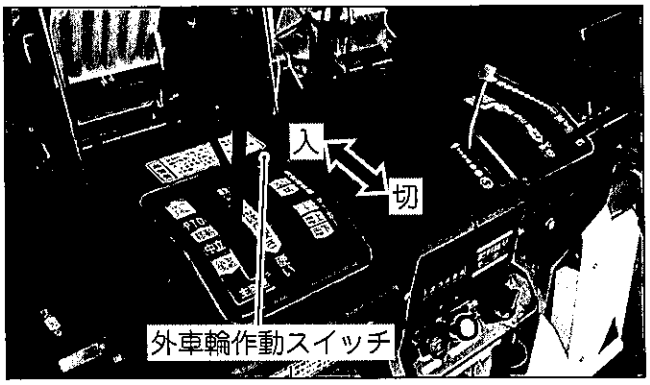
(1) 田植作業中に左右の筋付マーカーを上げ・下げするのに使います。

自動……油圧レバーを「下」にすると片側の筋付マーカーが下がります。筋付マーカーの下げる方向を切り替える時は、油圧レバーを「上」にし、再度、油圧レバーを「下」にしてください。油圧レバーを「上下」操作するたびに、筋付マーカーの下がる方向が交互に切り替ります。

両上……左右両方の筋付マーカーが上がった状態で保持されます。あぜぎわや枕地で筋付マーカーを使用しない場合に使用します。

両下……油圧レバーを「下」にすると左右両方の筋付マーカーが下がります。
油圧レバーを「上」にすると、両方の筋付マーカーが上がります。

■外車輪作動スイッチ



(1) 後輪外車輪で植付した苗を踏み倒したり、旋回時に土が盛り上がる場合に使用します。

入……左側のサイドクラッチペダルを軽く踏むと左外車輪が、右側のサイドクラッチペダルを軽く踏むと右外車輪が約30cm上がり、離すと下がります。

切……①サイドクラッチペダルを踏んでも、外車輪は作動しなくなります。
②外車輪が作動中にスイッチを「切」にすると、任意の高さで止められます。

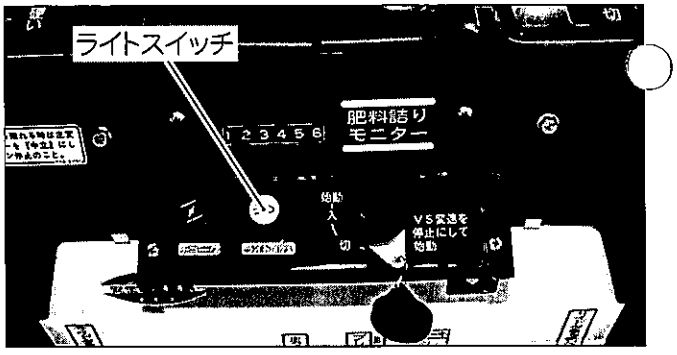
重要

●外車輪を上げると機体が大きく傾くようなほ場では、耕盤を傷めたり、田植機が破損する恐れがありますので、下げた状態で作業してください。

⚠警 告

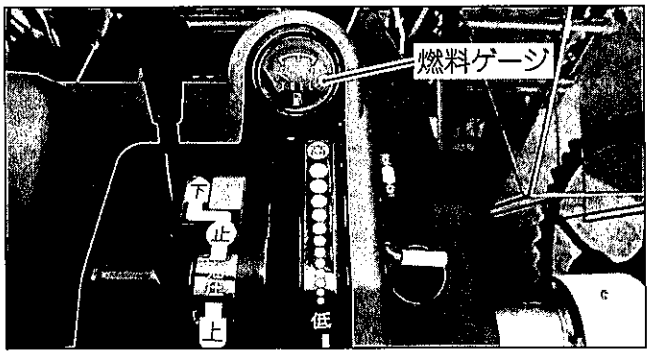
移動時・ほ場への出入りの際は、外車輪が完全に下がった状態で外車輪作動スイッチを「切」にしてください。これを怠ると外車輪が作動して、機械が転倒し、大変危険です。

■ライトスイッチ



(1) キースイッチを「入」にしてから使います。
(2) ノブを引くとライトが点灯します。
ノブを押し込むとライトが消灯します。

■燃料ゲージ

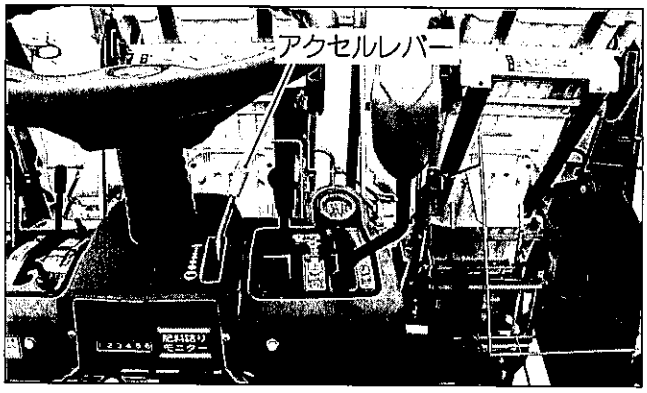


キースイッチが「入」の時に動きます。

レバー・ペダル・シートの取り扱い

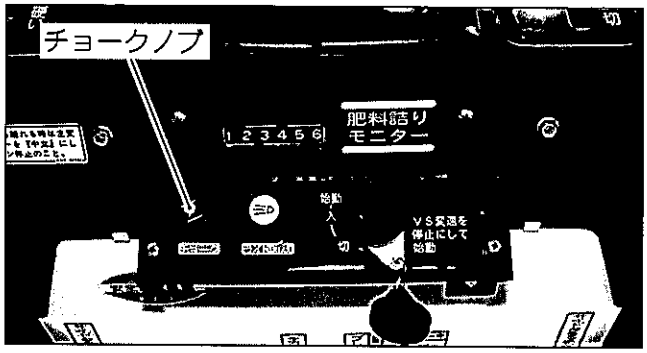
■アクセルレバー

(1) レバーを手前に引くとエンジン回転が上がり前方に押すと下がります。
(2) ほ場条件によるエンジン負荷に応じて、適当位置に固定して使用します。



■チョークノブ

エンジンが冷えている状態で始動する時は、ノブをいっぱい引きます。



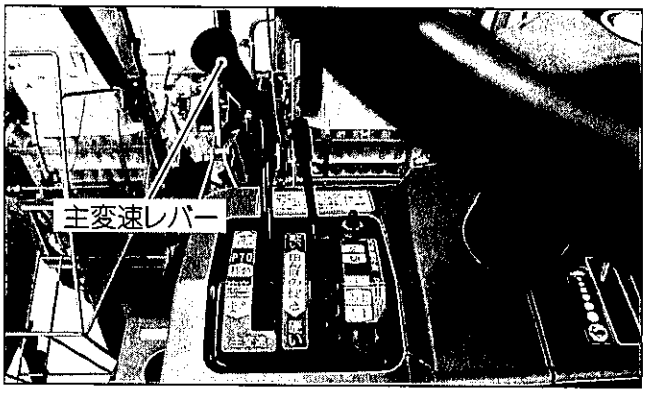
重要

●始動時以外は、使用しないでください。

■主変速レバー

(1) 車速を変更するレバーです。
(2) 前進2段（作業・移動）、後進1段と中立・PTOがあります。

作　業	植付作業時に使用します。
P T O	植付部のみ動きます。
移　動	高速移動時に使用します。
中　立	走行・植付部とも動きません。
後　進	―――



⚠注　意

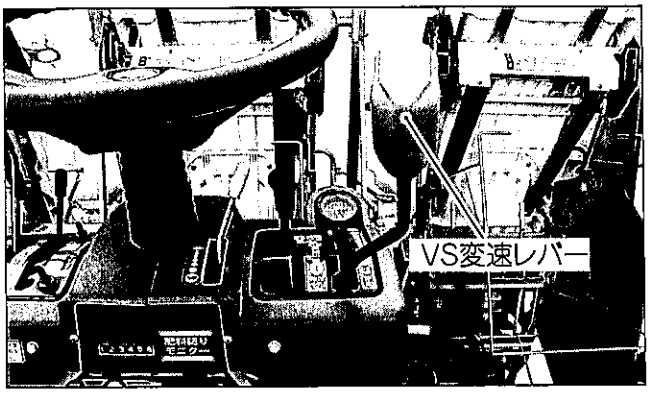
田植機から離れるときは主変速レバーを「中立」に切り替えてください。これを怠ると田植機が自然に動き出し大変危険です。

重要

●主変速レバーの操作は、主クラッチペダルを踏み込むか、VS変速レバーを「停止」にし田植機が完全に停止してから操作してください。走行中に変速するとミッションの損傷につながります。

■VS変速レバー

(1)発進・停止操作ができるとともに、主変速と組み合わせて車速を無段に調節するレバーです。
(2)レバーを前方に押すと発進し増速、手前に引くと減速し、いっぱい引くと停止します。

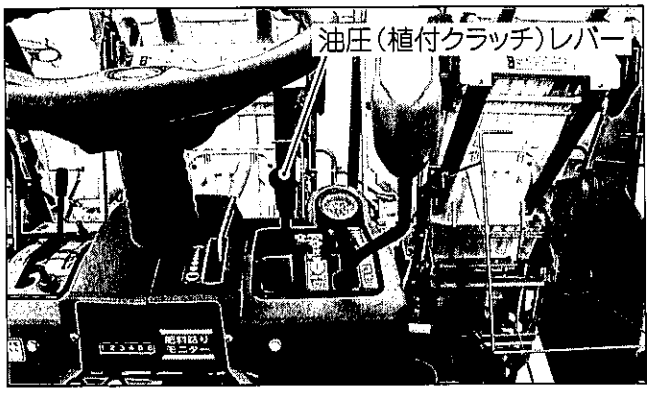


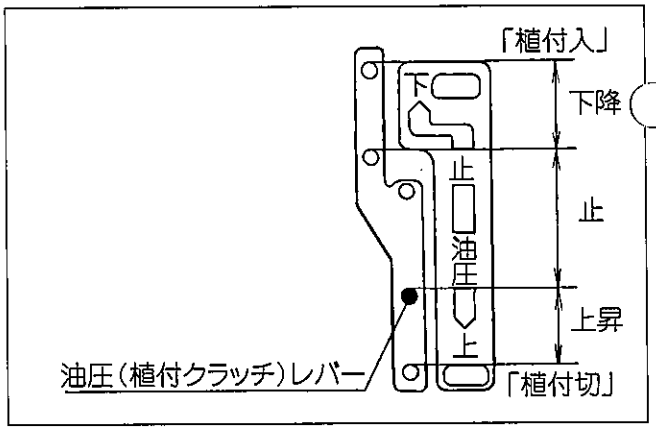
重要

●エンジン始動時はレバーを「停止」にしないと始動しません。
●VS変速レバーは、エンジンに大きな負荷のかかる条件では高速側から自動的に低速側に戻る場合があります。

■油圧（植付クラッチ）レバー

(1)このレバー1本で、植付部の上昇・下降と植付部への動力伝達の断続、および筋付マーカーの上げ・下げができます。
(2)油圧レバーを「下」にすると植付部が下降しフロートが接地すると植付クラッチは自動的に「入」になります。
(3)油圧レバーを「上」にすると植付部が上昇するとともに、植付クラッチは「切」になります。
(4)植付部を上昇中に油圧レバーを「止」にすると、植付部を任意の高さで止められます。
(5)このレバーは苗自動供給のスイッチも兼ねています。油圧レバー「下」の位置でスイッチが「入」となり、油圧レバー「止」、または「上」の位置でスイッチが「切」となります。



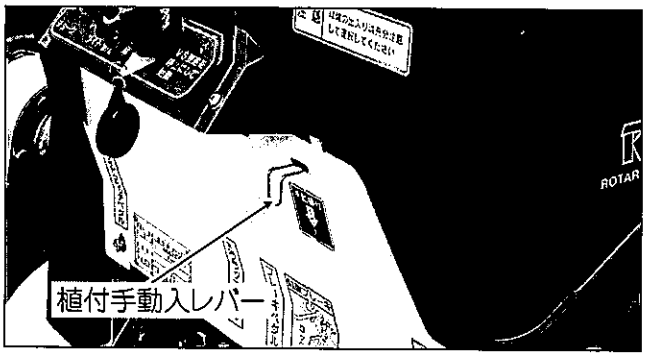


重要

●油圧レバーを「止」にしておいても、植付部がわずかずつ下降することがありますが、性能上さしつかえありません。

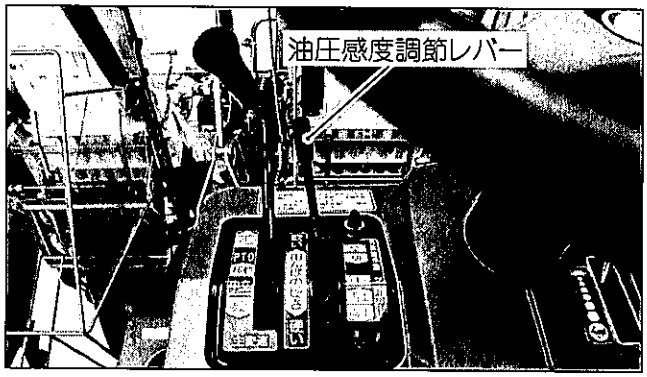
■植付手動入レバー

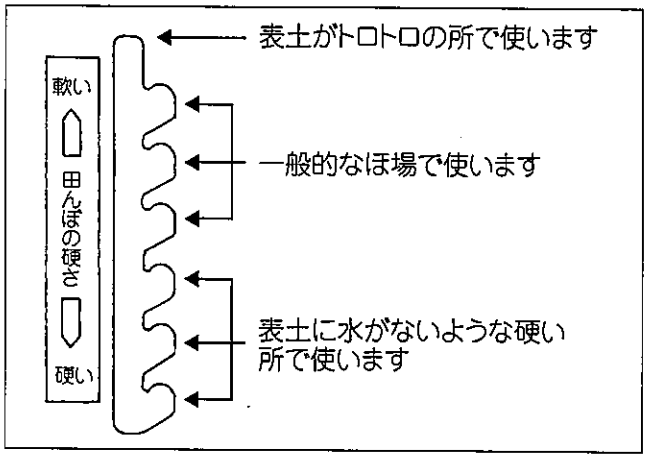
(1) 点検調整時等、フロートを接地させないで植付部を動かす場合に使います。
(2) レバーを引くと植付クラッチが「入」になります。
(3) 植付クラッチを切る場合は油圧（植付クラッチ）レバーを「上」にします。



■油圧感度調節レバー

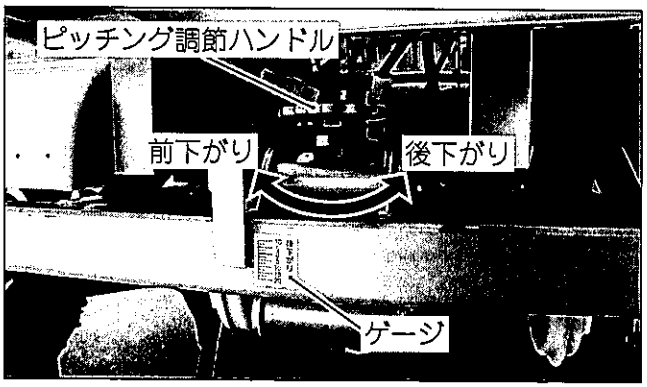
(1) フロートが泥押ししたり、浮き上がりのないように、ほ場条件に合わせて調節します。
(2) レバーを手前にするとフロートがほ場表面を強く押しつけるようになり、前方にするとフロートが浮き上がりやすくなります。





■ピッチング調節ハンドル

(1) ほ場条件によって、植付部の前後姿勢を変えた方が良い場合に、調節するハンドルです。
(2) フロート前部で泥を押したり、フロート後部が浮いて浅植え、ころび苗になる場合はハンドルを左へ回し、植付部の姿勢を後ろ下がりにします。
(3) フロート後部が大きく沈み、油圧自動スイングの感知が鈍くなり深い溝を掘ってしまう場合はハンドルを右へ回し、植付部の姿勢を前下がりにします。
(4) 出荷時は側条施肥機付きの時、ゲージの目盛で後下がり10～15、側条施肥機なしの時、後下がり0～5にセットしていますが、ほ場の条件に合わせて調節してください。

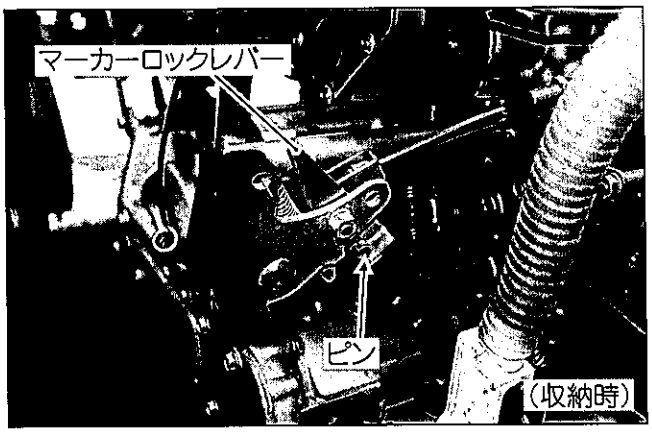


重要

●ピッチング姿勢の調節を行なう時は、植付部を表土から浮かして行なってください。

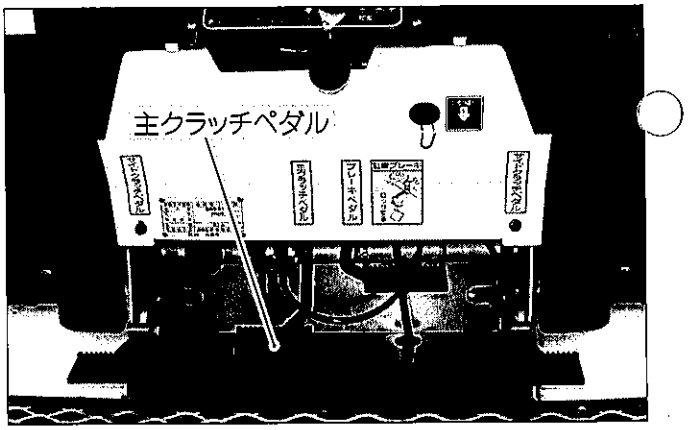
■マーカーロックレバー

移動の時、またはあぜぎわ等の植え付けで筋付マーカーが障害物に当たる恐れのある場合はレバーをロックして使用してください。



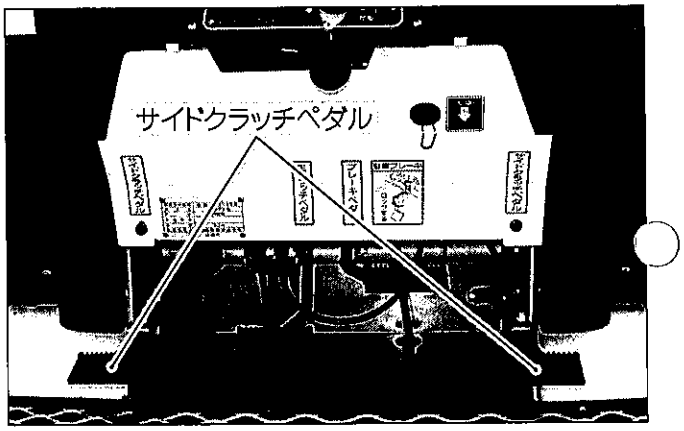
■主クラッチペダル

(1) 主クラッチの断続を行なうペダルです。
(2) VS変速レバーと連動しており、踏むとVS変速レバーが低速側に動いて減速され、踏み込むとレバーが「停止」となりクラッチが切れます。



■サイドクラッチペダル

(1) 左側のペダルを踏み込むと左後輪の、右側のペダルを踏み込むと右後輪のクラッチが切れます。
(2) 旋回する側のペダルを踏み込んでください。

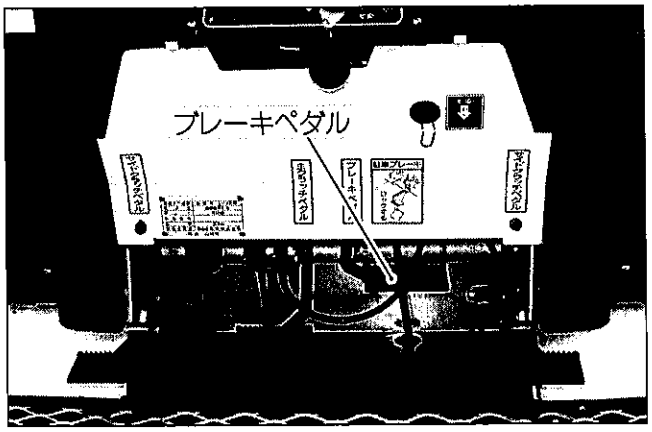


■ブレーキペダル

ペダルを踏み込むとブレーキがかかります。

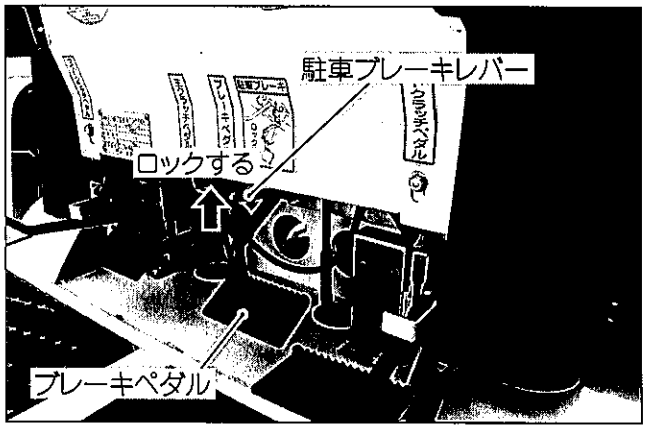
⚠警 告

サイドクラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏まないでください。ブレーキが片ぎきして衝突・転倒事故を引き起こす恐れがあります。



■駐車ブレーキレバー

(1) 田植機を駐停止させておくためのレバーです。
(2) ブレーキペダルを踏み込み、駐車ブレーキレバーでロックします。



⚠注 意

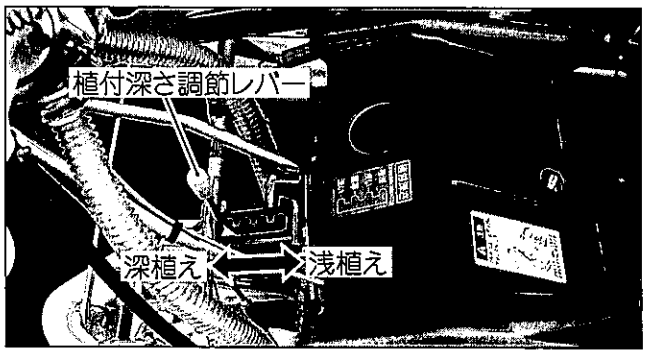
駐車時、停止時には必ず駐車ブレーキを確実にかけてください。
これを怠ると田植機が自然に動き出し大変危険です。

重要

●駐車ブレーキレバーをかけたまま走行すると、田植機の故障の原因となります。

■植付深さ調節レバー

(1) 植付深さを調節するレバーです。
(2) レバーを後の溝にセットすると浅植えとなり、前の溝にセットすると深植えとなります。

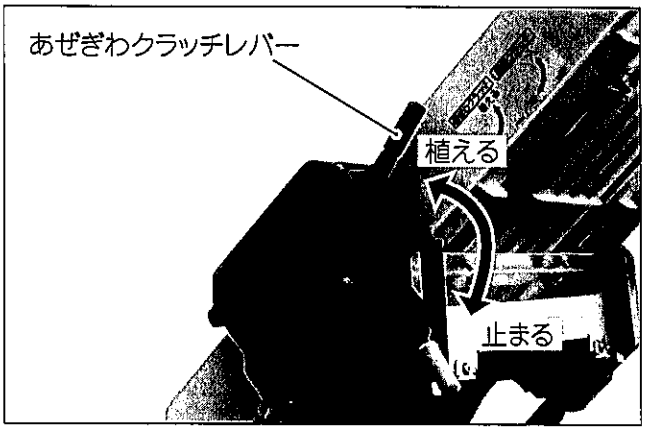


重要

●植付深さは必ず3箇所とも同じ位置にセットしてください。守らなかった場合は自動植付・自動油圧が正常に作動しません。

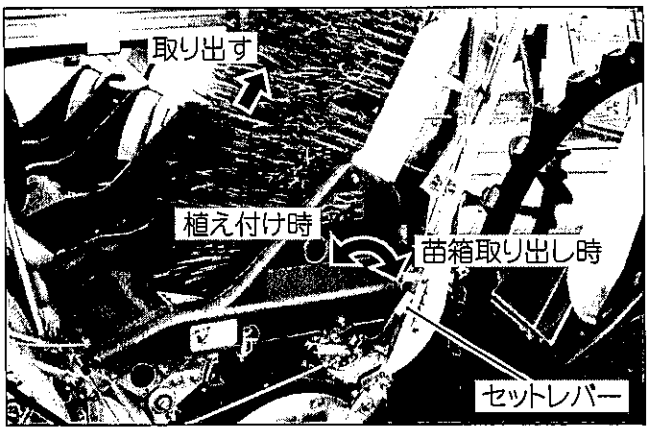
■あぜぎわクラッチレバー

(1) 2条ごとの植付を停止させるレバーです。
(2) 植え終わりとなる前工程で、植付条数の調整や変形ほ場での植付時に使用します。



■セットレバー

(1) このレバーを後方に倒すと、植付中の苗箱を上方向に取り出せます。
(2) また1回だけ前後に動かすと、苗箱を1列ずつ送ることができます。



⚠注 意

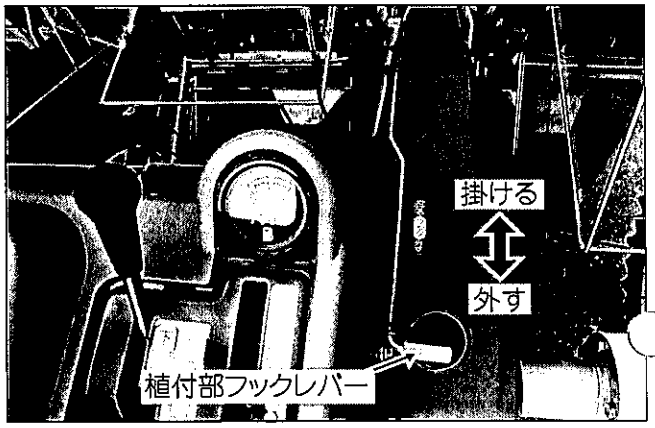
苗箱の取り出しを行う時は、必ずキースイッチを「切」にして行なってください。これを怠ると自動供給のモーターが作動して大変危険です。

重要

●植え付けする時は、確実にレバーを前方に戻してから行なってください。

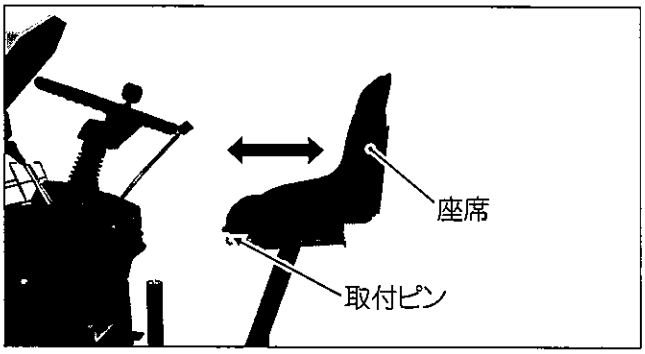
■植付部フックレバー

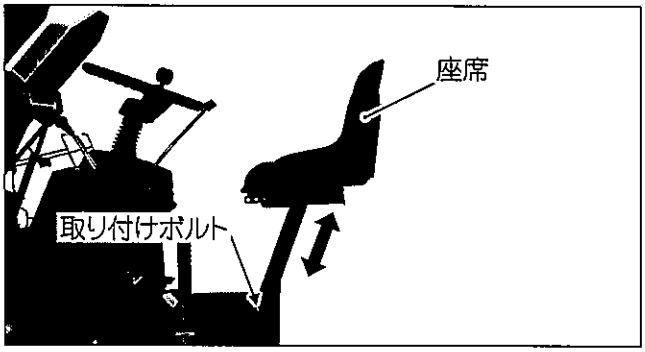
(1) 移動時・点検整備時・保管時等に、植付部が下降しないようにフックを掛けます。
(2) 田植作業時はレバーを外します。



■座席の調節

(1)作業しやすい前後位置になるように、座席の取付ピン位置を変更して調節してください。
(2)作業しやすい高さ位置になるように、ステー元部のボルト位置を変更して調節してください。





作業前点検

故障を未然に防ぐには、田植機の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
始業点検は毎日欠かさず行なってください。

⚠警 告

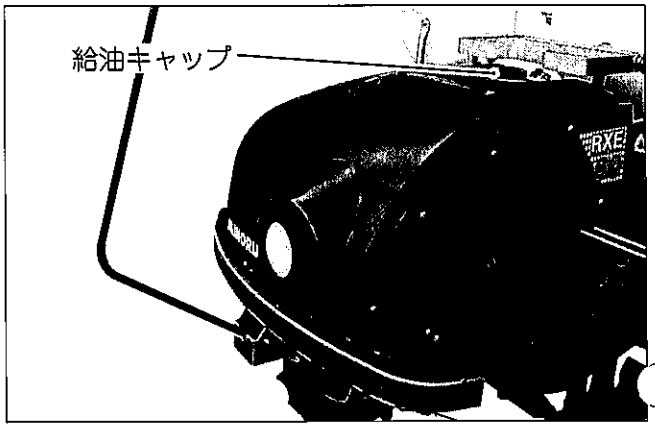
給油・注油および点検整備する時は、次のことを守ってください。
(1) 田植機を平たんな広い場所に置く。
(2) エンジンを停止し、駐車ブレーキをかける。
(3) 植付部を下ろすか、植付部フックレバーで固定する。
(4) エンジンなどの過熱部分を充分冷やす。
(5) くわえタバコなど火気厳禁。
(6) ヘルメット・安全靴・手袋等適正な防護具を着用する。
以上の安全を確認して行なってください。
安全を確認せずに点検整備すると傷害事故を引き起こすことがあります。

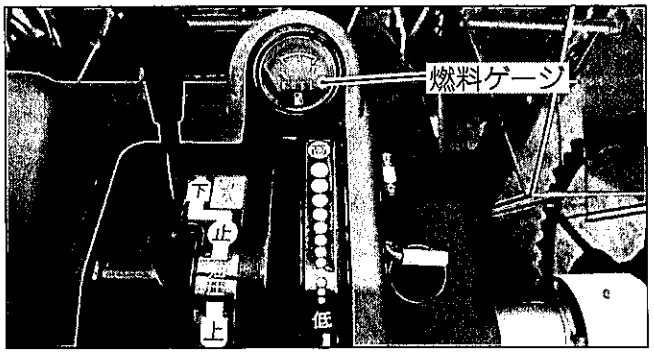
給油・注油箇所の点検と補給

■燃料（無鉛ガソリン）の給油

平たんな場所でエンジンを止め、燃料タンクの給油キャップを外して、必ずストレーナを通して無鉛ガソリンを給油してください。

燃料の種類	燃料タンクの容量
自動車用無鉛ガソリン	約9.0ℓ





⚠危 険

燃料給油時には引火の恐れがありますので、火気を近付けないでください。

⚠警 告

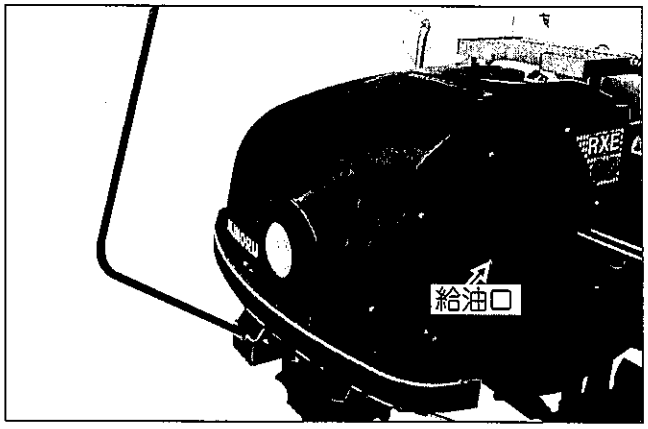
(1)燃料を補給する時は、エンジンを停止し過熱部分が充分冷えてから行なってください。燃料のつぎこぼしなどにより火災の原因になり大変危険です。
(2)燃料をつぎこぼした時は、きれいにふき取ってください。エンジンを始動する時、引火し火災の原因となり大変危険です。

重要

●燃料の保管は樹脂製タンクではなく、市販のガソリン専用容器を使ってください。これを怠ると燃料が変質し、エンジン不調の原因となります。
●燃料は自動車用無鉛ガソリンを必ず使用してください。また、下記のような燃料は使用しないでください。エンジンがかからなかったり、エンジンの不調や故障の原因になります。
○燃料タンク内に1ヶ月以上放置した燃料　○樹脂製タンクに長期間保管した燃料
○ゴミや水など異物の混ざった燃料　○変色のひどい燃料　○くさった古い燃料
●1ヶ月エンジンを始動しないと、燃料は変質し、エンジントラブルの原因になります。
●給油口の燃料こしあみは外さないでください。燃料タンクにゴミなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。

■エンジンオイルの点検と補給

毎日作業前には田植機を水平な所に置き、エンジンオイル量を点検してください。

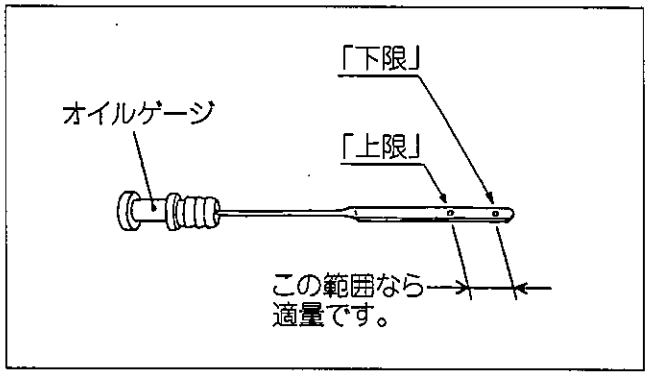


⚠注 意

エンジンオイルの点検・補給は必ずキースイッチを「切」にしてエンジンを停止し、充分冷えてから行なってください。これを怠ると、やけどをする恐れがあります。

●点検と補給

(1) オイルゲージを外し、上限と下限の間に油量があるか調べます。
(2) 「下限」以下の場合は、補給してください。オイルはAPI分類SE・SF級相当のSAE30または10W-30のオイルを使用してください。



オイルの種類	オイル容量
SE級以上　10W-30	約1.2ℓ

重要　●「上限」以上、オイルを補給しないでください。

●交換のしかた

(1) エンジンを暖機運転後、ドレンネジを外してオイルを抜いてください。
(2) ドレンネジを締め付け後、給油口から適量を給油してください
(3) オイルゲージの上限と下限の間に油量があるか調べます。適量入っていればオイルゲージを確実におしこんでください。



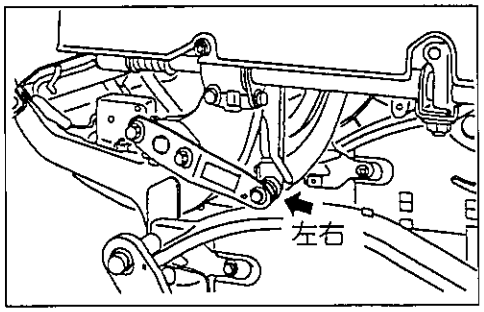
重要

●エンジンオイル補給後は、エンジンを始動させた後、いったんエンジンを停止させてオイルがレベルゲージ範囲内にあることを確認してください。

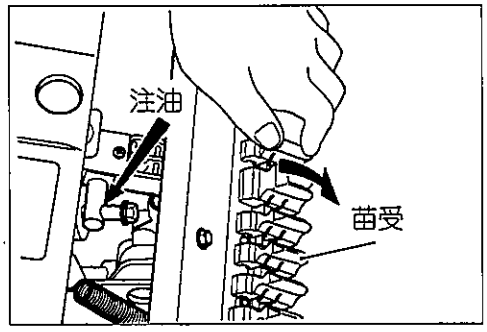
■注油箇所

(1) 次の箇所は毎日注油してください。

①縦送り爪下（6ヶ所）



②上下送りバネ軸（3ヶ所）

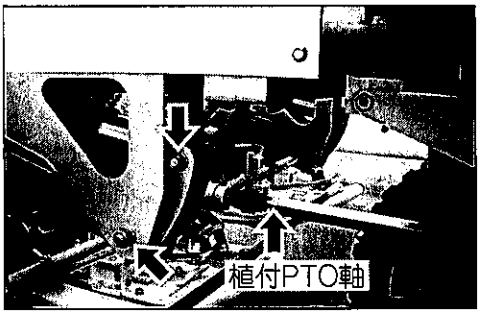


苗受を上げた状態にして、手で苗受を下方向に押さえて注油してください。

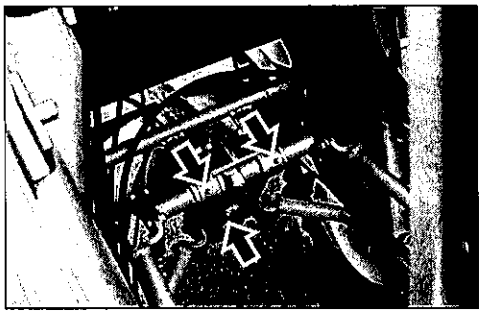
(2) 次の箇所はシーズン毎にグリス・油を注油してください。

①シリンダーピン（4ヶ所）

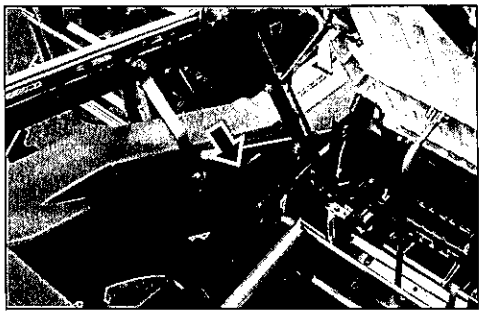
②植付PTO軸（グリス1ヶ所）



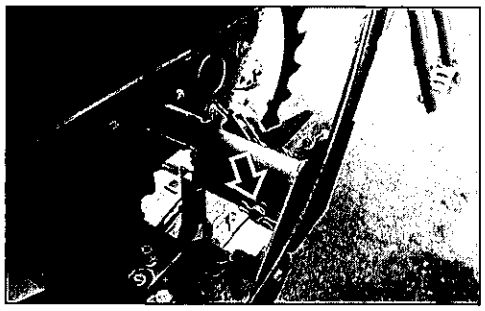
③スイングアームの支点（グリス3ヶ所）



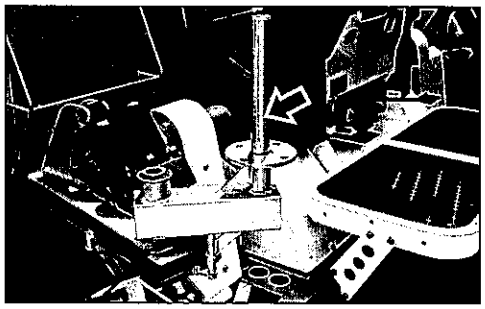
④VSシフターロッド（グリス1ヶ所）



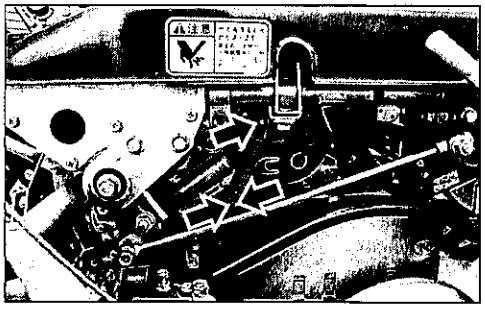
⑤筋付マーカー支点（2ヶ所）



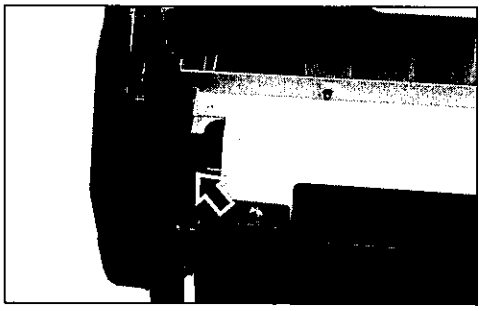
⑥予備苗台支点（グリス2ヶ所）



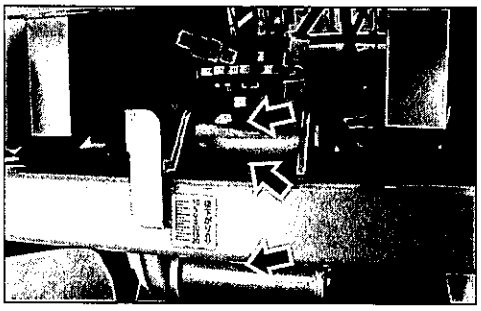
⑦苗受ローラーの外周（グリス3ヶ所）
⑧苗受けローラーバネの両端（グリス6ヶ所）



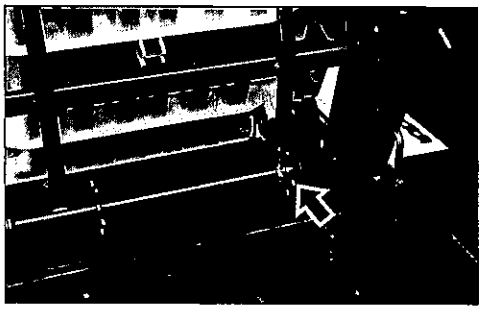
⑨自動供給モーター軸受（3ヶ所）



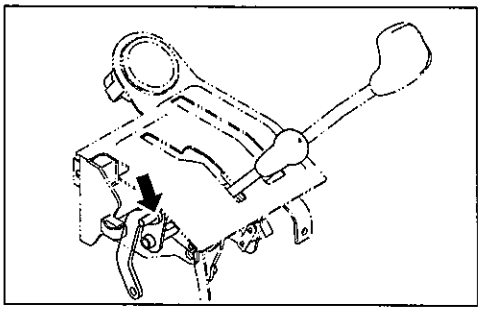
⑩ピッチングハンドル支点部（3ヶ所）



⑪空箱送り軸受部（3ヶ所）



⑫植付レバー座軸（1ヶ所）

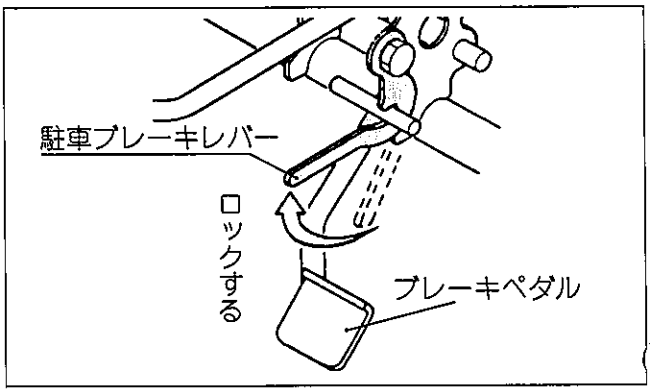


ペダル・レバーの点検

異常がある場合は、販売店に調整を依頼してください。

■ブレーキペダルの点検

ブレーキペダルを15～20kgで押さえた時、駐車ブレーキレバーがかけられるか点検してください。

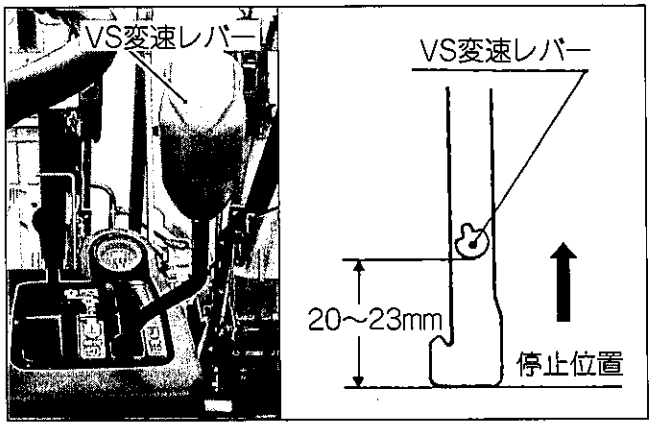


重要

●ブレーキペダルに駐車ブレーキレバーをかけた時、田植機が動かないことを確認してください。

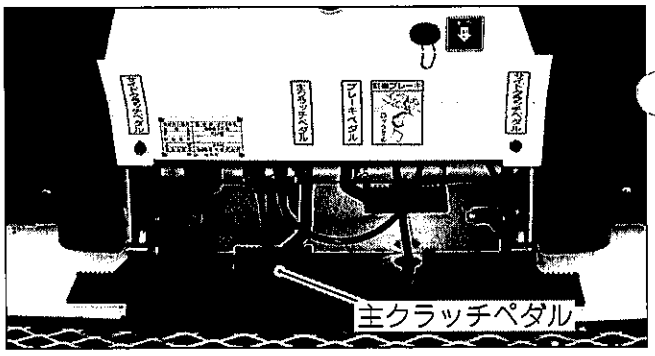
■VS変速レバー・主クラッチペダルの点検

(1) エンジンをかけます。
(2) 主変速レバーを「PTO」にします。
(3) 植付手動入レバーを引いて「入」にします。
(4) VS変速レバーを前方に操作しレバーガイドから20～23mmの範囲で植付部が動き始めるか確認します。
(5) 主クラッチペダルを踏み込んで、VS変速レバーが「停止位置」まで戻り、植付部が停止するか確認します。



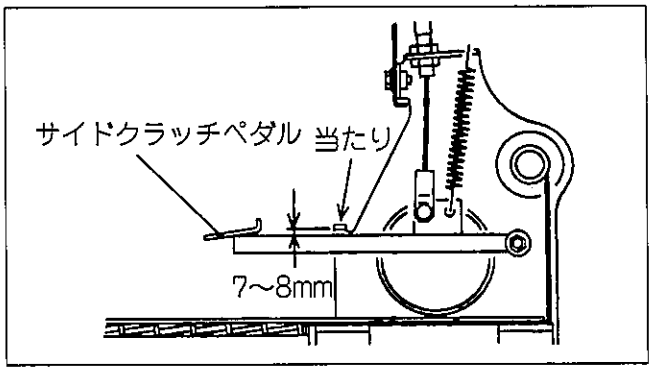
⚠警告

VS変速レバー・主クラッチペダルの点検を怠ると、田植機が停止できず、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。



■サイドクラッチペダルの点検

サイドクラッチペダルを軽く手で押さえた時ペダルと当たりのスキマが7～8mmになっているか確認します。



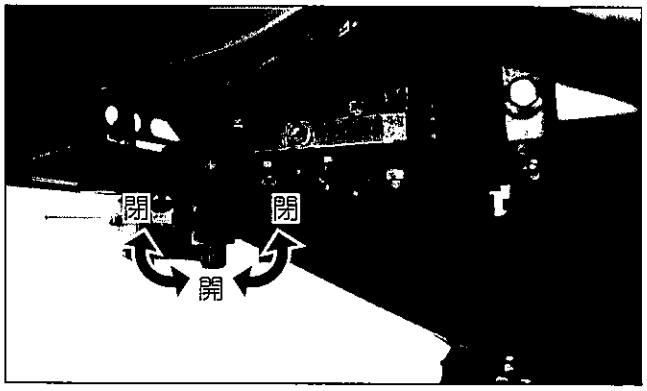
運転のしかた

⚠警 告

(1) 始動する前に安全カバー類が取り付けてあるか確認してください。
(2) 室内でエンジンを始動する時は、窓を開けて換気を充分に行なってください。換気が悪いと排気ガス中毒を起こし大変危険です。
(3) エンジンを始動する時は、必ず座席に座って変速レバーやその他のレバー類の位置と周囲の安全を確認してから行なってください。これを怠ると急発進したりして大変危険です。
(4) エンジンを始動する時は、周囲の人に「声」をかけ合図してください。
(5) ヘルメット・安全靴・手袋等適正な防護具を着用する。

エンジンの始動と停止のしかた

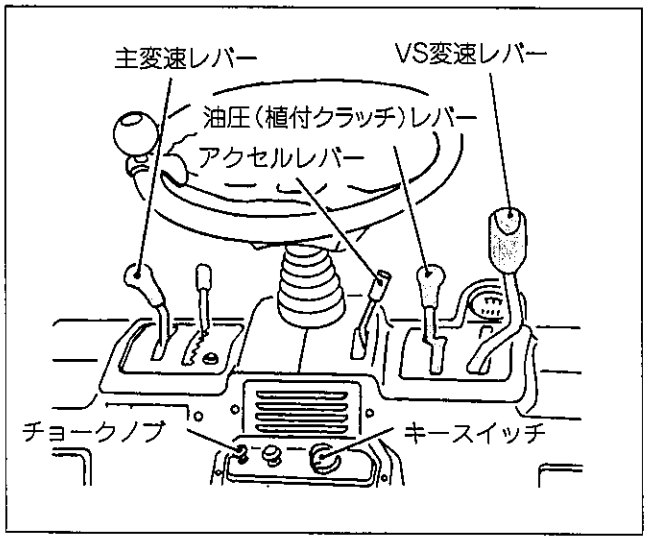
エンジンの始動



(1) 燃料コックを開きます。
(2) 駐車ブレーキがロックされていることを確認します。(24ページ参照)
(3) 主変速レバーを「中立」、VS変速レバーを「停止」にします。

重要

●VS変速レバーを「停止」にしないとエンジンは始動しません。



(4) 油圧レバーを「止」にします。
(5) アクセルレバーを中速程度にセットします。
(6) チョークノブを操作します。
〔エンジンが冷えている状態で始動する時はノブをいっぱい引いてください。〕
(7) キースイッチを「始動」に回します。
(8) エンジンが始動したらただちにキースイッチから手を離してください。
(9) エンジンが始動したらエンジンの回転調子を見ながらチョークノブを徐々に戻します。(「全開」位置) そのまま3～5分間暖機運転をしてから作業を始めてください。

重要

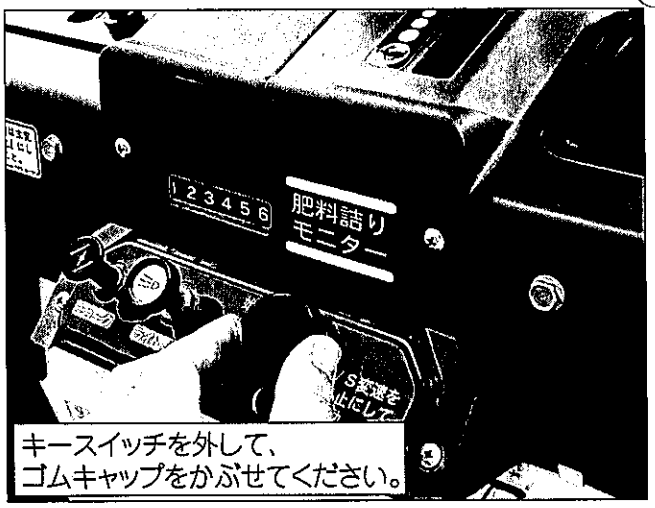
●5秒以内で始動しなかった場合は、キースイッチをいったん「切」に戻して、10秒程度休止してから同じ操作を繰り返してください。
●エンジンが始動しているのにキースイッチを回し続けたり、運転中にキースイッチを絶対に回さないでください。
●燃料キャップのエアー抜きがつまっていると始動不良になりますので清掃してください。
●オイルを各部に充分ゆきわたらせるため、必ず暖気運転は行なってください。始動してからすぐ負荷をかけると、運転部分の焼付きや破損などの故障の原因になります。

■ならし運転について

(1) 新車時の上手な運転操作やメンテナンスが田植機の寿命に影響を及ぼします。新車の田植機は厳重な検査のもとに出荷されていますが、田植機の各部の部品はならし運転されていません。田植機各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で、田植え作業は過負荷にならないよう注意して行なってください。
(2) 毎年使用前には、必ず5～10分程度エンジンを最低回転でならし運転をしてから使用してください。

■エンジンの停止

(1) アクセルレバーを前方に押してエンジン回転を下げます。
(2) キースイッチを「切」にすると1～2秒後にエンジンは停止します。



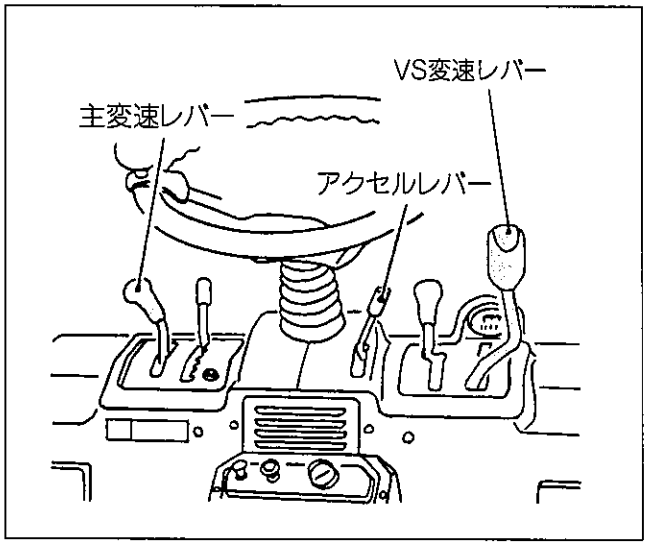
重要

- **エンジンを高速回転のまま停止しないでください。**
- **キースイッチを「入」のまま放置するとバッテリーを放電させてしまいますので、エンジン停止後はキースイッチを外す習慣をつけてください。**
- **キースイッチを外したら必ずゴムキャップをかぶせてください。**
  (特に水洗い・保管時)

発進・停止・駐車のしかた

■発進のしかた

(1) VS変速レバーが「停止」になっていることを確認します。
(2) 走行場所に合わせて、主変速レバーをセットします。
(3) アクセルレバーを中速程度にセットします。
(4) 駐車ブレーキを外します。
(5) VS変速レバーをゆっくり前方へ操作して発進します。特に側条施肥機付の場合は低速走行してください。

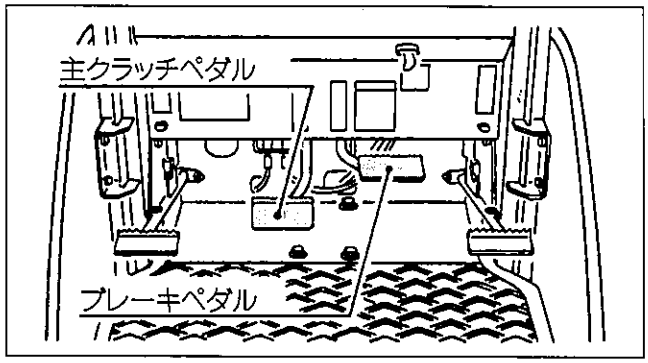


⚠注 意

(1) 始動操作は、必ず運転席で行なってください。
(2) 急発進は危険ですので周囲の安全を確認して、ゆっくりと発進してください。

■停止のしかた

(1) 田植作業・移動とも、通常の停車時はVS変速レバーを「停止」にします。
(2) 急停車する場合は、主クラッチペダルと同時にブレーキペダルを踏んでください。

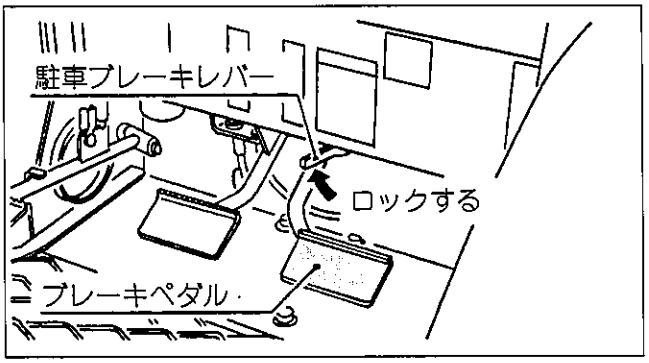


⚠注 意

急ブレーキは危険ですので、緊急時以外はさけてください。

■駐車のしかた

(1) VS変速レバーを「停止」にします。
(2) エンジンを停止します。
(3) 主変速レバーを「中立」にします。
(4) ブレーキペダルを踏み込み駐車ブレーキレバーでロックします。



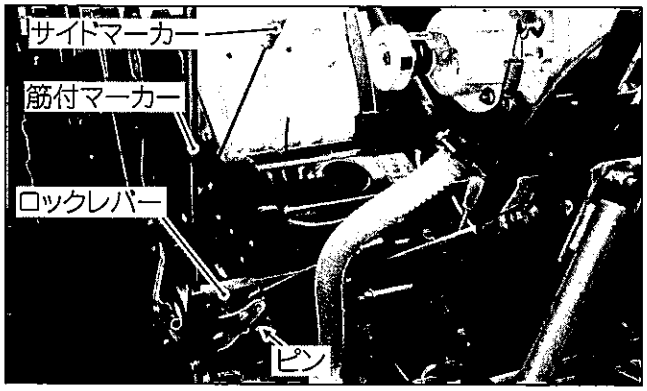
⚠注 意

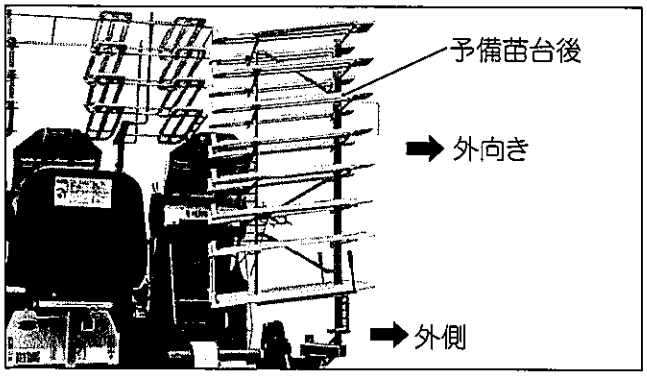
(1) 田植機を離れるときは、平たんで安全な場所におき、植付部を植付部フックで固定し、駐車ブレーキを掛け、エンジンを止めてください。
(2) 坂道で駐車するときは、ブレーキペダルを踏み込み、駐車ブレーキを掛け、木片などで車止めをし、暴走を防いでください。

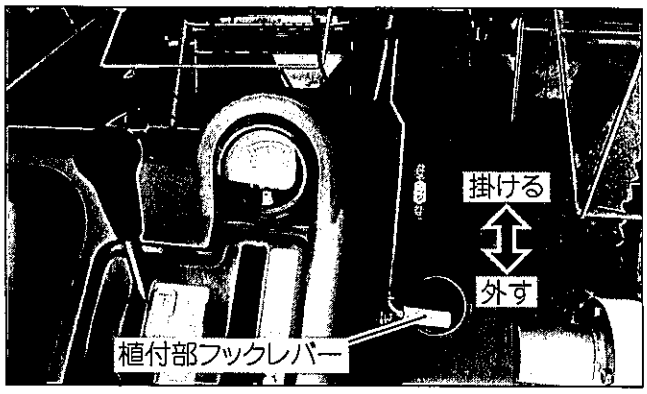
移動・運搬のしかた

■移動のしかた

(1)外車輪が下降位置で外車輪作動スイッチが「切」になっていることを確認します。(19ページ参照)
(2)左右の筋付マーカーをロックレバーで固定します。
(3)サイドマーカーを左右とも収納します。
(4)予備苗台後を左右とも外側外向きにします。(47ページ参照)
(5)油圧レバーを操作して植付部をいっぱいに上げ植付部フックをかけます。(25ページ参照)
(6)側条施肥機付の場合は必ずホッパー内の肥料を抜き取ります。
(7)油圧レバーを「下」にして、左右のフックが確実に掛かっていることを確認します。
(8)移動場所に合わせて、主変速レバーをセットします。
(9)駐車ブレーキレバーのロックが外れていることを確認してからVS変速レバーをゆっくり操作して発進します。特に側条施肥機付の場合は低速走行してください。







⚠警告

(1) 移動する時は、運転者以外は絶対に人をのせないでください。
(2) 移動する時は、エンジン回転を落としVS変速レバーもなるべく低速で行なってください。特に凹凸の激しい場所・地面の軟弱な場所・傾斜地等では慎重に移動してください。

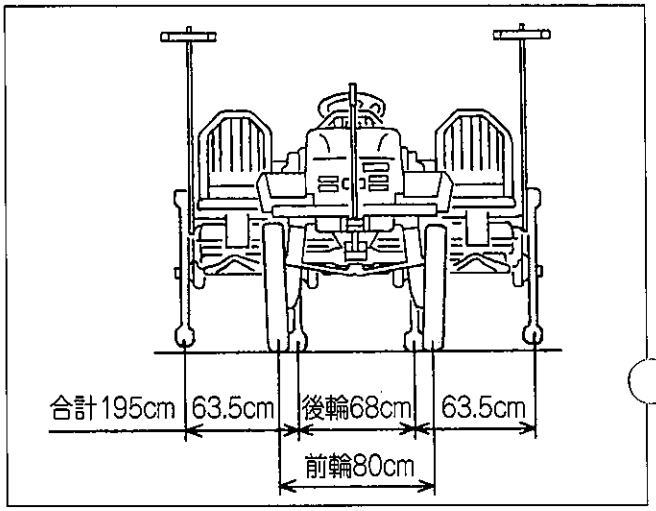
これを怠ると、転倒・転落事故を引き起こす恐れがあります。

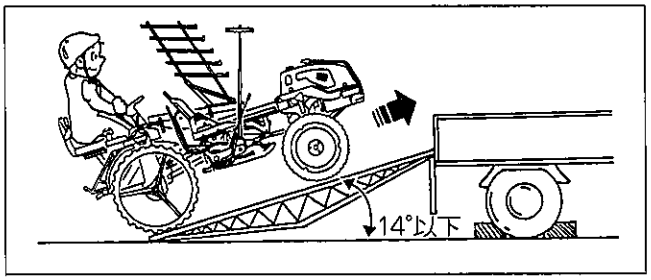
■トラックへの積み・降ろし

⚠警 告

(1) 積み込むトラックのエンジンを停止し、変速は「1速」または「R」に入れて駐車ブレーキを掛け、車輪止めをしてください。
(2) 周囲に危険のない平たんで、地面の固い場所を選んでください。
(3) アユミ板は強度・幅・長さの充分あるスリップしないものを使用し、フックは荷台に段差のないようにまたずれないように確実に掛けてください。
(4) アユミ板を荷台に掛けるときは、段差がなく平行で、左・右のあおりに機体が接触しない位置に合わせてください。
(5) 積み・降ろし作業は誘導者を付けて、周囲の安全を充分確認して行なってください。また、誘導者はアユミ板を走行中の田植機からは離れてください。
(6) アユミ板の途中で急なハンドルの操作や主変速レバーの操作及びブレーキペダルを急に踏み込むと機械が急降下し落下する危険がありますので、操作しないでください。方向を変えるときは、いったん地上又は荷台に戻って方向を修正し、再度上り下りし直してください。
(7) 積み・降ろし中は、主クラッチペダルやサイドクラッチペダルを踏み込んだりしてはいけません。
(8) 荷台上では駐車ブレーキをかけ、車止めをし、ロープでしっかりトラックに固定してください。
以上の確認・注意を怠ると、障害事故の原因となり大変危険です。

(1) 外車輪作動スイッチが「切」になっていることを確認します。(19ページ参照)
(2) 左右の筋付マーカーをロックレバーで固定します。
(3) サイドマーカーを、左右とも収納します。
(4) 予備苗台前が前方定位置でロックされているのを確認します。(25ページ参照)
(5) 左右の予備苗台後を取り外します。
(6) 油圧レバーを操作して植付部をいっぱいに上げ植付部フックを掛けます。(25ページ参照)
(7) 油圧レバーを「下」にして、左右のフックが確実に掛かっていることを確認します。
(8) 主変速レバーはトラックに積み込む時は「作業」、降ろすときは「後進」にセットします。
(9) アクセルレバーを中速程度にセットします。
(10) 直進性を見定めて、VS変速レバーを「低」でゆっくり積み・降ろしします。
(11) 万一積み・降ろしの途中でエンストした場合は、すぐブレーキペダルを踏み込み、徐々にブレーキをゆるめいったん道路まで降ろし、あらためてエンジンを始動してから行なってください。
(12) 万一に備えて田植機の周辺には人を近付けないでください。





〈アユミ板の基準〉

○長さ：車の荷台の高さの4倍以上
○幅　：30cm以上
○数量：2枚
○強度：1枚の強度が900kg以上
○すべり止めのあるもの

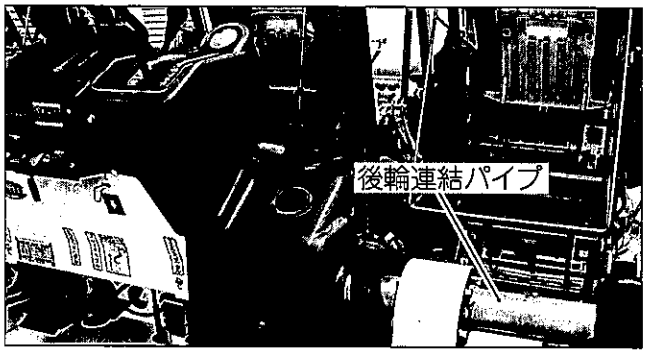
■本機の吊り上げかた

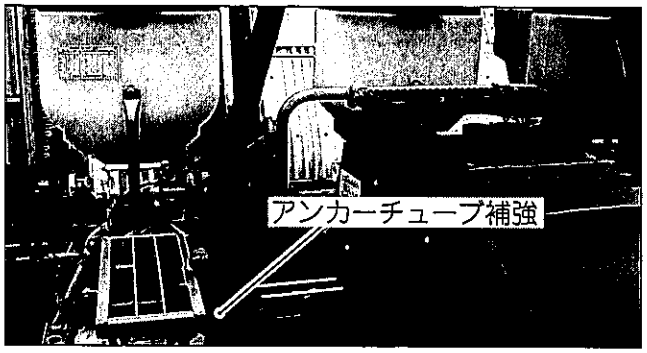
(1)本機を吊り上げる時は、エンジンを停止し左右の予備苗台後を取り外してから行なってください。

(2)機体後部は後輪連結パイプの内側に、機体前部はアンカーチューブ補強の角パイプに、それぞれしっかりとベルトを固定して吊り上げてください。

(3)ベルトの長さは固定部から集合部までの長さをできるだけ長く（2.5m以上）とって、機体に無理な力が加わる事のないように、又機体が水平になるようにベルト長さを調節して吊り上げてください。

(4)ベルトの強度は1本が900kg以上のものを使用してください。



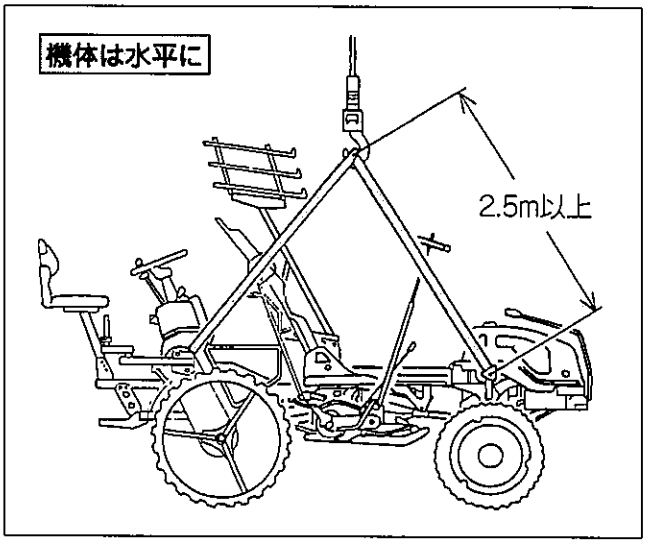


⚠警 告

(1) 吊り上げ作業を行なう時は、エンジンを停止し左右の予備苗台後を取り外してから行なってください。

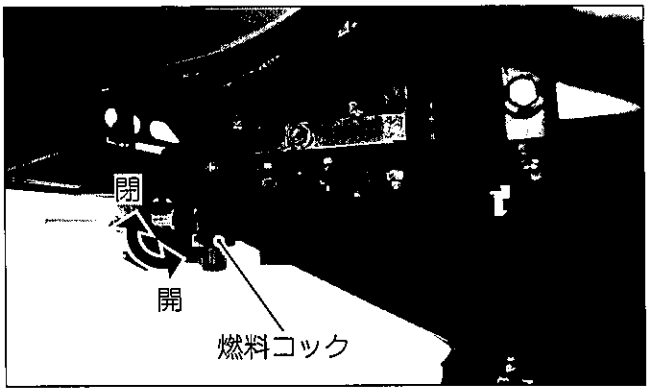
(2) 吊り上げ作業中は機械の上下及び周囲に人を近付けないでください。

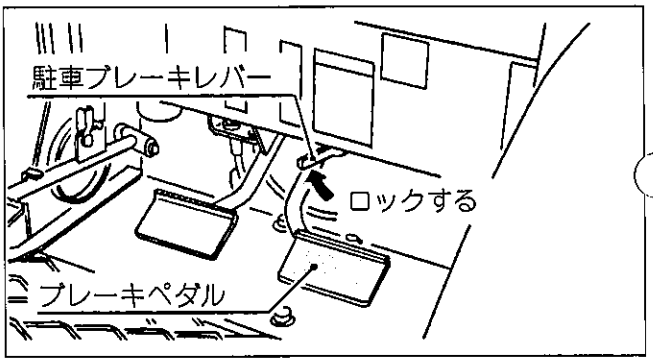
以上の確認・注意を怠ると、思わぬ傷害事故の原因となり大変危険です。



■運搬中の固定のしかた

(1) エンジンを止め、燃料コックを閉めます。
(2) 後輪を車の後部に引きつけて、ロープで固定します。
(3) 前輪をロープで固定します。
(4) フロートの下に敷物を置いて植付部を下ろし、植付部が跳ね上がらない程度にロープ掛けします。
(5) 筋付マーカーをヒモ等で固定します。
(6) サイドマーカーを左右ともヒモ等で固定します。
(7) 主変速レバーを「中立」にします。
(8) ブレーキペダルを踏み込み駐車ブレーキレバーでロックします。



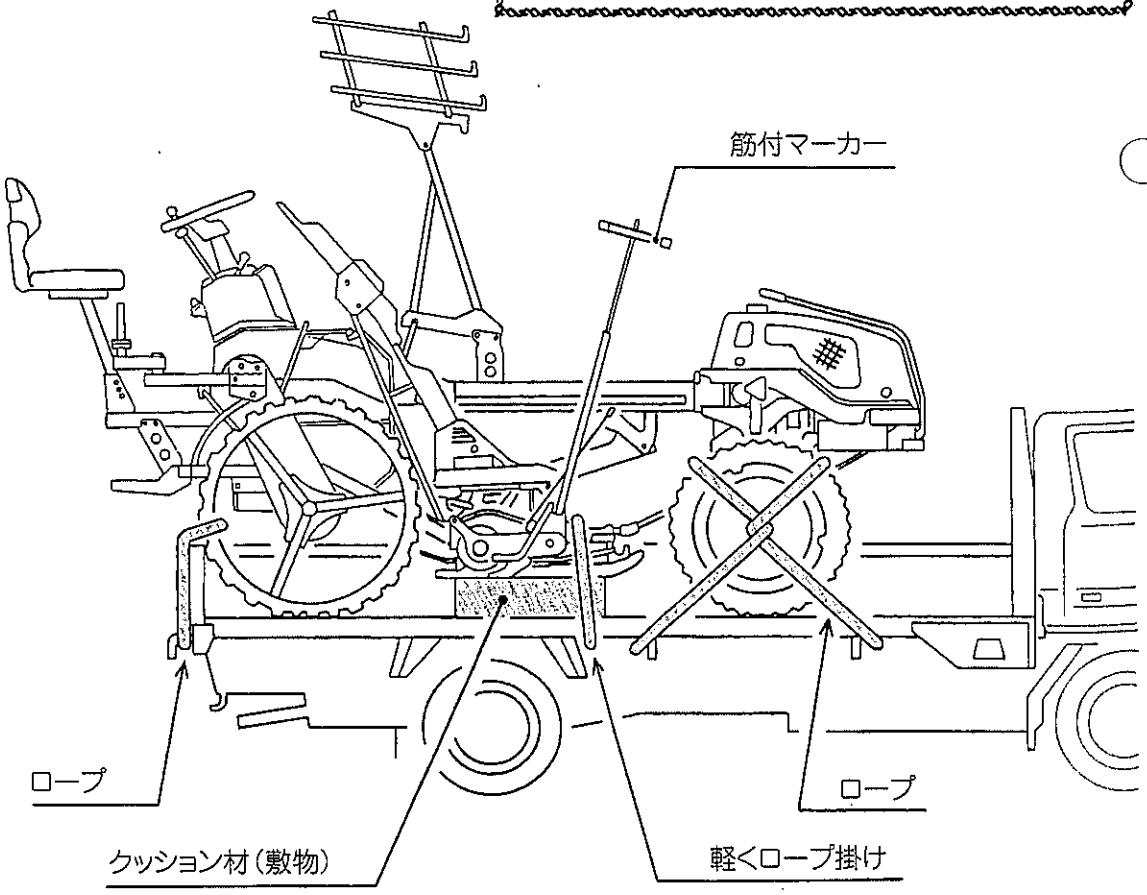


重要

- **植付部は強い力でロープ掛けしないでください。**
- **悪路はゆっくりと運搬してください。**
- **側条施肥機付の場合、必ずホッパー内の肥料を抜いてください。守らないと肥料がホッパー内で固まり施肥ムラになったり、駆動ワイヤーが切損したりする恐れがあります。**

⚠注 意

燃料コックを閉じないと、トラック輸送時に燃料もれの原因になり危険です。必ず閉じてください。

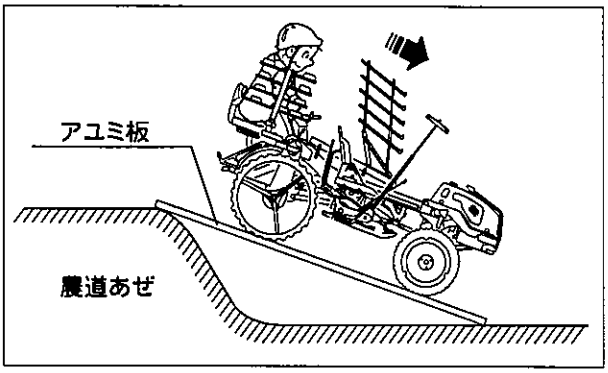


ほ場への出入りのしかた

⚠警 告

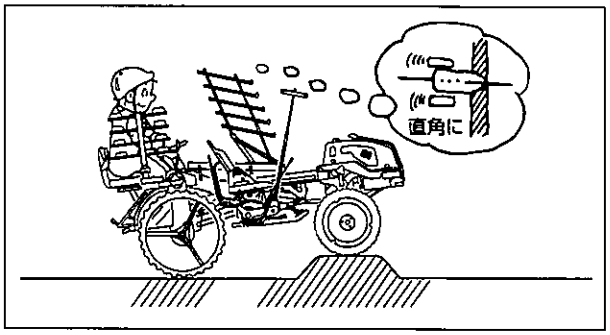
(1) ほ場との高低差が大きい時は、アユミ板を使用してください。
(2) 予備苗台および苗のせ台には苗をのせないでください。また田植機に荷物を積まないでください。
(3) 外車輪が完全に下がった状態で外車輪作動スイッチを「切」にしてください。

これを怠ると思わぬ事故の原因となり、大変危険です。



■ほ場への入りかた

(1)植付部を植付部フックに掛けて行ないます。
(25ページ参照)
(2)主変速レバーを「作業」にセットして前進でゆっくりとほ場に入ってください。



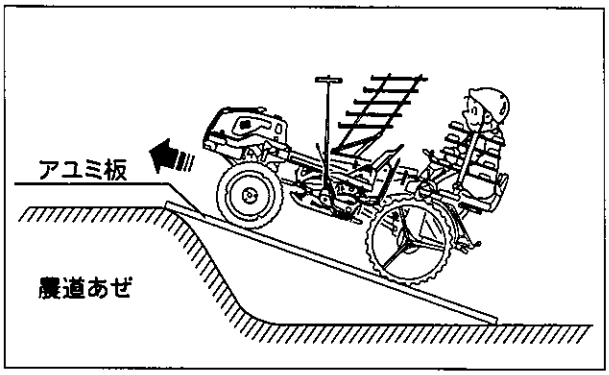
⚠警 告

ほ場への出入りやあぜごえをする場合には、アクセルレバー・VS変速レバーを低速にして必ずあぜに直角にゆっくり進んでください。

斜めになるとスリップや横転の原因になり、大変危険です。

■ほ場からの出かた

(1)植付部を植付部フックに掛けて行ないます。
(25ページ参照)
(2)主変速レバーを「作業」にセットして前進でゆっくりとほ場から出てください。



作 業 の し か た

本田植機が使用できる耕盤の深さは40cmまでです。

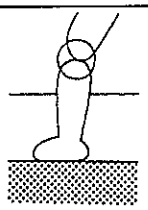
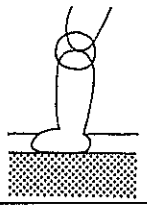
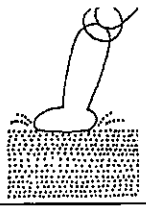
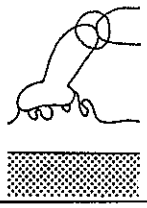
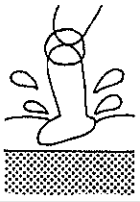
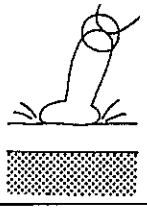
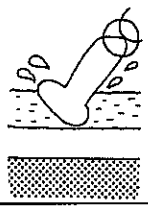
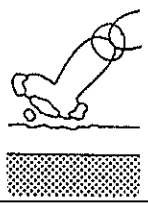
泥炭地・基盤整備田等で本田植機が沈むような耕盤の不安定な悪条件のほ場では使用できなかったり、田植機の早期破損の原因となります。また、本田植機の特性をよく知って、それにできるだけ合わせた苗およびほ場の準備をしていただくことが大切です。

ほ場と苗の準備

本田植機が使用できる耕盤の深さは40cmまでですが、ほ場の条件、苗の条件が良くなければ植付け作業が行なえないことがあります。
次のような条件が予想される場合は事前に購入先にご相談ください。

■ほ場の準備

ほ場づくりは、作物の種類・植付時期・土地条件（気候や風土）などの条件によって異なりますので、最寄の指導機関（JA［農協］や普及センターなど）や経験者に相談して、作物に適したほ場づくりをしてください。

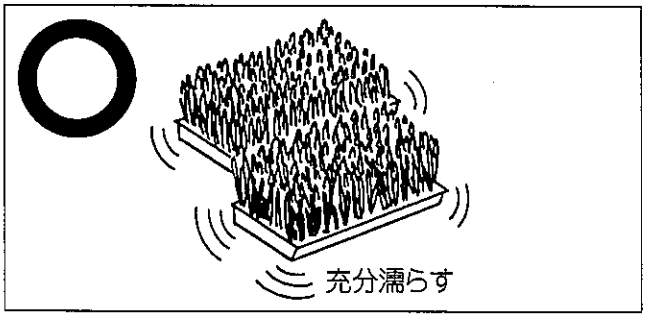
項目	条件(うまく使えないこともある状況)			
深さ		①耕盤までの深さが30cm以上ある深いほ場。		②耕盤までの深さが10cm以下の浅いほ場。
土質		①砂質の多いほ場(手植えでも植えにくいほど硬いほ場)。		②強粘土質のほ場 (歩くのが困難な粘いほ場)。
硬さ		①代かき直後のほ場、又は代かき後いく日たっても固まらないトロトロの軟らかいほ場(歩いても足跡がすぐ埋まるようなほ場)。		②代かき後、日数がたって硬くなったほ場、又は代かき後すぐに固まるほ場(手植えするにも指が痛くなるような硬いほ場)。
水深		①水深の平均が3cmを超える水の多いほ場。		②水気がなく、車輪に泥がまつわりつくようなほ場。
夾雑物		①裏作跡などで、刈り株・排わら又は雑草が充分腐らず、代かき後も表面に多量に露出しているほ場。		

■苗の準備

重要

● **苗は使用する前に必ずあぜぎわなどの水のある所につけて、ポットの中に水が充分浸透するまで濡らして植え付けを行ないます。特に根張りのよい苗は、充分つけておきます。**

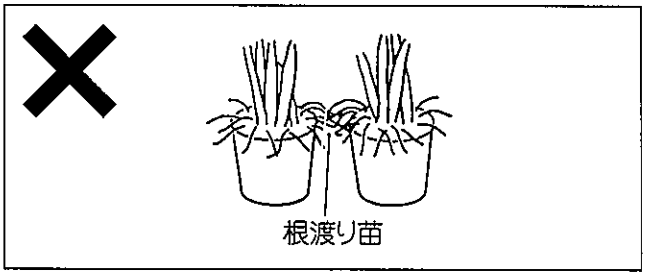
濡らして使用することが絶対条件ですが、非常に根張りの悪い場合や、ポットがくずれやすい土を使用している場合は、濡らしかたに注意してください。



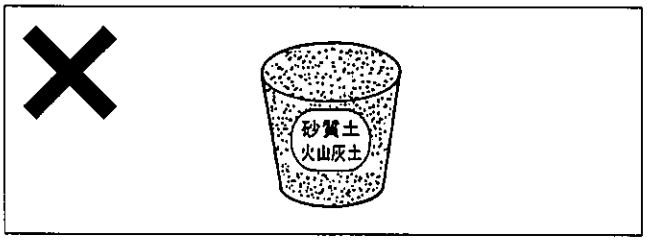
● **無代掻き田植えには、慣行代掻き田植えよりもポットのくずれにくい苗が必要です。植付不良の原因となります。**

● **特に次のような苗では、田植機による植え付けができない場合があります。**

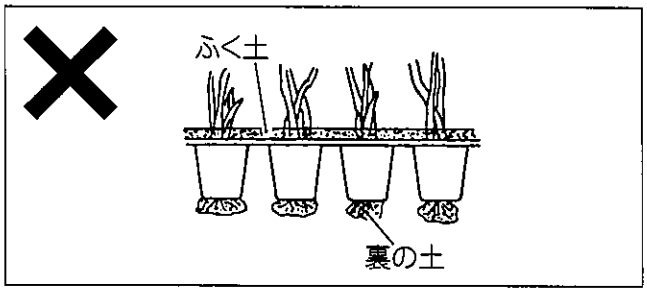
①根渡り苗は植え付けできないこともあります。



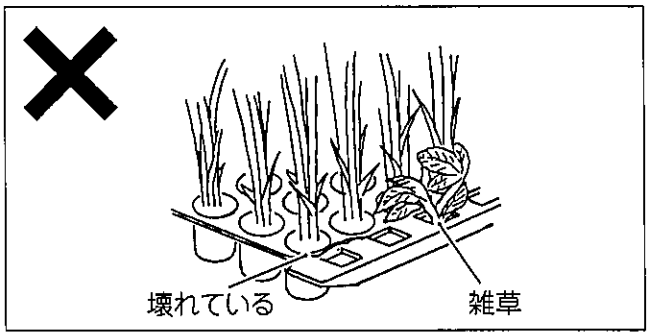
②砂質土・火山灰土、このような土を使用しますとポットがくずれやすく、植付不調となります。



③苗箱の上面に余分のふく土をかけないようにまた、必ず根切りネットを使用して育苗してください。余分なふく土や裏の土は洗い流してから使用してください。守らないと苗が植付部へ送り込まれなかったり、空箱ガイドで空箱がつまって苗箱が破損したり、連続欠株となる場合があります。

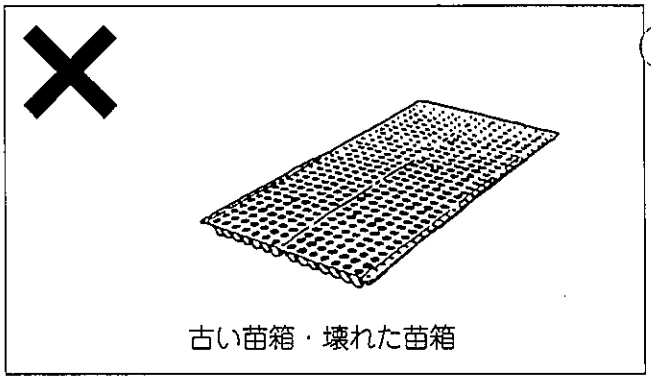


④箱のふちや角穴が壊れている苗箱は使わないでください。また、苗箱の角穴が土や雑草でふさがっている場合は取り除いてください。守らないと苗が植付部へ送り込まれなかったり、空箱ガイドで空箱がつまって苗箱が破損したり、連続欠株となる場合があります。



⑤苗取り・運搬・苗の補給時などには、特に苗箱の角や耳部を破壊させないように取り扱いには充分注意して行なってください。

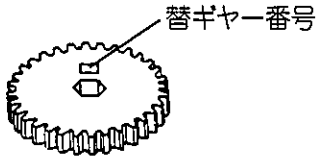
⑥10年以上経過した古い苗箱や新しくても保管状態のよくない苗箱は材質がもろくなっています。苗供給時、苗箱送り時に破損して苗箱の送りができなくなり連続欠株の原因となります。
古い苗箱は計画的に新しい苗箱に更新するようにしてください。


古い苗箱・壊れた苗箱

植付作業前の準備

■植付株間の決めかた

替ギヤーの交換と切替ピンの位置により植付株間が変更できます。□印が標準付属品で調節できる株間を示し、その他の株間は注文部品（84ページ参照）が必要となります。



●RXE60型の場合〔内地仕様〕

出荷時株間

株間 (cm)		12.4	13.2	14.1	13.0	13.8	14.7	14.5	15.5	16.5	15.7	16.8	17.9	20.7	21.9	23.4	24.9	26.5	28.2
植付株数 (株/3.3㎡)		83	77	72	77	72	67	72	67	63	63	59	56	48	45	44	40	38	36
苗箱数 (10a当たり)		56	52	48	52	48	45	48	45	42	42	40	38	32	31	30	27	26	24
替ギヤー番号	後	3			3			12			11			5			4		
	前	10			1			11			12			6			8		
切替レバー	前	●			●			●			●			●			●		
	中		●			●			●			●			●			●	
	後			●			●			●			●			●			●

替ギヤー11、12は本機に装着、替ギヤー5、6は工具袋に入っています。

●RXEH60型の場合〔北海道仕様〕

出荷時株間

株間 (cm)		12.4	13.2	14.1	13.0	13.8	14.7	14.5	15.5	16.5	15.7	16.8	17.9	20.7	21.9	23.4	24.9	26.5	28.2
植付株数 (株/3.3㎡)		83	77	72	77	72	67	72	67	63	63	59	56	48	45	44	40	38	36
苗箱数 (10a当たり)		56	52	48	52	48	45	48	45	42	42	40	38	32	31	30	27	26	24
替ギヤー番号	後	3			3			12			11			5			4		
	前	10			1			11			12			6			8		
切替レバー	前	●			●			●			●			●			●		
	中		●			●			●			●			●			●	
	後			●			●			●			●			●			●

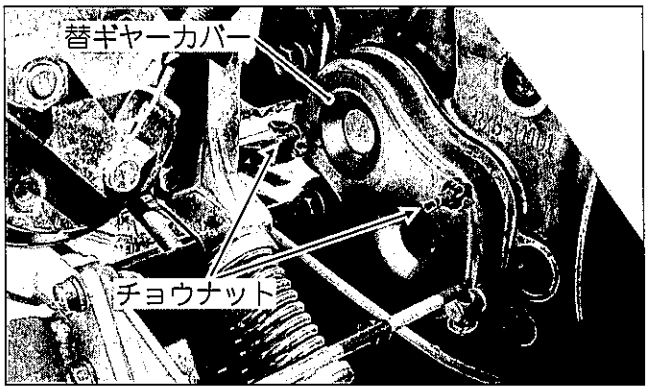
替ギヤー1、3は本機に装着、替ギヤー11、12は工具袋に入っています。

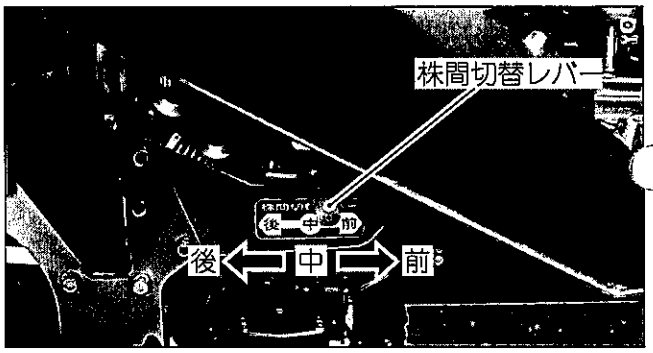
重要

- **表中の株間は、標準車輪での一般的なスリップを想定して算出しています。ほ場条件（土質、深さ、水の有無）および植付速度によりスリップ率は変化しますので、植付作業を開始して希望の株間になっているか確認してから連続作業してください。**
- **表中の苗箱数は、ほ場の条件によっていくぶん異なりますので、10a当たり2～3枚程度の予備苗を準備することをおすすめします。**
- **株間12cmで使用する時はVS変速を中速以下で使用してください。守らないと機械が破損する原因となります。また苗箱の送り不良で連続欠株となる恐れがあります。**

■替ギヤーの交換・切替レバーの切り替えかた

(1)主変速レバーを「中立」にします。
(2)チョウナットを取り替ギヤーカバーを外し、希望の植付株間のギヤーと交換します。
(3)替ギヤーにグリスを塗り、替ギヤーカバーをしっかりと取り付けます。
(4)切替レバーを操作し、希望の植付株間になるようにします。





⚠注意

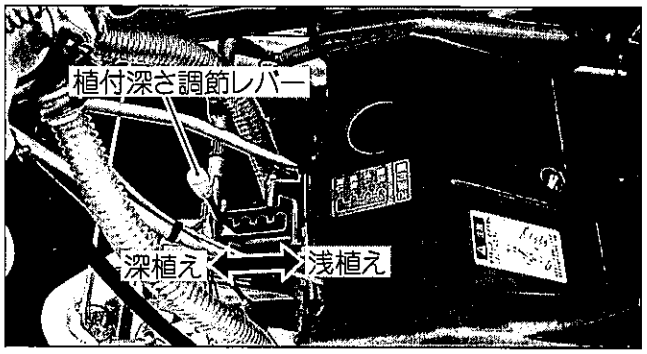
替ギヤーの交換・切替レバーの切り替えをする時はエンジンを止め、冷機状態で行なってください。
これを怠ると傷害事故の原因になります。

重要

- **切替レバーが確実に切り替わっておらず、中間位置になった場合、前進はしますが植付部は動きません。**
- **切替レバーが切り替わりにくい時は、エンジンを始動させた後、いったんVS変速レバーを操作し、再度「停止」に戻してからエンジンを停止し、切替レバーを操作してください。**

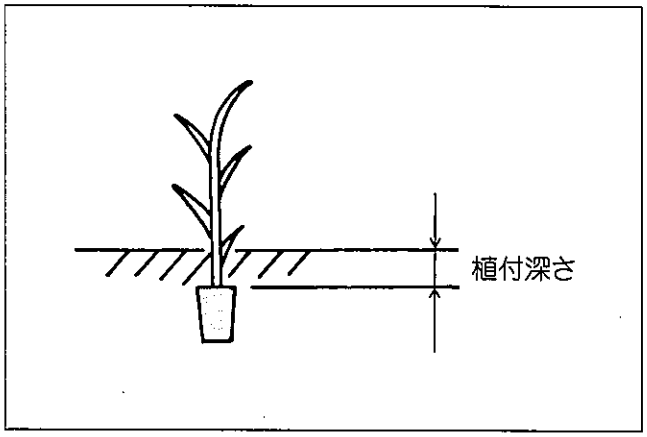
■植付深さの調節のしかた

(1)植付深さ調節レバーのセット位置を変えることにより植付深さは4段階に選べます。



⚠注 意

植付深さの調節はエンジンを停止して行なってください。これを怠るとケガをする恐れがあります。

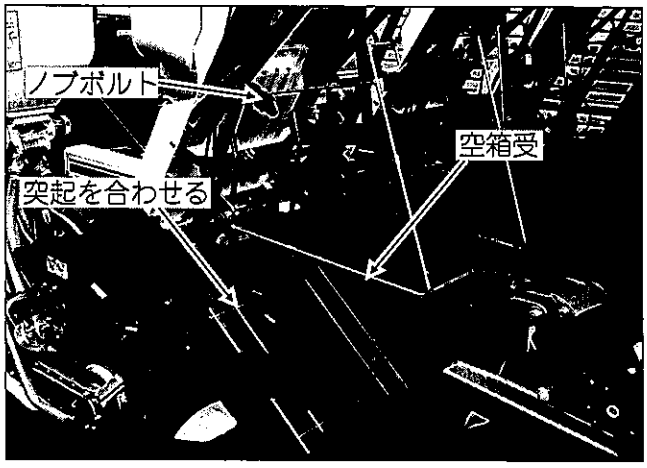


重要

- 調節する時は、植付部を表土から浮かして行なってください。
- 植付深さは必ず3箇所とも同じ位置にセットしてください。守らなかった場合は自動植付・自動油圧が正常に作動しません。
- 植付深さは必ずほ場で試し植えをして確認してください。
- 浅植になるほど、よいほ場条件が必要です。特に「極浅」は表土がトロトロの所や水深3cm以上の所では、浮き苗・ころび苗になり使用できません。

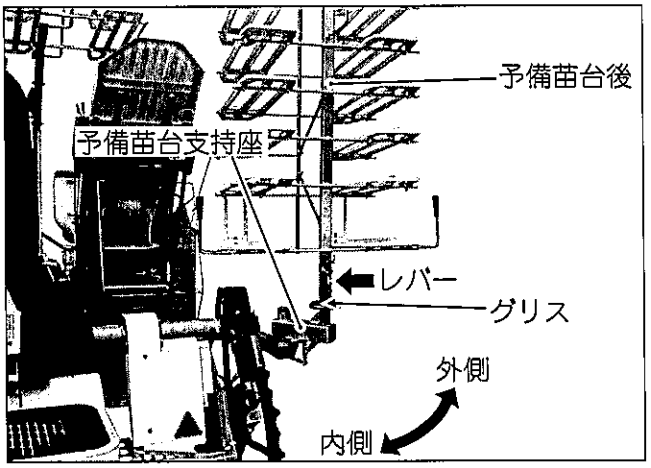
■空箱受の取り付け

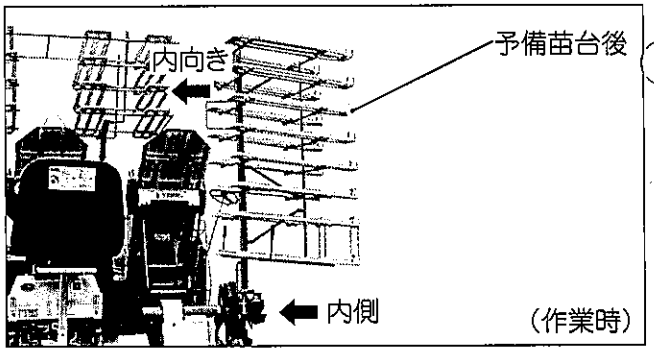
空箱ガイドに空箱受下側の突起を合わせて差し込み、上側のノブボルトで固定します。

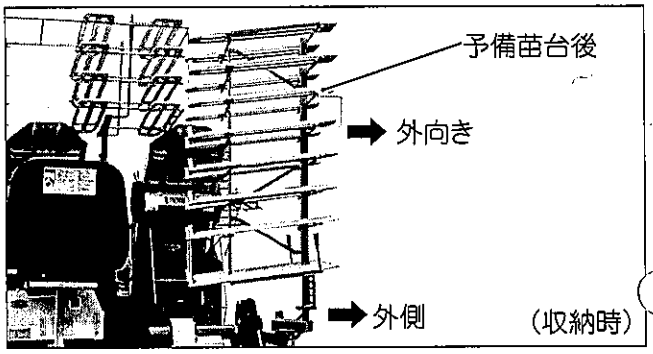


■予備苗台後の取り付け

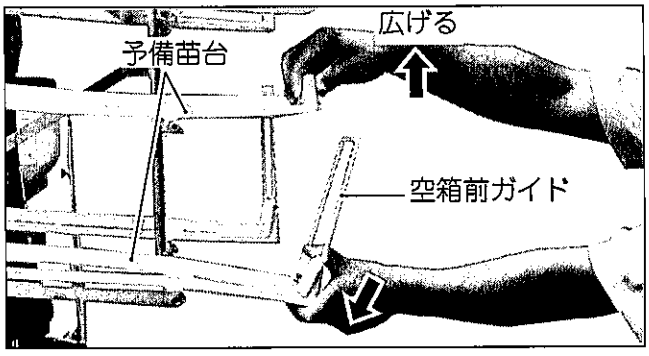
(1)左右の予備苗台支持座にグリスを塗って差し込んで使用します。
(2)予備苗台支持座は90°回動します。また予備苗台後は4箇所で回転固定できます。
(3)予備苗台後はレバーを上げると回転ロックが外れて回転します。レバーを離すと4箇所で回転固定します。
(4)予備苗補給時は外側後ろ向き、作業時は内側内向き、移動の時、またはあぜぎわ等の植え付けで予備苗台後が障害物に当たる恐れのある場合は、外側外向きにして使用します。







(5) 水洗い等により、予備苗台を取り外す際は、予備苗台前部の間を広げ、空箱前ガイドの差し込みを外した状態で、予備苗台を取り外してください。

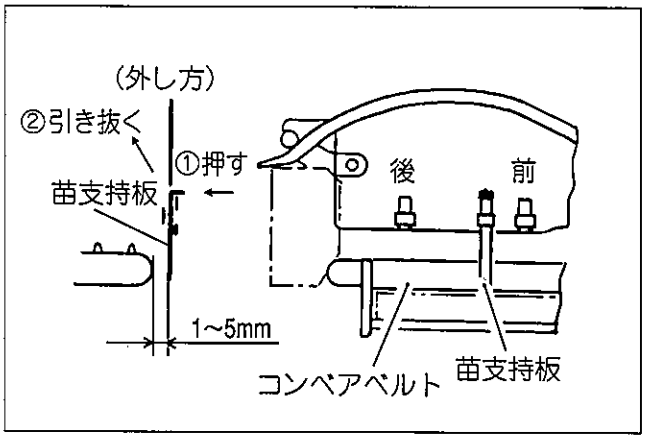


■苗支持板の調節のしかた

苗支持板は植付爪で苗を取るわずかの間、苗を支持する役目をしています。

(1) 苗丈が8cm以下の場合は前の位置にします。

(2) 苗丈が25cm以上の場合は後の位置にします。



⚠注 意

苗支持板の調節はエンジンを停止し手袋をして行なってください。
これを怠るとケガをする恐れがあります。

重要

- **苗支持板を何かに引掛けたりして大きく変形させた場合は、外して直してください。変形していると植付姿勢が悪くなります。**

植付作業の手順

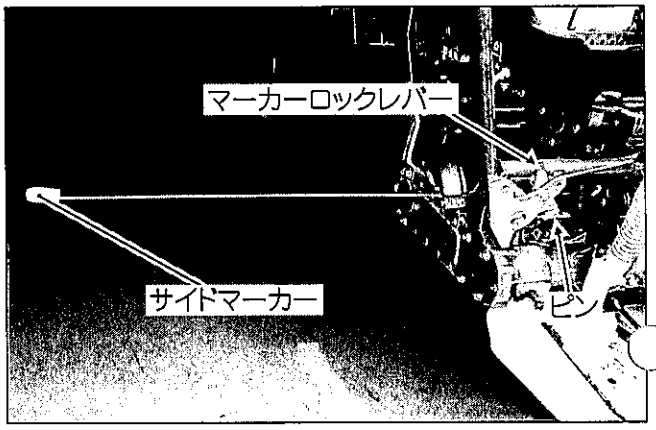
⚠警 告

(1) 補助者と共同作業を行なう時は、お互いに充分注意・合図をし合って安全に作業を行なうようにしてください。
(2) 夜間作業は行なわないでください。思わぬ事故を起こす恐れがあります。
(3) 後進する場合、後方に川(用水路)やがけのある場合は転落しないように充分注意してください。
(4) 機体への乗り降りや機体の上で作業を行なう時（苗の補給時など）、VS変速レバーに体の一部が接触すると、機体が発進する恐れがありますので、必ず駐車ブレーキを掛けてください。
(5) 異常が発生した時は、エンジンを必ず止めてください。
(6) 小さなほ場や、ほ場のすみでは作業がしにくいので安全のため低速で注意しながら作業を行なってください。
(7) 運転席をはなれる時、運転操作をしない時は主変速レバーを「中立」、VS変速レバーを「停止」にしてエンジンを停止してください。
以上の確認・注意を怠ると思わぬ事故の原因となり大変危険です。

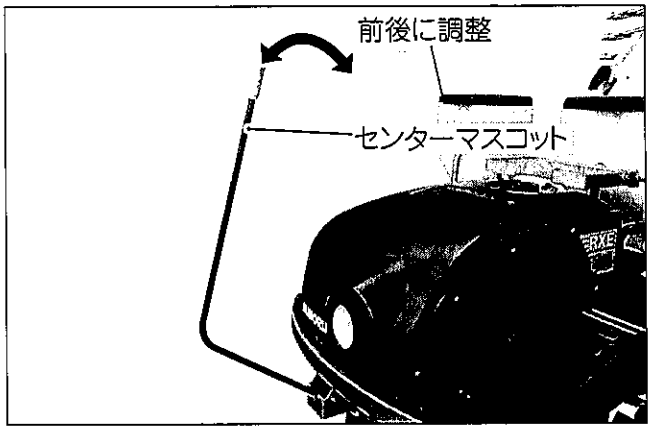
(1) ほ場に入り主変速レバーを「中立」、VS変速レバーを「停止」にします。
(20、21ページ参照)

(2) 筋付マーカーのロックを外し、作業状態にします。

(3) サイドマーカーは左右とも出しておき、隣接苗の2列目に合わせて使用します。



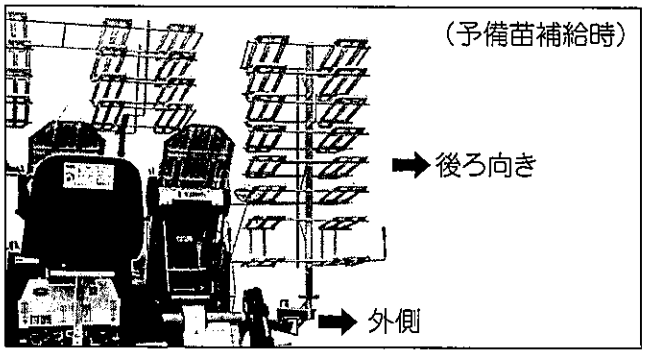
(4) センターマスコットは見やすい角度になるよう調整して使用します。

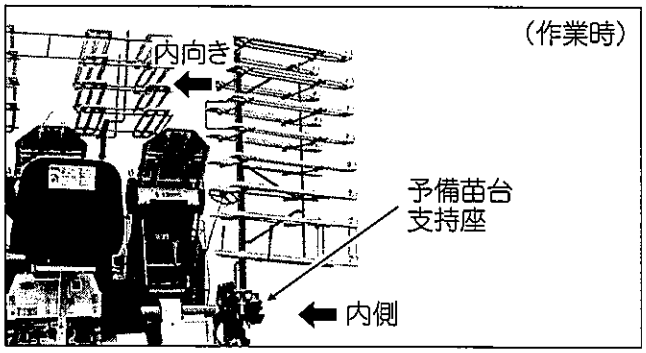


(5) あぜぎわで予備苗の補給を行なう時は、まず予備苗台後を外側後ろ向きにしてから、予備苗台前のロックを外し後ろへ引きます。
(25、26、47ページ参照)

(6) 苗は上の段からのせ、下の段から使います。これを怠ると苗の葉先が傷んだり、ポットから苗が抜け落ちることがあります。

(7) 予備苗台支持座を内側に回動させ、予備苗台後を内側内向きとします。

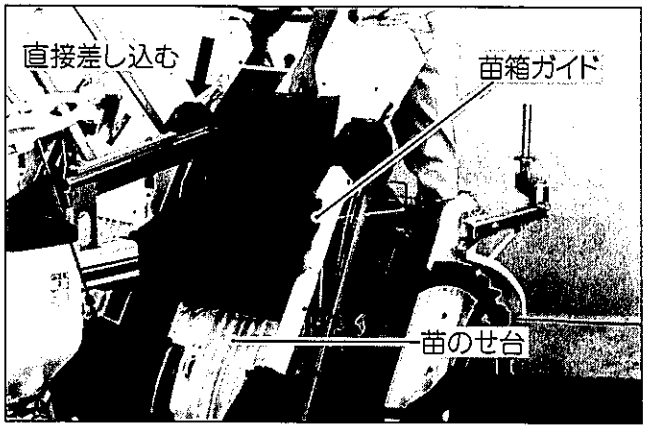




(8) 各植付部の最初の苗は苗箱ガイドの下を通して直接苗のせ台へ手でまっすぐ差し込みます。

重要

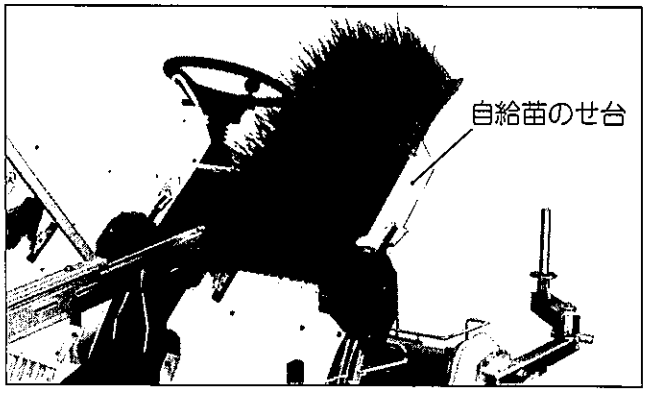
- **植付部の状態によって苗箱が苗のせ台の上方で止まったり奥まで入ったりしますが、上方で止まった時無理に押し込まないでください。植付不調の原因になります。**



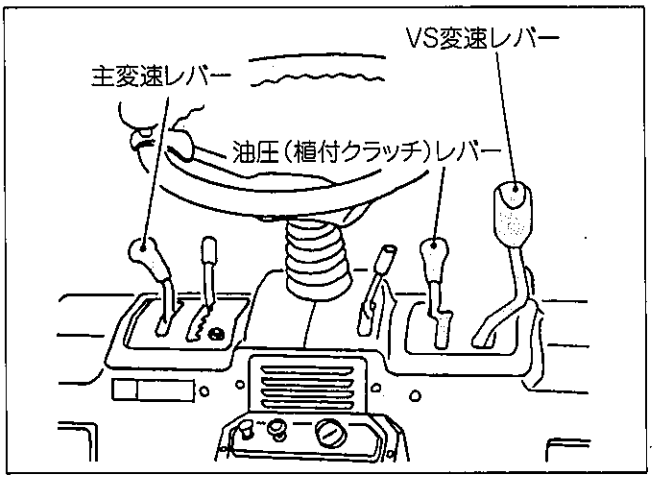
(9) 各植付部2枚目の苗は植付部上部の自給苗のせ台にまっすぐていねいにのせます。

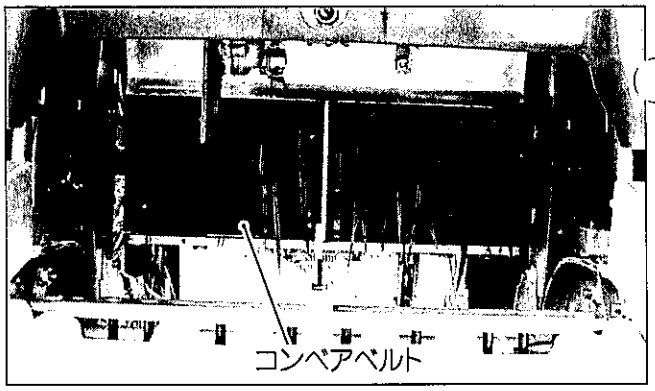
重要

- **中植付部はブザーが鳴ってから苗補給すると、前方の見通しが良い状態で作業できます。**



(10) 主変速レバーを「作業」、VS変速レバーを「低」にして植え付けを始める所へ移動します。
(11) 主変速レバーを「PTO」にします。
(12) マーカースイッチを「自動」にします。
(18ページ参照)
(13) 植付部フックを外し、油圧（植付クラッチ）レバーを「下」にするとフロートが接地して植付クラッチが入り、片側の筋付マーカーが下がります。
(14) 逆側の筋付マーカーが下がった場合は、いちど油圧レバーを「上」にしてから「下」にするとマーカーの出る方向が変わります。
(15) VS変速レバーを「低」にすると植付部が回って苗箱が自動的に送り込まれます。コンベアベルトの上に苗がのった時に、VS変速レバーを「停止」にして、主変速レバーを「作業」にします。
(16) エンジン回転を上げ、VS変速レバーを操作して植え付けを開始します。
(17) 植付状態を確認して「油圧感度調節レバー」と「植付深さ」を適正位置にします。





重要

- **植付作業を開始して、各調節が希望する値になっているか確認してから連続作業を行なってください。**
- **ほ場の状態・苗の条件によって植付精度は変化します。低速で植付状態を見ながら徐々に速度を上げ、最もよい速度を選んでください。**
- **株間12cmで使用する時はVS変速を中速以下で使用してください守らないと機械が破損する原因となります。また苗箱の送り不良で連続欠株となる恐れがあります。**
- **次のような条件の時、植え傷み苗になることがあります。このような場合は植付速度を落としてゆっくり作業を行なってください。**
  - **●貧弱な苗**
  - **●根張りが悪い苗**
  - **●ガイド板が変形している。（広くなった時）**
  - **●苗支持板が変形・欠落している。**
- **ほ場の出入り口等、不整地では絶対に植付部を下げないでください。また、ほ場内でエンジンを停止する時は必ず植付部を上昇させ植付部フックをかけておいてください。(25ページ参照)機体が前後に傾いたり、エンジンが停止した状態で植付部を下げると、フロート支持部が破損する恐れがあります。**

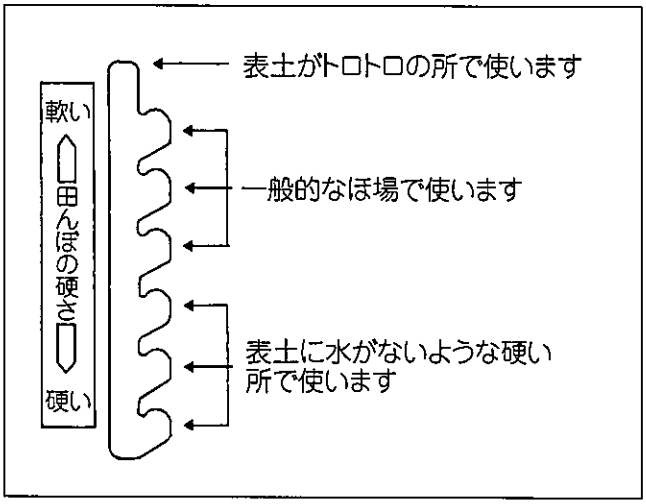
■油圧感度調節のしかた



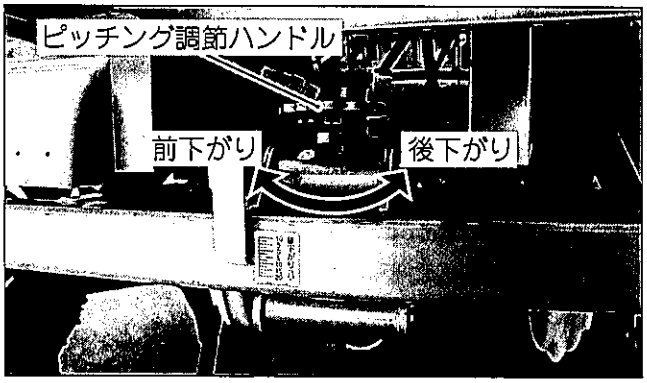
(1) 感度は油圧感度調節レバーを前後にずらすことにより7段階に選べます。
(2) フロートが泥を押す場合はレバーを前方へ移動させます。
(3) フロートでほ場の凹凸をならしきれなかったり、フロートが浮く場合はレバーを後方へ移動させます。

重要

- **フロートの泥押しをさけるため油圧感度調節レバーをいちばん「軟い」にすると、ころび苗が出る場合があります。この場合は植付深さ調節レバーをもう一段「深い」側に動かしてください。**



■ピッチング姿勢の調節のしかた



(1) フロート前部で泥を押したり、左右どちらかのフロート後部が浮いて浅植え、ころび苗になる時はピッチング調節ハンドルを左へ回し、植付部の姿勢を後ろ下がりにします。
(2) 油圧自動スイングの感知が鈍くなり、フロート後部が大きく沈み、深い溝を掘ってしまう時はピッチング調節ハンドルを右へ回し、植付部の姿勢を前下がりにします。

重要

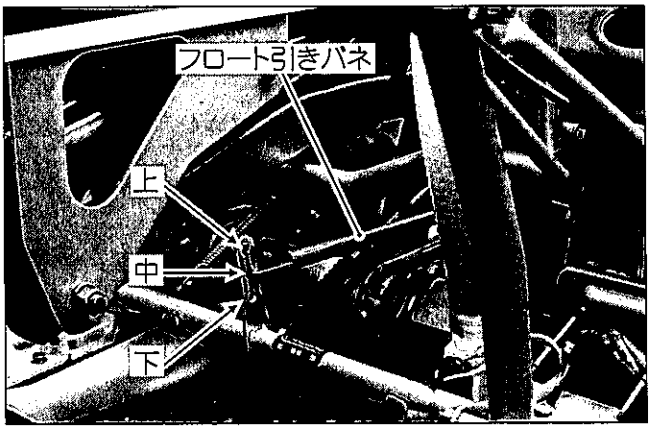
- **ピッチング姿勢の調節を行なう時は、植付部を表土から浮かして行なってください。**

■フロート引きバネの調節
（植付部の左側のみ付けています）
（側条施肥機付の場合は両側に付いています）

油圧感度調節レバーと同じように、ほ場条件に合わせてフロートの接地圧を加減します。通常は「中」にしておきます。

「上」……ほ場全体がトロトロの場合、または側条施肥機を付けた時。

「下」……ほ場全体が硬い場合。



⚠注 意

フロート引きバネの調節はエンジンを停止して行なってください。
これを怠るとケガをする恐れがあります。

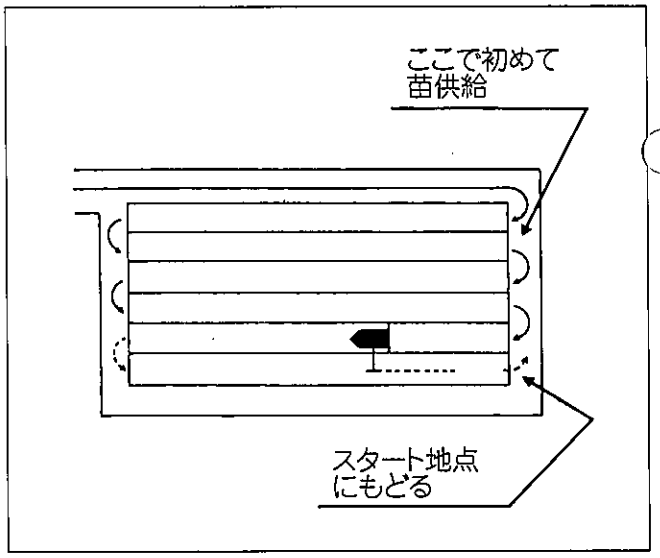
■ほ場での植えかた

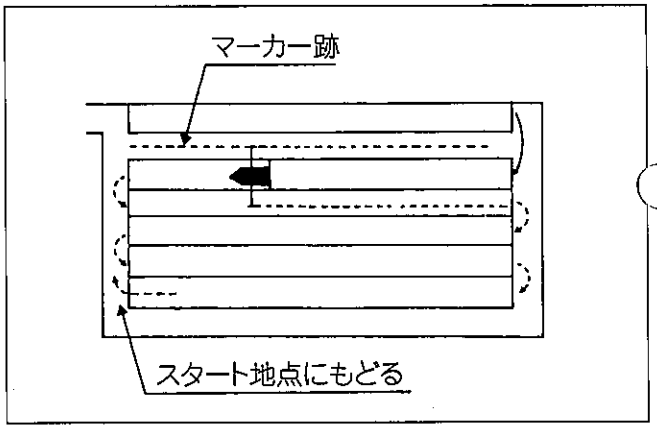
枕地の条件の良し悪し、出入口等を考慮して植え進みかたを決めてください。

(1)周囲を6条分残して植え、最後にスタート地点（出入口）から1周植えて終了します。枕地6条の場合は、旋回後、条合わせの時1回後進が必要です。

(2)(1)と同じ方法ですが、あぜぎわから植えて6条あけて帰ります。この時、マーカースイッチを「両下」にして、左右の筋付マーカーを同時に出して、片側をマーカー跡に合わせて植え進みます。

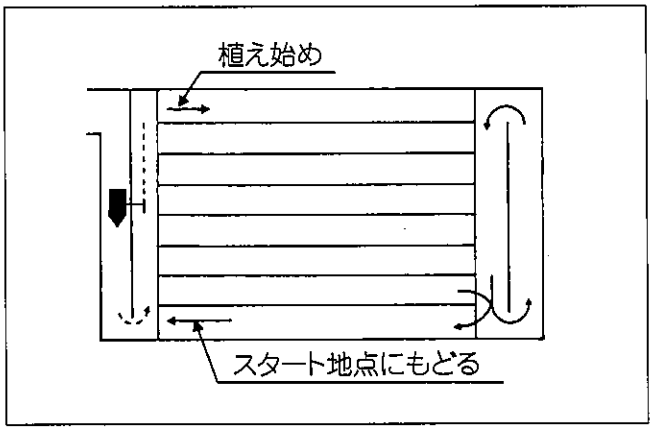
● **四隅を旋回しながら植付けすると、機械の破損の原因となります。**





(3)枕地を12条分残して植えると、旋回が容易にできます。

● **特に旋回時、外車輪で土を持ち上げる時は枕地12条植をしてください。**



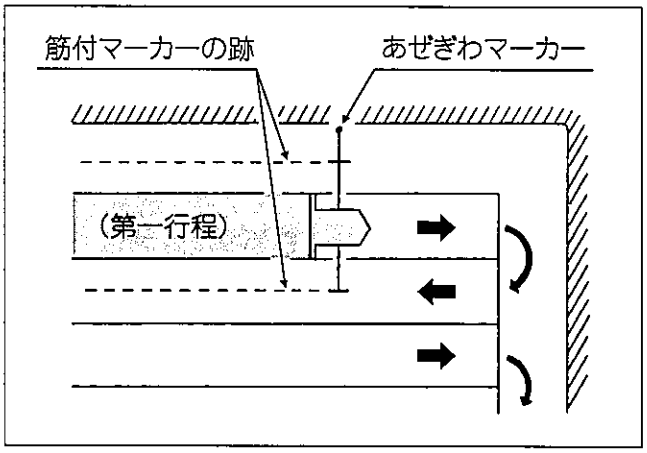
■あぜぎわマーカーの使いかた

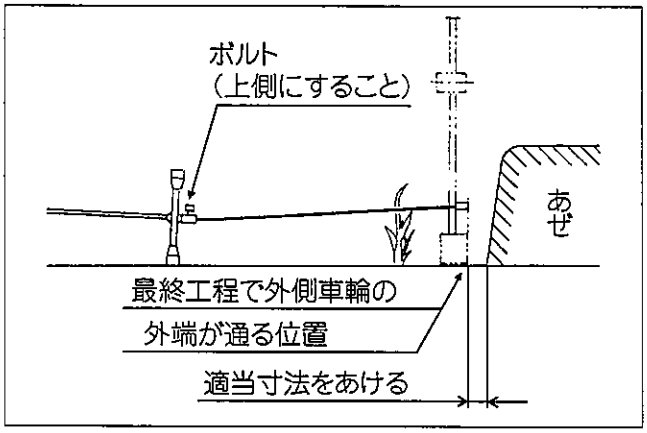
最初の6条分を残す方法として、最初の1行程を植える時、マーカースイッチを「両下」にして左右の筋付マーカーを同時に出しますが、あぜぎわとなる方の筋付マーカーの先に、あぜぎわマーカーを取り付けてめやすとする方法もあります。

(1) あぜぎわマーカーは筋付マーカーの先に奥まで押し込み、ボルトが上側にくるように、しっかりと固定します。

(2) あぜぎわマーカーの先端位置が、最終行程で通る外側車輪の外端を示していますので、あぜから適当寸法をあける様にして第1行程を植えます。

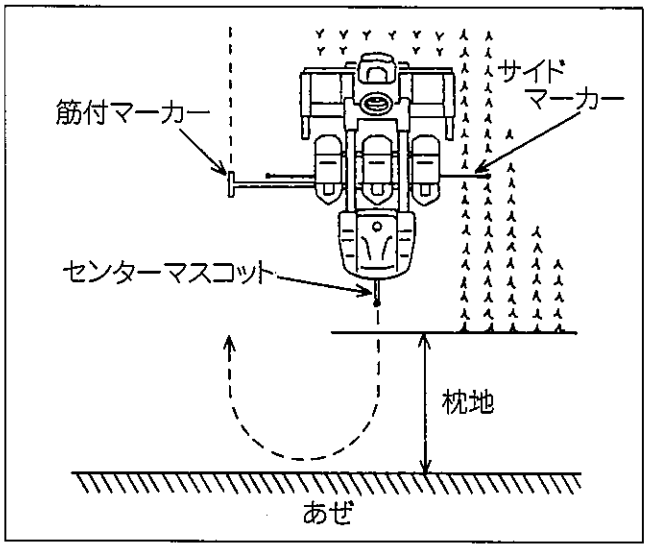
(3) 最初の1行程目が終わったら、あぜぎわマーカーを外しておきます。





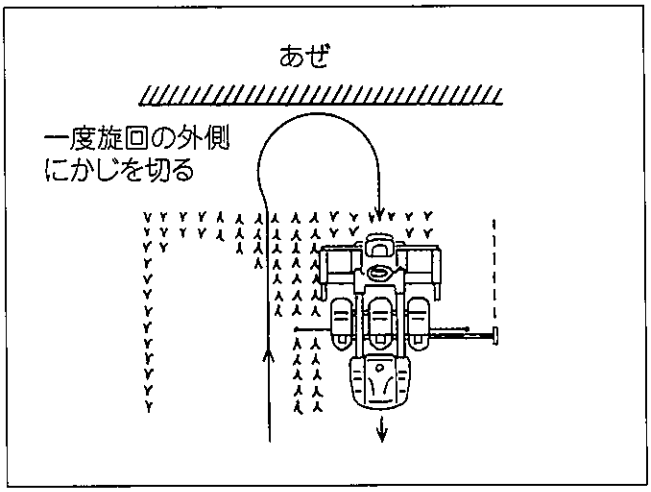
■旋回のしかた

(1) あぜに近づいたらスピードを下げます。
(2) 油圧（植付クラッチ）レバーを「上」にし、旋回する側のサイドクラッチペダルを踏んでハンドルを操作し、旋回します。
(3) 旋回後、サイドマーカーとセンターマスコットで条間を合わせて油圧（植付クラッチ）レバーを「下」にします。
(4) センターマスコットと、1行程前に筋付マーカーでつけたマーカー跡を合わせて植え進みます。



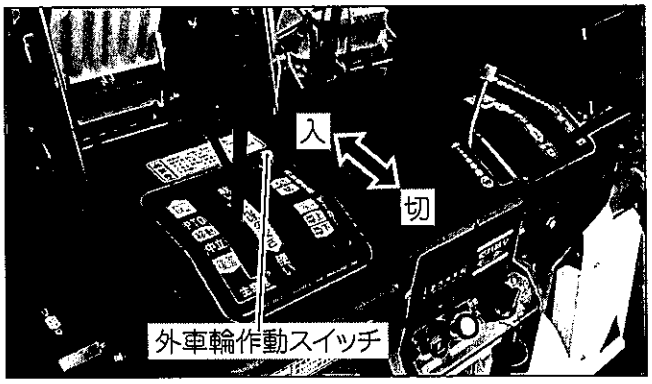
重要

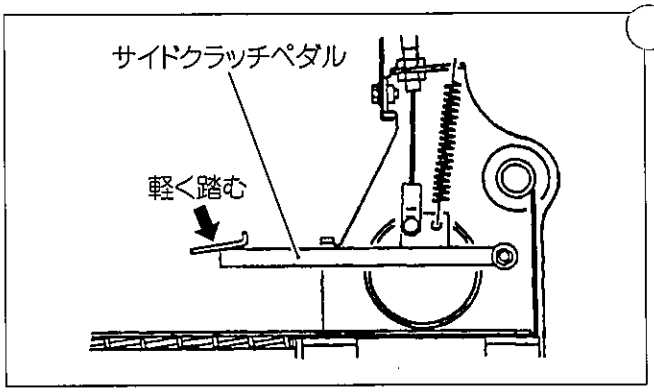
- ほ場が浅い場合（20cm以下）には、左右のサイドクラッチペダルを同時に踏んでハンドルを操作すると旋回半径がやや小さくなります。
- 右図のように一度旋回の外側にかじを切ってから旋回すると、楽に条合わせができます。
- ハンドルの操作を繰り返していると、ハンドル（グリップ）の位置が少しずつずれますが、異常ではありません。
- 耕盤の不安定なほ場での後進はできるだけさけやむなく行なう時はアクセルレバー・VS変速レバーとも「低」にし、ゆっくり後進すると前輪の沈み込みが少なくなります。



■外車輪作動スイッチの使いかた

(1) 外車輪作動スイッチを「入」にし、旋回する約5m手前で旋回する側のサイドクラッチペダルを軽く踏み外車輪を上げます。
(2) 旋回時には、サイドクラッチペダルを踏み込み、旋回側の後輪のクラッチを切って旋回します。
(3) 旋回後は、サイドクラッチペダルから足を離し、外車輪を下げます。
(4) 外車輪作動スイッチを「切」にするとサイドクラッチペダルを踏んでも、外車輪は作動しなくなります。
(5) 外車輪が作動中にスイッチを「切」にすると、任意の高さで止められます。



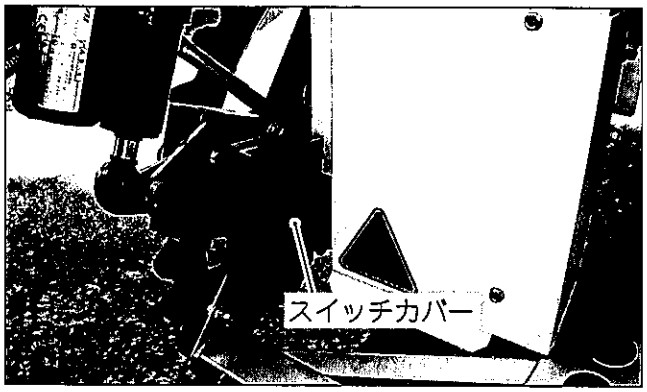


⚠警 告

移動時・ほ場への出入りの際は、外車輪が完全に下がった状態で外車輪作動スイッチを「切」にしてください。
これを怠ると外車輪が作動して、機械が転倒し、大変危険です。

重要

- 外車輪を上げると機体が大きく傾くようなほ場では、耕盤を傷めたり、田植機が破損する恐れがありますので、下げた状態で作業してください。
- ほ場で機体後部が沈み、外車輪が上昇・下降しなくなった時はスイッチカバーを外し、スイッチ部に付着している泥を水洗いしてください。



⚠警 告

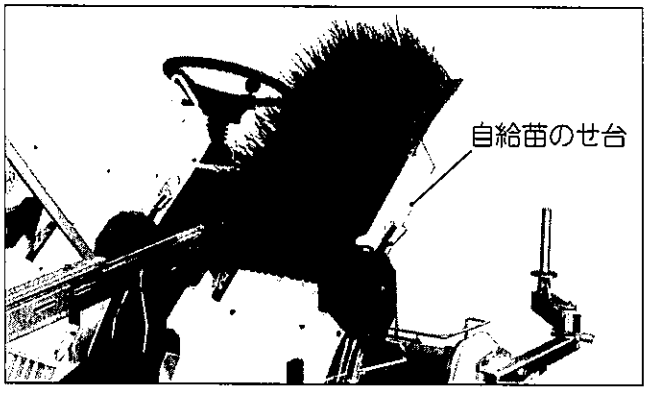
スイッチカバーを外す時は、キースイッチを「切」にしてください。
これを怠ると障害事故の原因になります。

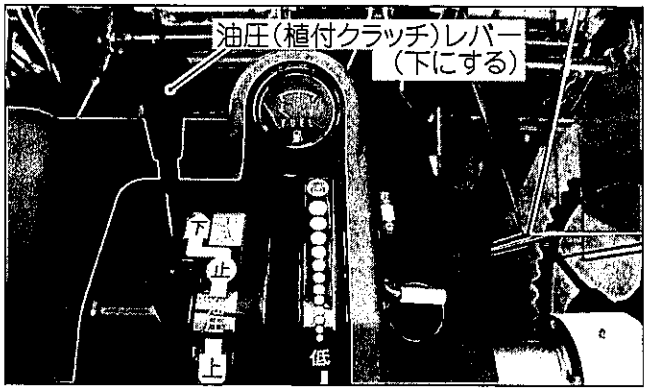
■苗の補給のしかた

(1) 植付部の苗が残り少なくなると、ブザーが鳴ると同時に苗自動供給のモーターが動き、自給苗のせ台の苗箱が植付部へ送り込まれます。

(2) 自給苗のせ台の苗箱がなくなったら、予備苗を自給苗のせ台へ、まっすぐていねいにのせます。

(3) 自給苗のせ台の苗がなくなり、植付部の苗のせ台の苗も残り少なくなりブザーが鳴り初めてからVSレバーで機械を停止させると、自給苗のせ台へ続けて2枚の苗箱を補給する事ができます。



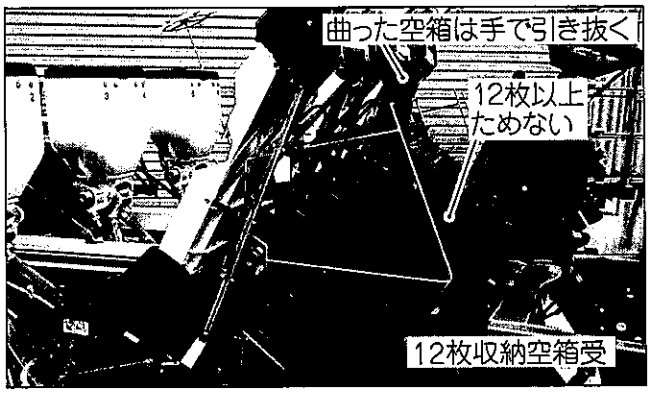


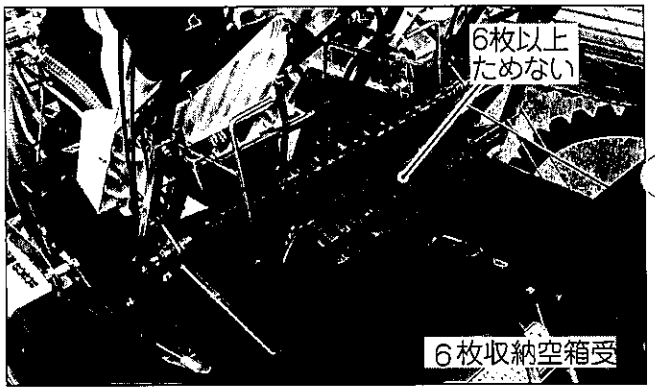
重要

- 予備苗の補給はキースイッチ「入」、油圧(植付クラッチ)レバー「下」で行なってください。油圧(植付クラッチ)レバーを「中立」または「上」にすると、ブザーが鳴りやみ、自動供給も動きません。
- 中植付部はブザーが鳴ってから苗補給すると、前方の見通しが良い状態で作業ができます。

■空箱の取り出しかた

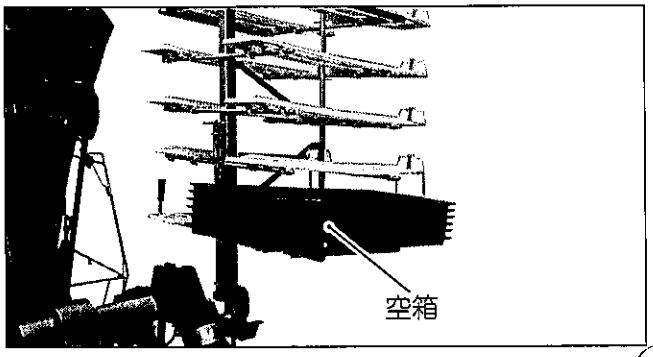
(1) 空箱は自動的に空箱受に収納されますが、６枚収納空箱受には６枚以上空箱をためないでください。また、１２枚収納空箱受には１２枚以上空箱をためないでください。
箱がつまって植付不調・苗箱の破損の原因になります。





(2) 空箱受にたまった空箱は、植付部をいっぱい上昇させて取り出し、予備苗台後のいちばん下の段に入れてください。

(3) 休憩の後で作業を再開する時、植付部から出てくる空箱に曲りグセがついている時、また部分的に変形・破損した空箱は空箱受への受け渡しが確実でなかったり、きちんと空箱受へ入らない事があります。
このような空箱は直接手で引き抜いてください。

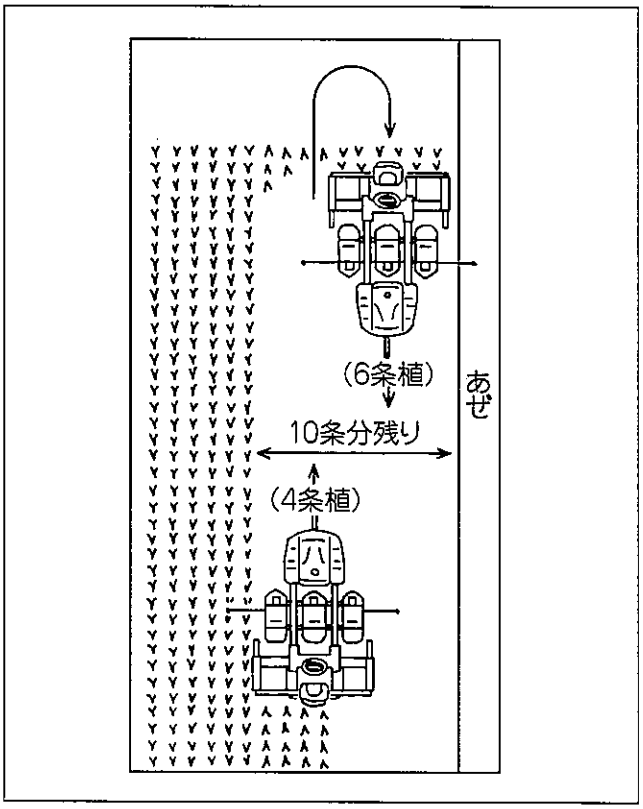


重要

- **6枚収納空箱受には6枚以上空箱をためないでください。また、12枚収納空箱受には12枚以上空箱をためないでください。**
- **曲りグセのついた空箱は手で取り出してください。**

■植えじまいのしかた

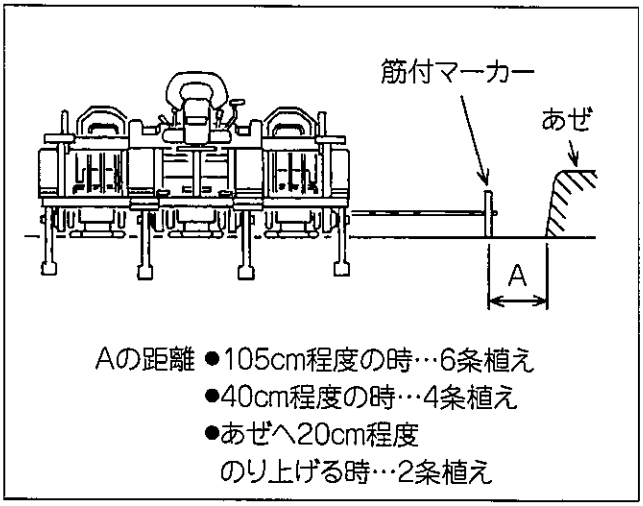
(1) 植え付けの最終工程(あぜぎわでの植え付け)を使用田植機の条数に合わせるためには、前行程で植付条数の調整をする必要があります。



(2) 最終工程での植付条数の決めかた

①サイドマーカーで条合わせした後、筋付マーカーを出して植付条数を決めます。

②各植付部のあぜぎわクラッチレバーを「止まる」にすると各2条の植え付けを停止することができます。

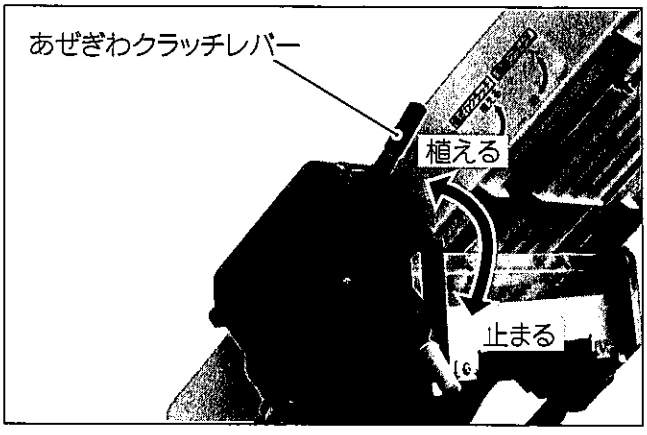


⚠注 意

あぜぎわクラッチレバーの操作を行なう時は必ずエンジンを停止してください。

重要

- **あぜぎわクラッチを「止まる」の操作後、送り途中の苗を14株程度植え付ける場合があります。**
  また「植える」の操作後、植付爪に苗が出てくるまで待ってから植え付けてください。
- **あぜぎわクラッチを「止まる」位置で使用した後は必ず「植える」の位置に戻してください。**



■残り苗の取り出しかた

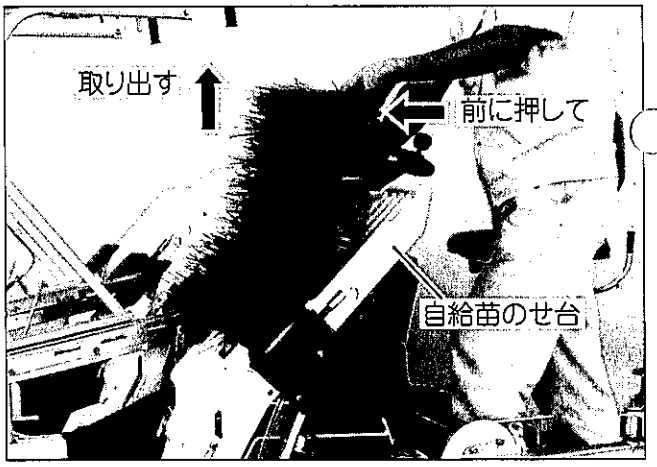
(1)植付作業が終わり、苗のせ台に残った苗を取り出す場合は、押出し棒が苗箱から抜けた状態にして、必ずエンジンを停止し、キースイッチを「切」にしてください。



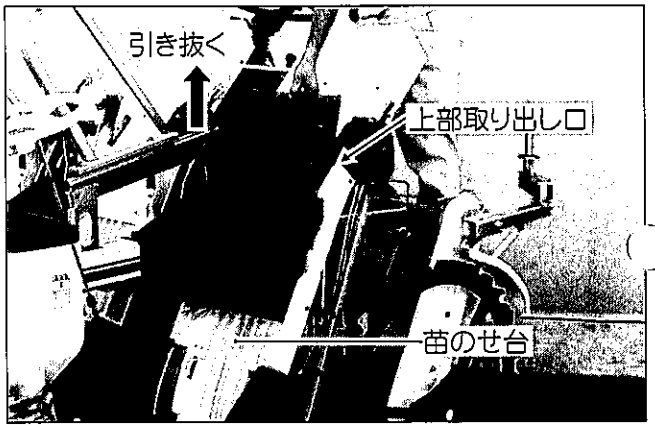
⚠注 意

苗箱を取り出す時は、必ずキースイッチを「切」にして行なってください。これを怠ると自動供給のモーターが作動して大変危険です。

(2)自給苗のせ台の苗はそのままで取り出します。万一苗箱の角穴が、スプロケットにかかり抜けない時は、苗箱を前に押すと、かみ合いがはずれ、上に取り出す事ができます。

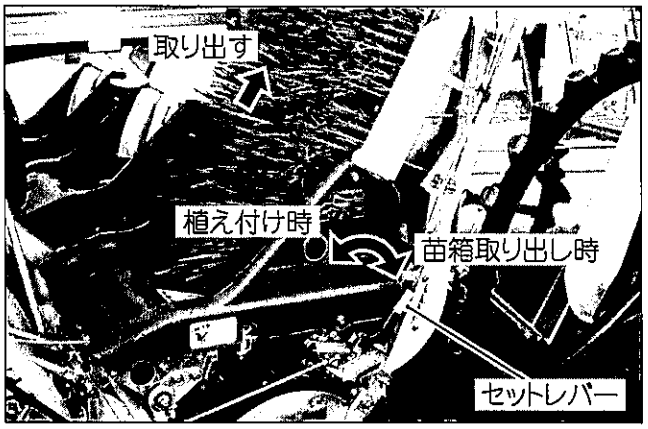


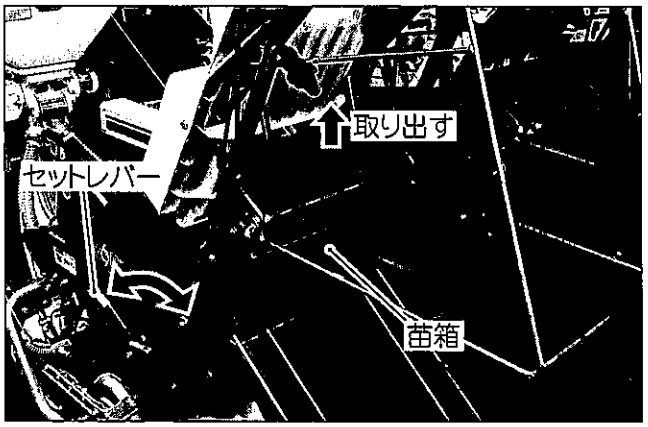
(3)植付部の苗のせ台で、縦送り爪まで送られていない苗箱は、苗のせ台にそわせて引き上げ、上部取り出し口から引き抜きます。



(4) 縦送り爪で固定され植付中の苗箱は、セットレバーを後方へ倒し、苗箱を苗のせ台にそわせて引き上げ、上部取り出し口から引き抜きます。

(5) 苗が残り少なく、上に引張れない場合は、セットレバーを前後に動かして苗箱を送り、空箱ガイドから引き抜きます。

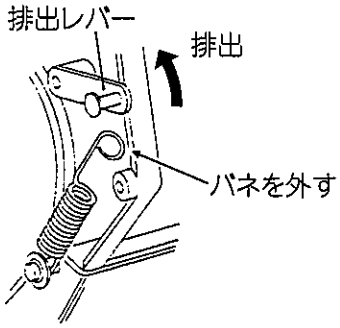




重要

- **セットレバーの操作は、押出し棒が苗箱から抜けた状態で行なってください。**
  守らないと、苗箱が破損する恐れがあります。
- **残り苗の取り出しが終わったら、セットレバーは必ず植付時の位置に戻してください。**
- **側条施肥機付の場合は毎日作業終了後、必ずホッパー内の肥料を抜き取ってください。**
  守らないと肥料がホッパー内部で固まり、施肥ムラとなったり駆動ワイヤーが切損したりする恐れがあります。

側条施肥機付の場合



■植付部の水洗いのしかた

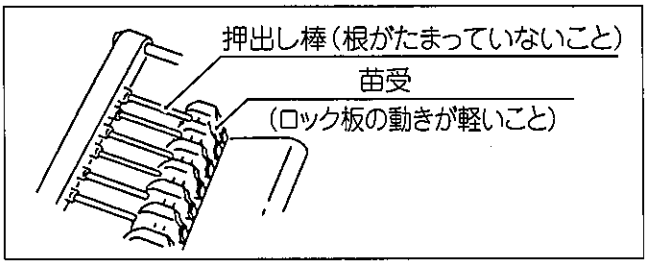
苗受・押出し棒・コンベアーベルト・ガイド板・苗のせ台・縦送り爪・ストッパー爪・空箱ガイド等をよく水洗いしてください。

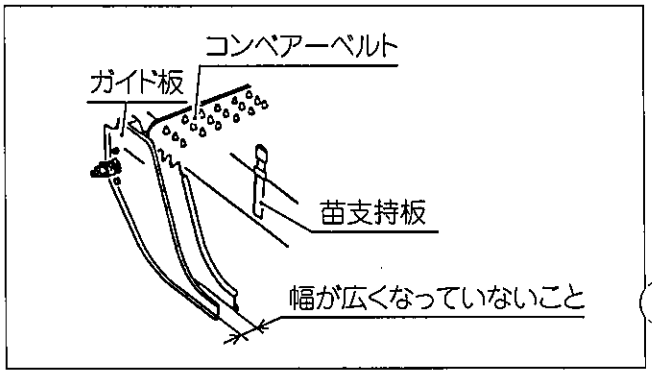
⚠注 意

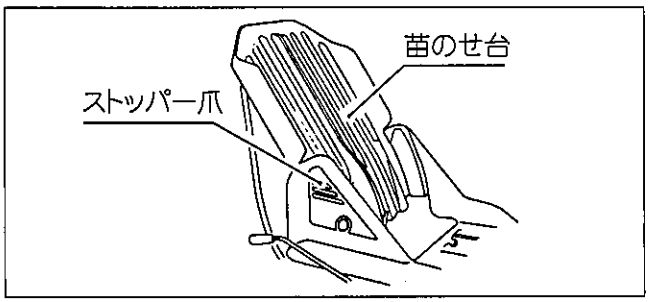
植付部の回転部・作動部に手を入れる場合は必ずエンジンを停止してください。これを怠ると大変危険です。

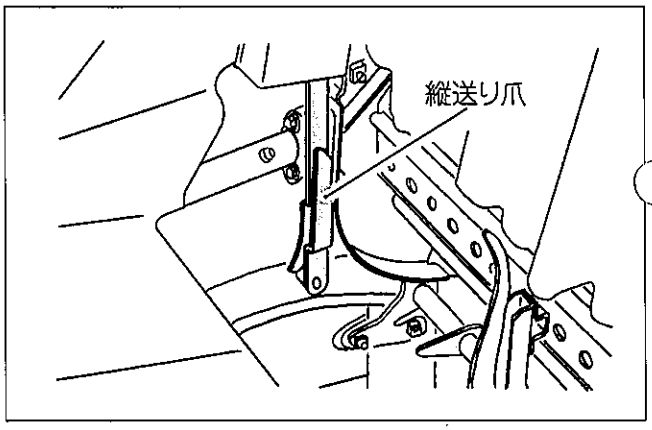
重要

- **苗支持板を変形させないように注意してください。植付不良の原因となります。**
- **ほ場を変える時・休憩時・食事の時などの前には必ず水洗いしてください。**
- **ガイド板に泥・異物がつまり幅が広くなると植え傷みの原因となるので、きれいに洗ってください。（変形している場合は修正または交換してください。）**





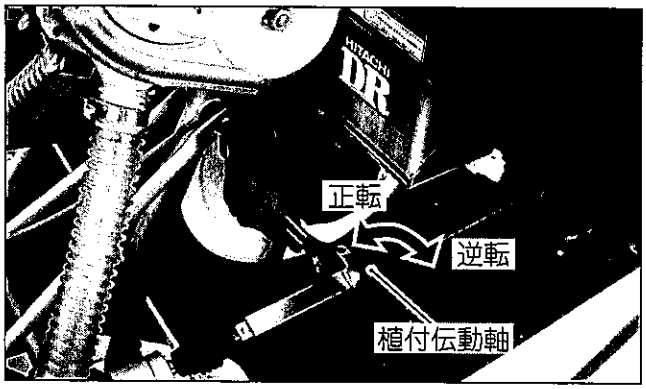




■安全クラッチが作動したとき

植付作業中、植付部が止まりカチカチ音がする場合は安全クラッチがはたらいていますので次の処置をしてください。

(1) ただちにＶＳ変速レバーを「停止」にします。
(2) 主変速レバーを「中立」にし、植付クラッチを入れたまま（油圧レバー「下」位置）、エンジンを停止します。
(3) 植付爪・ガイド板等に石等がかんでいないか確認します。
(4) 植付伝動軸の四角パイプ部にスパナをかけ、逆転方向に回して石等を取り除きます。
(5) その後、正転方向に軽く回転するか、植付爪やガイド板が変形していないか確認してから植え付けを再開してください。



⚠注 意

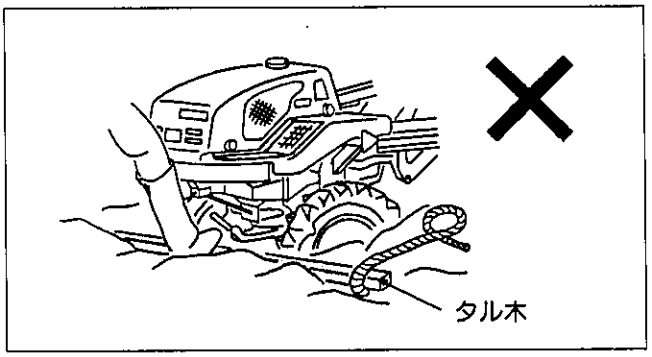
安全クラッチの確認時は、必ずエンジンを停止して行なってください。これを怠ると大変危険です。

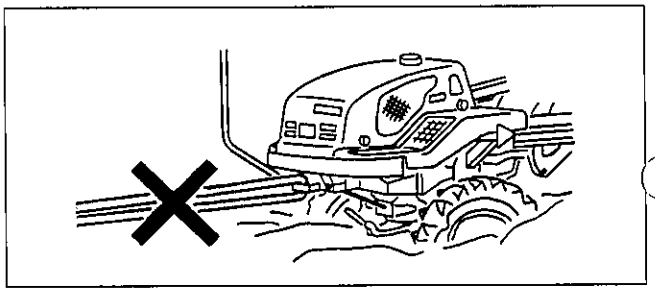
重要

●植付爪やガイド板が曲がったり破損した時は、お買い上げいただいた販売店または農協（JA）にご連絡ください。

■湿田での脱出のしかた

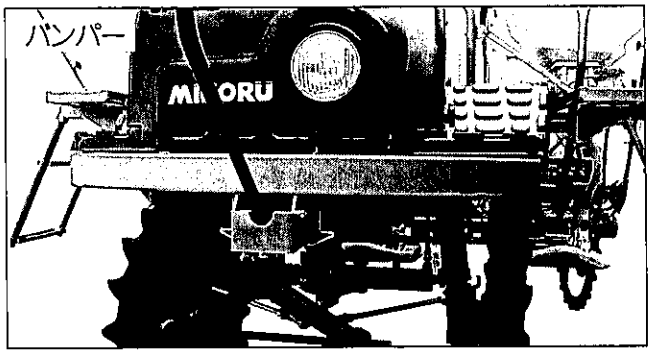
(1)予備苗を全部降ろして田植機を軽くします。
(2)車輪に負担をかけないよう、油圧レバーを「下」、油圧感度調節レバーを「硬い」にして植付部が常に表土に下りているようにしておきます。
(3)前輪の前の泥をできるだけ除き、ジャッキアップして前輪の下にアユミ板をひき、VS変速レバーを「低」から「高」に繰り返し操作して、ゆっくり自力で脱出させてください。

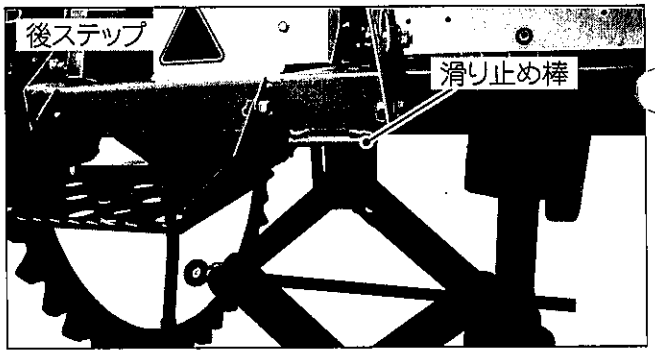




重要

- **深いほ場で沈んで前進できなくなった場合は、絶対にトラクター等で引張らないでください。田植機が破損する恐れがあります。**
- **機体前方のジャッキアップは、バンパー中央1箇所だけでは、変形する恐れがありますので、左右のアンカーチューブ補強等も利用して、無理のないよう注意して引き上げてください。機体後方では後ステップ左右の滑り止め棒の所で行なってください。**







点検整備

定期点検

定期点検は、田植作業を行なう人が定期的に行なう点検です。
田植機は、使用時間と使用状況に応じて劣化が進み、その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくと故障や事故の原因となり、ひいては田植機の寿命を短くしてしまいます。
田植機の持つ性能がいつまでも充分発揮できるよう、定期的に点検を行ないましょう。

⚠警告

- 各部の点検･調整･交換作業を行なうときは、平たんな場所で駐車ブレーキを掛けエンジンを必ず止めて、回転部を止めてから作業をしてください。
- 取り外した回転部のカバー類は、衣服などが巻き込まれる恐れがありますので、点検後はカバー類を必ず取り付けてから作業をしてください。
- 燃料の補給中やバッテリーの点検･充電･交換中は火気厳禁。
- 植付部を上げた状態で作業を行なうときは、植付部フックレバーで植付部の下降防止を行なってください。
- エンジンカバーを開けるときは内部が充分冷え、ヤケドの恐れがないことを確認してください。
- オイルの補給中は火気厳禁。
- 燃料やオイルがこぼれたときは、きれいにふき取ってください。
- 廃棄物をみだりに捨てたり焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
- 機械から廃油を抜く場合は、容器に受けてください。
- 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
- 廃油･溶剤･フィルタ･ゴム類･その他の有害物を廃棄または焼却するときは、購入先または産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。

- 専門的な技術や特殊工具を必要とする場合及び点検整備一覧表の参照ページ欄に☆印のある項目は、購入先にご相談ください。
- 点検･交換の時期は、使用条件や環境に大きく左右されます。従ってひとつの目安として早めの点検をお願いします。

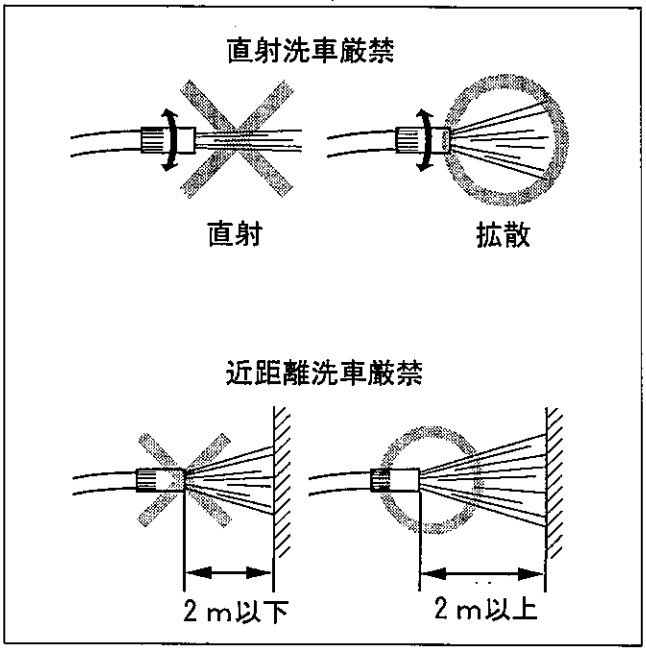
■洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり、機械を破損･損傷･故障させることがありますので、高圧洗車機の取扱説明書･ラベルに従って、正しく使用してください。

⚠注意

- 機械を損傷させないように洗車ノズルを拡散にし、2m以上離して洗車してください。もし直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、

(1)電気配線部被覆の損傷・断線により、火災を引き起こす恐れがあります。
(2)油圧ホースの破損により、高圧の油が噴出して障害を負う恐れがあります。
(3)機械の破損・損傷・故障の原因になります。
例 ①シール・ラベルの剥がれ
②エンジン、電装部品、コネクタ内部等への浸水による故障
③オイルシール等のゴム類､樹脂部品等の破損
④塗装、メッキ面の皮膜剥がれ



■定期点検一覧表

○：点検と調整　△：交換

点検箇所・項目	点検･処置	点検・交換時期 作業前後	シーズン前後	50時間	150時間	200時間	2年ごと	参照ページ
エンジン部								
燃料フィルタポット（燃料フィルタ）	掃除・洗浄		○					69 ☆
エアクリーナエレメント	掃除	○:50時間ごと(日常点検でも汚れがひどいときは都度掃除)				○		70 ☆
点火プラグ	掃除				○			70 ☆
	すき間調整	○:すき間が広いとき						
気化器（キャブレタ）	掃除	○:エンジン不調時など						☆
燃料ホース	バンド締付け	○					△	71 ☆
		(作業前点検し、燃料もれしているときは締付けバンドの締付け又は、交換)						
走行・操作部								
VSベルト・油圧駆動ベルト	－	△：摩耗、被覆のはがれ、き裂やひび割れが発生したとき						71 ☆
ブレーキペダル	点検	○						31 ☆
VS変速レバー 主クラッチペダル	点検	○						31 ☆
サイドクラッチペダル	点検	○						31 ☆
車輪	点検	○						71 ☆
植付部								
押出し棒、苗受ガイド板、苗支持板縦送り爪植付爪	掃除	○						61 ☆
		△：汚れがひどいとき						
	点検	○						
		△：破損時、摩耗がひどいとき						
電装部								
バッテリ	充電	○：セルモータが回りにくい、ライトが暗いときなど △：バッテリ上り（セルモータが回らないとき）						72 ☆
ワイヤハーネス・バッテリコード	点検	○						74 ☆
		△：破損時						
ヒューズ	－	△：破損時（ヒューズ切れ）						75 ☆

重要

- **参照ページに☆印のある整備･交換については、購入先に連絡または整備工場で行なってください。**
- **前表の時間は目安です。機械の使用条件や使用環境などによって、消耗部品の調整や交換時期は異なります。**
- **補給や交換の際は、ゴミや水など異物が混入しないよう注意してください。**

■給油・注油点検一覧表

種類	点検箇所	処置	点検・交換時期		容量・規定量(L)	種類	参照ページ
			点検	交換			
オイル	エンジン	補給・交換	作業前又は、作業後	●初回 …20時間目 ●2回目以降 …100時間ごと	＊規定量 オイルゲージの下限と上限の間	エンジンオイル API分類 SE級以上 10W-30	28
	変速ミッション	補給・交換	作業前又は、作業後	●初回 …1年ごと ●2回目以降 …2年ごと	＊規定量 オイルゲージの範囲内 ●容量…約4.4ℓ	ギヤーオイル ＃90	67
	後輪ミッション	補給・交換	作業前又は、作業後	●2年ごと	＊規定量 オイルゲージの範囲内 ●容量… 左側 約0.8ℓ 右側 約2.5ℓ		67
	植付ミッション	補給・交換	作業前又は、作業後	●1年ごと	＊規定量 各約1.4ℓ		68
	油圧	補給	作業シーズン前、後	—	＊規定量 タンクの目印線の間	油圧用オイル ＃32	68
液	バッテリ液	補水	作業シーズン前、後	—	＊規定量 バッテリ側面の下限と上限の間	精製水	72
注油・グリス	各部	補給	適宜		適量	油・グリス	29

■燃料・オイルの点検・補給・交換

重要

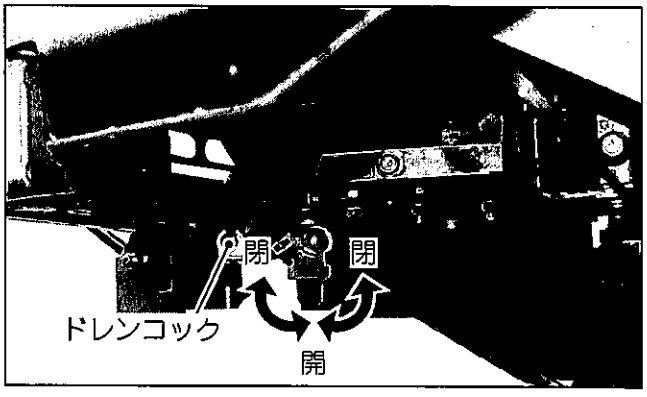
●補給・交換を行なうときは、機械の故障の原因となりますので下記事項を守ってください。
○廃油は使用しないでください。
○給油口やその周辺からゴミなど異物や水の混入を防ぐため掃除してください。
○使用するオイルは指定のものを使用してください。

⚠警告
●燃料やオイルの補給中は火気厳禁です。
●エンジン停止直後は、エンジン周りや各部オイルが熱くなっているため、引火火災やヤケドをするおそれがあります。

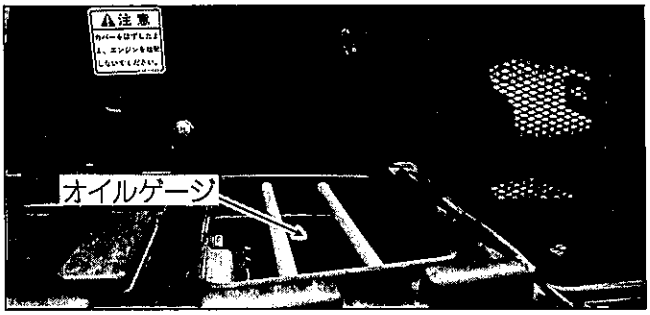
●点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。

■燃料の排出

長期格納時や燃料の交換を行なうときは、燃料タンクのガソリンを排出します。
①ガソリンを受けるための鋼製の容器を準備したあと、燃料フィルタポット内及びキャブレタ内のガソリンを抜きます。（69ページ参照）
②フィルタポットは取り外したままの状態で燃料コックレバーを「開」位置にして燃料タンク内のガソリンを抜き取ります。
③フィルタポットを取り付けます。
④キャブレタ内のガソリンは、ドレンコックを引いて抜いてください。抜き取り後は、必ずドレンコックを閉じてください。



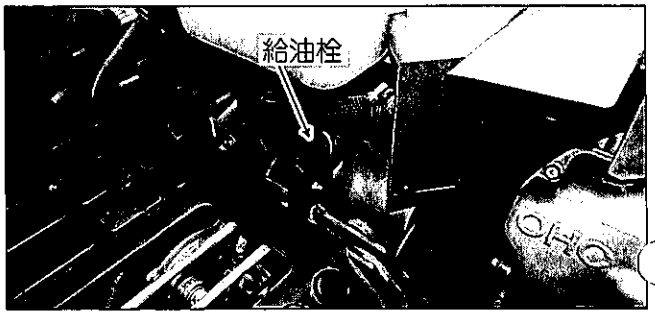
■変速ミッションオイル



●点検・補給

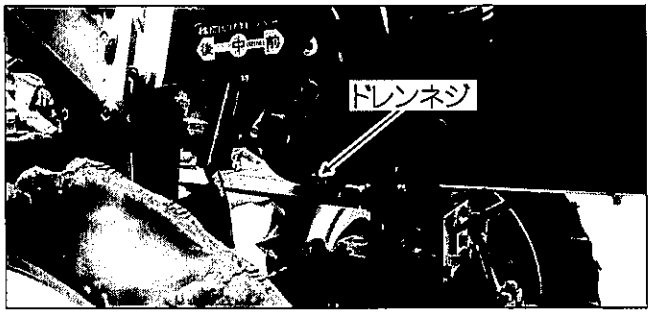
(1)ステップの窓からオイルゲージの範囲内に油面があるか点検します。

(2)不足している場合はボンネットカバーを取り外し、給油口から規定量になるまで給油してください。さらに油もれのないことも調べてください。



●排油のしかた

ドレンネジを外し、オイルを排出してください。

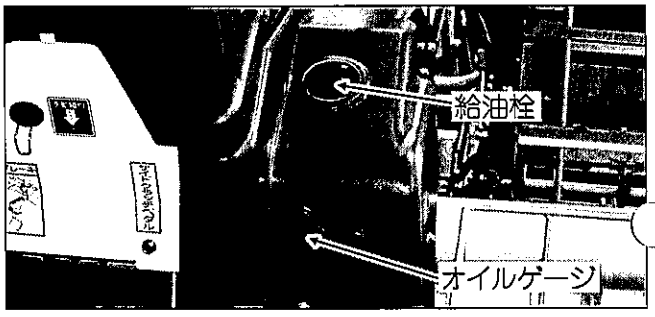


●給油のしかた

ドレンネジを締め付けて、給油口から規定量のオイルを給油し、給油栓を差し込んでください。

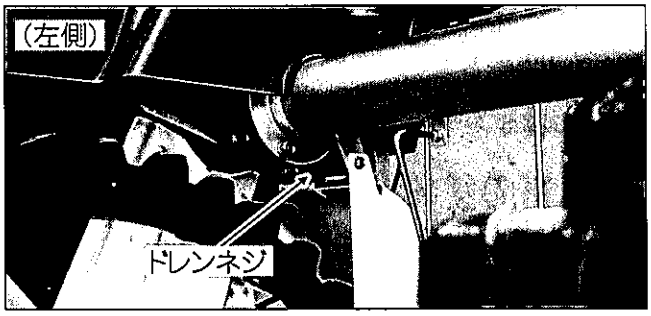
オイルの種類	オイル容量
ギヤーオイル#90	約4.4ℓ

■後輪ミッションオイル



●点検・補給

パネルカバーの穴から、オイルゲージの範囲内に油面があるか点検します。不足している場合は規定量になるまで給油してください。
さらに油もれのないことも調べてください。



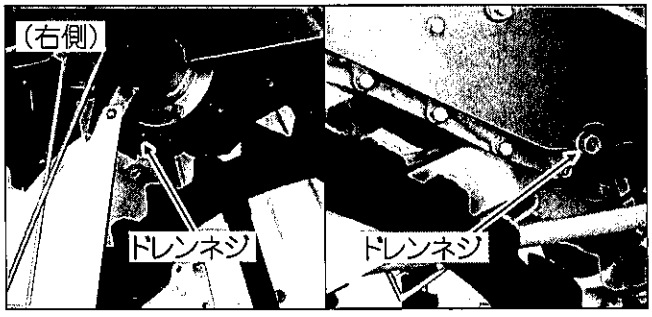
●排油のしかた

給油栓を外してから、ドレンネジを外し、オイルを排出してください。

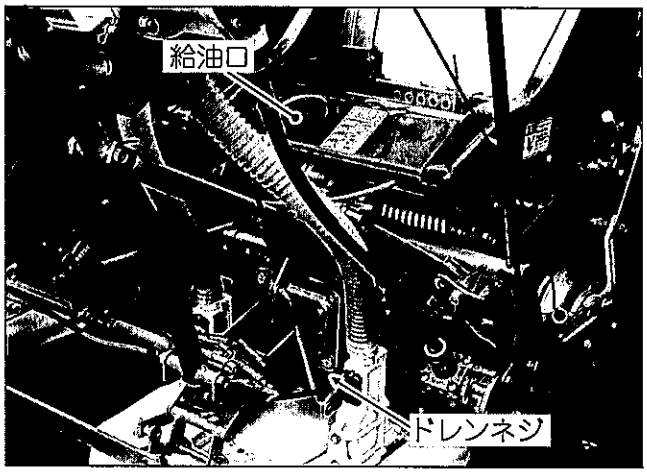
●給油のしかた

ドレンネジを締め付けて、給油口から規定量のオイルを給油し、給油栓を差し込んでください。

オイルの種類	オイル容量
ギヤーオイル#90	左側 約0.8ℓ 右側 約2.5ℓ



■植付ミッションオイル



●交換

(1)ドレンネジを外してオイルを抜いてください。

(2)ドレンネジを締め付け後、給油口から規定量給油してください。

オイルの種類	オイル容量
ギヤーオイル#90	約1.4ℓ

■油圧オイル



(1)ボンネットカバーを取り外します。

(2)油圧レバーを操作し植付部をいっぱいに上昇させた時、タンクの目印線の間に油量があるか調べます。

オイルの種類	オイル容量
油圧用オイル#32	約3.0ℓ

(出荷時はJX日鉱日石エネルギー FBKオイル RO-32を使用しています。)

重要

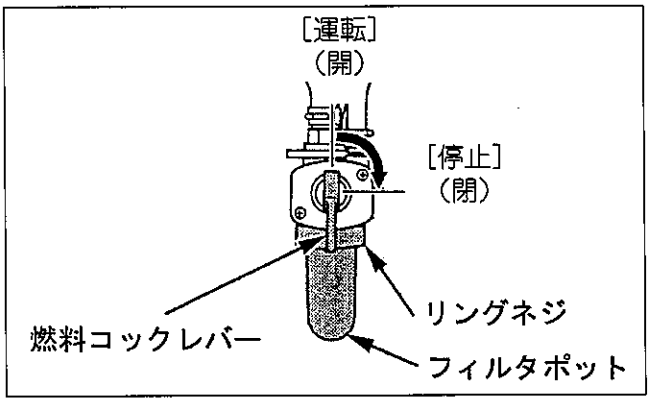
●駆動ベルトにオイルが付着すると、スリップします。給油の時、オイルをこぼさないでください。また、水が混入しないようにしてください。

■燃料フィルタポットの点検・掃除

掃除は燃料を給油する前に行なってください。

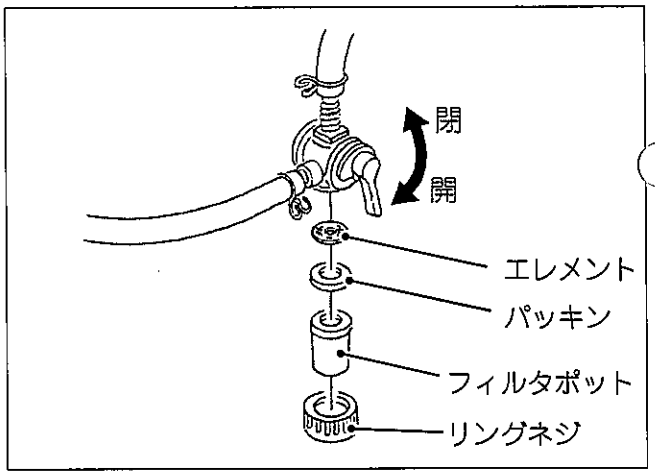
⚠警 告

点検・掃除中は火気厳禁です。



重要

- **燃料内にゴミなどの異物や水が混入すると、フィルタのエレメントの目詰まりが早くなったり、フィルタ内に水が溜まりやすくなります。**
- **フィルタポット下部に水が溜まっているときは、早めに掃除又は交換してください。**



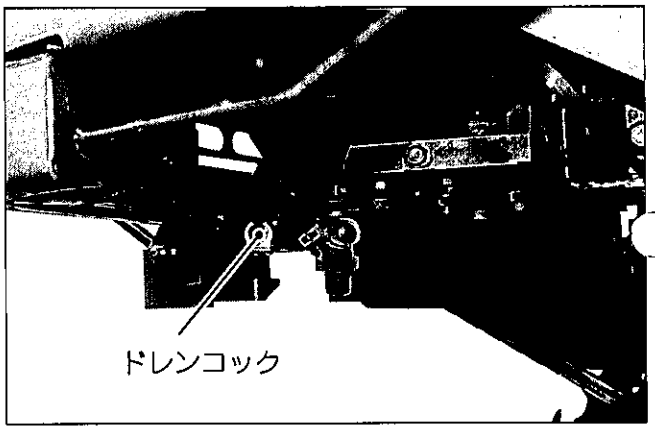
●点検・掃除

(1)燃料コックレバーを「**開**」位置から「**閉**」位置にします。

(2)リングネジをゆるめてポットを外します。

(3)エレメントを取り出してガソリンで洗浄（すすぎ洗い）をします。このとき、汚れのひどい場合は交換してください。

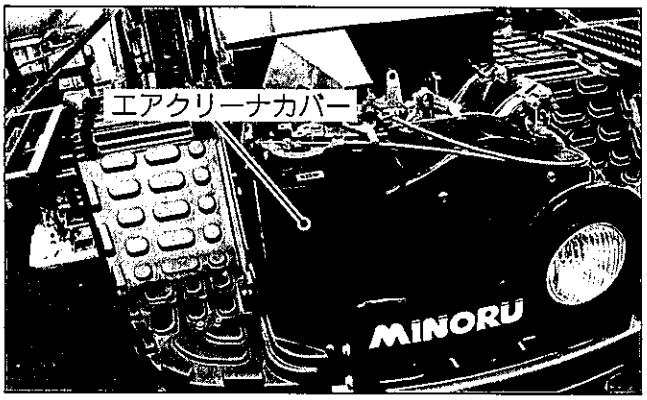
(4)パッキンやエレメントにゴミが付着しないように元通りに組み付けます。



重要

- **エレメントやパッキンは傷つけないようにしてください。また、なくさないでください。**
- **ゴミが燃料内に混入すると、故障の原因になります。**
- **長期格納時はドレンコックを引いて、ドレンからキャブレタ内の燃料を排出します。抜き取り後は、必ずドレンコックを閉じてください。**

■エアクリーナエレメントの点検・掃除



重要

●エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると、エンジンの出力が低下したり、エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し、エンジントラブルの原因となります。点検は運転前にかかさず行なってください。

●点検・掃除

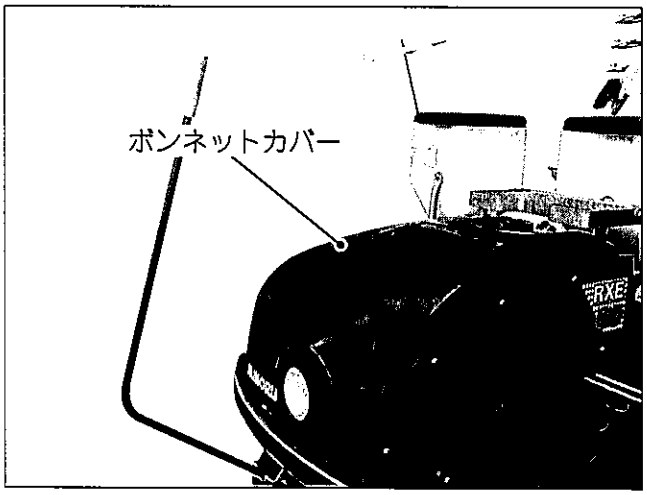
(1)エアクリーナカバーを取り外します。

(2)エレメント（スポンジ）を取り外し、灯油又は家庭用洗剤で洗浄（もみ洗い）をします。このとき、汚れや破損のひどい場合は交換してください。

(3)エレメント（スポンジ）を乾燥させます。

(4)エンジンオイルに浸して固く絞ってから取り付けたあと、エアクリーナカバーを取り付けます。

■点火プラグの点検・掃除・調整

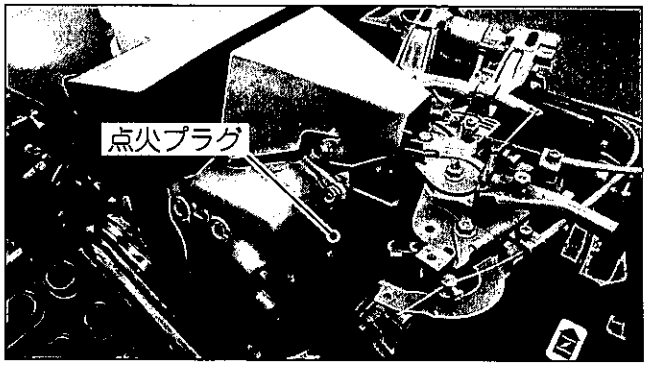


重要

●点火プラグの電極が溶けて、すき間が広がったり、カーボンが付着したり、碍子（ガイシ）部が破損するとエンジンの不調の原因となります。

●点火プラグを交換するときは、必ず同じ型式のものを使用してください。異なったプラグを使用すると、失火や始動不良をおこすおそれがあります。

点火プラグ形式
BR6HS（NGK）

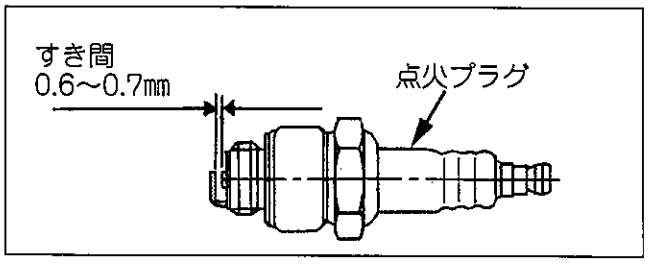


●点検・掃除・調整

(1)ボンネットカバーを取り外します。

(2)点火プラグキャップを外し、プラグボックスで点火プラグを取り外します。

(3)ワイヤブラシで電極の汚れやカーボンを落として掃除したあと、電極のすき間を確認し、異常があれば、すき間調整又は、点火プラグの交換を行ないます。すき間は0.6～0.7㎜に調整します。



■燃料ホースの点検・交換

●点検

エンジン･燃料タンク各部にあるホースを点検し、油もれが発生しているときは、ホースの交換やバンドを締め付けてください。

●交換

交換時の取り付け不良やバンドの締め付け忘れ、締め付け不足がないよう取り付けてください。

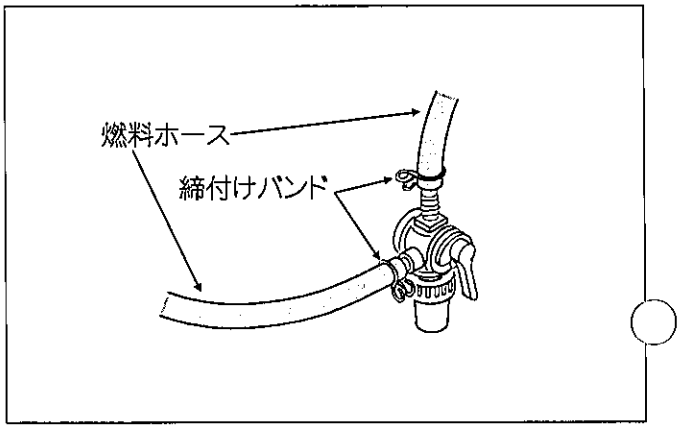
重要

●油もれをしていなくても、２年経過しているときや劣化の激しい場合は交換してください。

●交換時に各部にゴミが入らないように注意してください。

⚠注 意

燃料ゴムホースが破損していると燃料もれを起こし火災の原因となります。

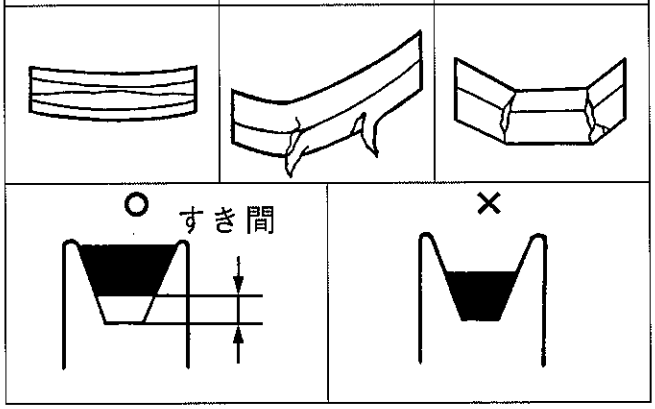


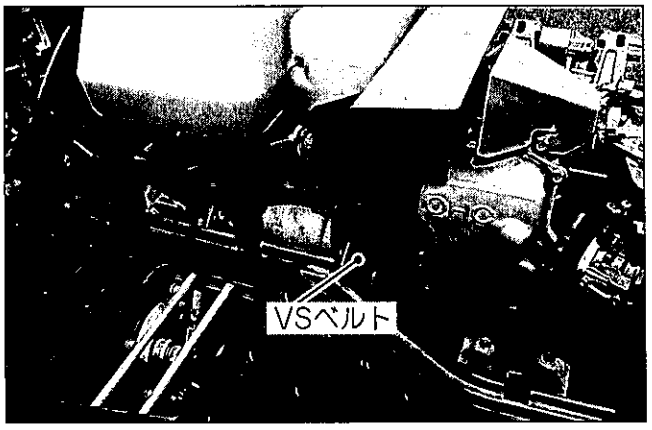
■VSベルト・油圧駆動ベルトの点検

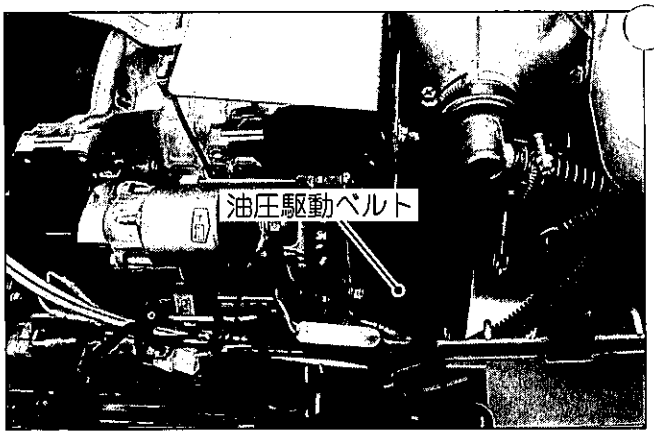
●点検

ベルトを点検するときは、ベルトの焼付きや磨耗、被覆のはがれ、き裂やひび割れ、ベルトの底部とプーリー溝部のすき間、ベルトの伸び（たわみ量）を確認して、異常があれば購入先に連絡してベルト交換を行なってください。

焼付きや磨耗	被覆のはがれ	き裂やひび割れ
×	×	×







■車輪の点検

●点検

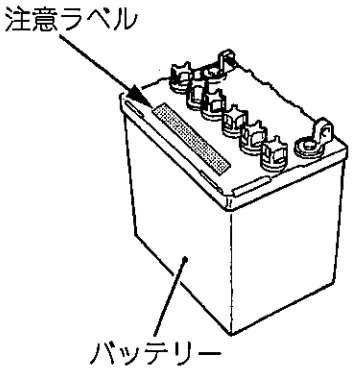
前輪・後輪共に車輪の磨耗や破損（ひび割れなど）を点検し、著しく磨耗している場合や破損がひどい場合は、購入先に連絡して交換してください。

⚠警 告

車輪が摩耗するとスリップを起しやすくなるため、アユミ板の上などで脱輪して転倒する恐れがあります。

■バッテリの点検・交換

バッテリ上面に貼ってある取り扱いの注意ラベルをよく読んでください。



⚠危 険

- ●バッテリの近くに裸火（マッチ、ライター、タバコの火など）を近づけたり、（＋）端子と（－）端子が金属工具などの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。
- ●バッテリを取り扱うときは、必ず保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により、失明やヤケドの原因になります。
- ●充電器やブースターケーブルを使用するときの取り扱いは、それぞれの取扱説明書に従って行なってください。取り扱いを誤ると引火爆発するおそれがあります。
- ●この12Vバッテリはエンジン始動用ですから、他の用途に使用しないでください。
- ●急速充電は厳禁です。
- ●密封タイプのバッテリは開封厳禁です。

⚠警 告

バッテリを乾いた布などで掃除しないでください。静電気により引火爆発するおそれがあります。

●点検・補水

⚠危 険

バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの2種類があります。補水が必要なバッテリについては、以下の事を守ってください。

- ●バッテリは液面がLOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
  LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され、バッテリの寿命を縮めるばかりでなく、爆発の原因となることがあります。
  すぐにUPPER LEVELとLOWER LEVELの間に補水してください。
- ●バッテリ液が体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドをすることがあります。

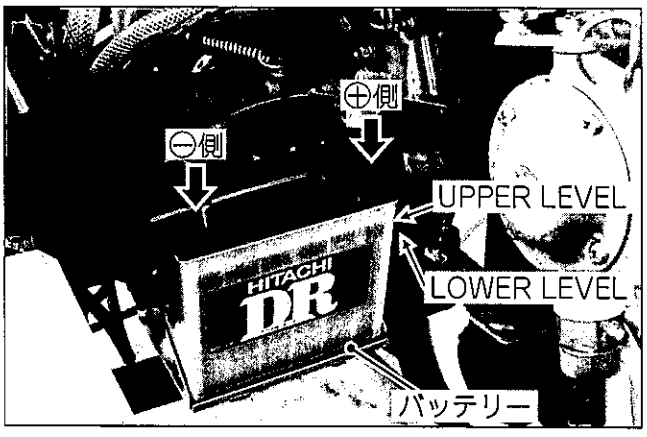
バッテリの状態を点検し、異常があれば処置します。

(1)バッテリ液の量を点検し、[UPPER LEVEL]と［LOWER LEVEL］との間に液量があるか確認し、不足しているときは補水キャップを外して補水します。

(2)バッテリが破損して液もれが発生しているときは、交換してください。

(3)補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは、掃除してください。

(4)バッテリケーブルの破損や（＋）端子、（－）端子にゆるみがないか確認し、ケーブルの交換や端子の増し締めを行ないます。



重要

●バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと、バッテリの寿命は著しく短くなります。

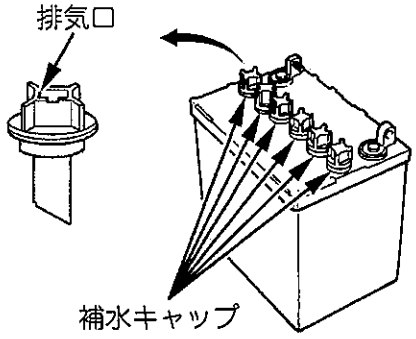
●バッテリ液を補充する場合は、必ず精製水を補充してください。希硫酸･井戸水･泥水などは絶対に入れないでください。

●バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷めるおそれがあります。

●バッテリの電解液は使っているうちに蒸発して減ってきます。

●液もれが発生すると、車体が腐食する原因となります。

●排気口をふさぎますと、バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり、破損する原因となります。



●補充電・交換

⚠警 告

●バッテリは、以下の順序で取り換えてください。順序を誤ると、ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。

◎取外し…(－)端子側(アース側)から外す。

◎取付け…(－)端子側(アース側)を最後に接続する。

●バッテリを転倒させたり、衝撃を与えたりしないでください。電解液（希硫酸）のもれにより、失明やヤケドをする恐れがあります。

●バッテリを機体に取付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。

●バッテリの取付け方向を間違えないでください。（＋）と（－）が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し、火災の原因となるおそれがあります。

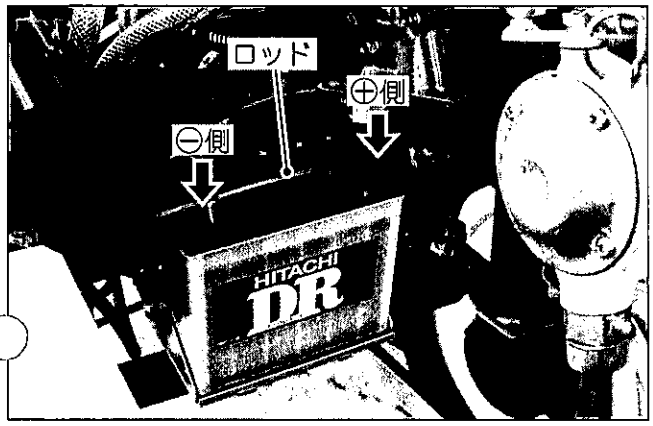
●バッテリを投げたり、落したり、斜めにしたり、衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により、失明やヤケドの原因となることがあります。

●補充電中は補水キャップ全てを取り外して行いますので裸火は近づけないでください、引火爆発する恐れがあります。

次のような状態が発生したときは補充電を行なってください。また、補充電を行なっても短時間で再発するときや状態が良くならないときは、バッテリの寿命ですので交換を行なってください。

●スタータモータの回転がいつもより弱い。
●エンジン回転により、ヘッドランプの明るさが変わる。
●バッテリ電解液の減りが早い。

(1)ケーブル端子のボルトとナットを取り外し、端子からケーブル端子を取り外します。取り外すときは、必ず（－）端子側から取り外します。
(2)バッテリ固定用のロッドを外します。
(3)バッテリを取り外します。
(4)補充電を行なうときは、平たんで風通しの良い場所を選んで行ないます。また、充電は、バッテリの（＋）を充電器の（＋）側に、バッテリの（－）を充電器の（－）側にそれぞれ接続して、普通の充電方法で行なってください。
(5)補充電が終ると取り外したときと逆の手順で取り付けます。



重要

●バッテリを斜めにしたり、横倒しにして運ばないでください。電解液（希硫酸）がこぼれ、衣服の損傷の原因になります。
●バッテリを交換するとき、バッテリは指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因になります。
バッテリ型式：30A19L
●バッテリはエンジン始動用ですから、他の用途には使用しないでください。
●バッテリはきちんと取り付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因になります。
●機械にバッテリを搭載した状態で急速充電をしないでください。

■電装部の各配線コードの点検･交換

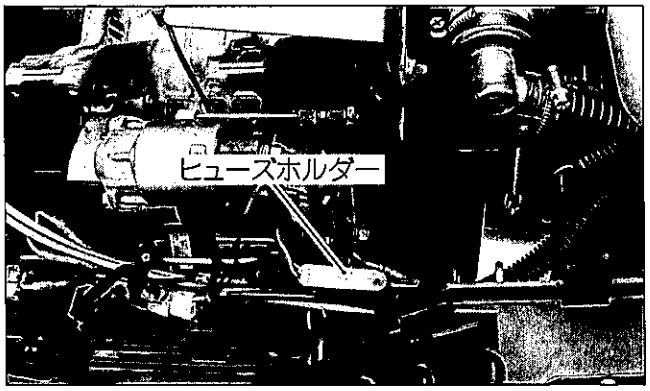
⚠注 意

配線コード被覆の損傷やコネクタ（端子）の接触不良による、漏電やショート（短絡）は火災の原因になります。

●**各配線コードの点検・交換**
各配線コードのコネクタ（端子）の接続状態を点検し、ゆるみや外れがあるときは確実に差し込んでください。
また、被覆の損傷状態を点検し、被覆が破れているときは、販売店へ連絡して交換してください。

■ヒューズの交換

(1) ボンネットカバーを取り外し、エンジン左側にあるヒューズホルダーを開けます。
(2) 切れたヒューズを取り外して新品の20Aヒューズと交換します。
(3) ボンネットカバーを元通り組み付けてください。



⚠注 意

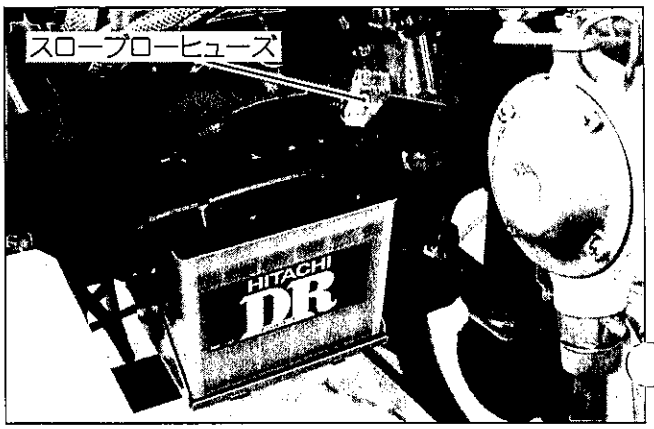
(1) ヒューズの点検・交換をする時はエンジンを停止してください。またキースイッチを「切」にして行なってください。
(2) 点検・交換後はカバーを元通り組み付けてください。

重要

● ヒューズを交換しても再びヒューズが切れる場合はお買い上げいただいた販売店または農協（JA）にご相談ください。

■スローブローヒューズの交換

(1) 苗自動供給のモーター電源に異状が発生した時、スローブローヒューズが焼損します。
(2) ボンネットカバーを取り外します。
(3) バッテリー⊕端子側にスローブローヒューズ（30A）があります。
切れたスローブローヒューズを取り外して、新品のスローブローヒューズと交換します。



⚠注 意

(1) スローブローヒューズの点検・交換をする時はキースイッチを「切」にして行なってください。
(2) 点検・交換後はカバーを元通り組み付けてください。

重要

● スローブローヒューズが焼損した場合はお買いあげいただいた販売店または農協（JA）にご相談ください。

植付作業後の手入れ

植付作業が終ったあとは、機械の点検・整備を怠らず翌日または、翌年の田植え作業に備えてください。

■毎日の作業後

⚠注 意

●掃除するときは、必ずエンジンを停止させてから行なってください。
●燃料抜き取り時は火気厳禁。

(1)平たんな場所に田植機を止めます。
(2)機体各部の泥などを取り除いたあと、必要に応じて各部に注油を行ないます。
(29ページ参照)
(3)格納場所に格納します。
(4)植付部を上昇させ植付部フックを掛けます。
(5)メインスイッチのスイッチキーを抜き取ります。
(6)駐車ブレーキを掛けます。

■長期格納時

田植えのシーズンが終了して翌年まで長期間使用しないとき、格納する前に各部の点検・整備を念入りに行なってください。

●各部の掃除・注油と補修
機体を平たんな場所に止めて下記事項を行なってください。
○水洗い後、ゴミ・水滴を充分ふき取り、油をしみこませた布で清掃してください。
○各グリスの塗布箇所にはグリス、注油箇所には注油を行なってください。
(29 ページ参照)
○塗布したグリスや油が横送りベルトに付着したら、必ずふき取ってください。
○植付爪の先端など、錆びやすい所にはグリスを塗ってください。
○各部のゆるみを調べ、増し締めを行なってください。

重要

●機体を洗う場合は、電装品に水がかからないようにしてください。

●燃料

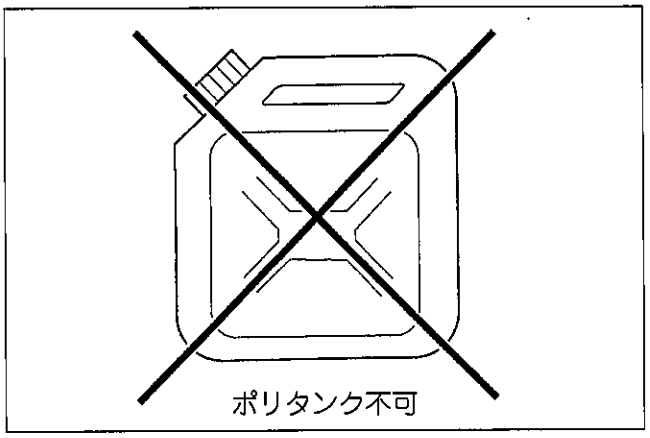
⚠注 意

燃料を排出するときは、エンジンやマフラが充分冷えてから行なってください。火災が発生する恐れがあります。

来シーズンに備えて燃料タンク内（66ページ参照）および燃料フィルタポット内（69ページ参照）のガソリンを抜き取ってください。

重要

- **燃料のガソリンは１ヶ月以上放置すると、気化や酸化をしてガソリンが変質し、エンジンの不調や故障の原因となりますので必ずタンク内およびフィルタポット内のガソリンは抜き取ってください。**
- **燃料のガソリンを保管するときは、必ず鋼製の容器に保管してください。ポリタンクなどの樹脂製の容器に保管すると、ガソリンが樹脂成分を溶解したり、紫外線透過によりガソリンが変質し、エンジンの不調や故障の原因となります。**
- **燃料を入れるときは、燃料コックレバーを必ず「停止」位置にし、エンジンを動かす前に「運転」位置にしてください。**



ポリタンク不可

●バッテリ

⚠危 険

保管や持運びの際にバッテリに火気を近づけたり、ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

⚠注 意

バッテリを点検するときには、エンジンを停止し、メインスイッチを「切」にしてください。

長期間使用しない場合は、できるだけバッテリを機体から取り外してください。また、以下の点に注意して保管してください。

○保管前に点検し、必要に応じて補充電を行なってください。（バッテリ液補水タイプは、補水してから補充電を行なってください。）
○バッテリは保管中でも自己放電するので夏は1ヶ月、冬は２ヶ月に１回それぞれ点検し、必要に応じて補充電を行なってください。
○次のような場所に保管してください。
①直射日光が当たらない（温度が低く変化の少ない）乾燥している場所。
②雨露が少なく、水没のおそれがない場所。
③バッテリの有害なガスや液、粉塵の発生が起こらない場所。

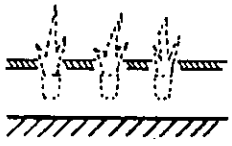
機体に取り付けたまま保管する場合は（－）側のケーブルを必ず取り外してください。

●各レバー・その他

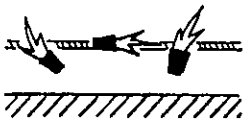
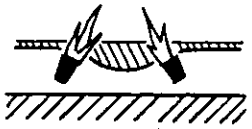
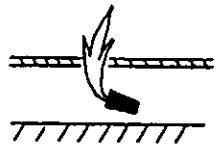
点検･整備が終わったあと、納屋などに停めておくときは植付部を下ろして下記事項を行なってください。
○メインスイッチのスイッチキーは、必ず抜き取って保管してください。
○駐車ブレーキを掛けてください。
○ほこりよけのため、適当なカバーをかけて保管してください。

不調時の処置

●田植作業は、田植機・苗・ほ場の三拍子そろって初めて良い植え付けと高能率が得られます。田植機の点検、苗・ほ場の良い条件作りに心がけてください。
●下記の原因以外については部品の消耗等がありますので、販売店または農協（JA）にご相談ください。

不調内容	原因		処置
 連続欠株ができる。	苗	○根張りが悪い。(ポットがくずれる)	○濡らしかたに注意。 ○植付速度を遅くする。
		○根が張りすぎている。 （硬くて抜けない）	○充分濡らす。 ○太苗用の苗受に交換する。 （注文部品）
		○苗箱の表や裏に土が多く付いている。 ○重粘土の箱土を使用。 ○砂質土・火山灰土の箱土を使用。	○苗箱を洗う。 ○充分濡らす。 ○濡らしかたに注意。 ○植付速度を遅くする。
	田植機	○縦送り爪（下）の油切れ。	○毎日注油。 (P29参照)
		○押出し棒の元に根がたまっている。	○根を取り除く。 (P61参照)
		○苗受に土や小石がつまっている。	○苗受をよく洗う。 (P61参照)
		○空箱受で空箱がつまっている。	○つまった空箱を取り除く。(P57参照)
		○苗箱のセット不良。	○確実に補給。
		○苗箱の角穴が雑草でふさがっている。	○雑草を取り除く。 (P43参照)
		○苗箱が破損している。	○破損している苗箱は使用しない。 ○古くて壊れやすい苗箱は使用しない。 (P43参照)
		○ガイド板に小石がつまって安全クラッチがはたらいている。 （ミッションからカチカチと音がする）	○ガイド板につまった小石を取り除く。 (P62参照) (エンジンを停止して行なってください。)
		○株間12cmでの植付け。	○植付速度を遅くする。
		○押出し棒の摩耗または調整不良。	○交換または調整。
		○縦送り爪の摩耗または調整不良。	○交換または調整。
 欠株ができる。 （二株植えになる）	苗	○根張りが悪い。(ポットがくずれる)	○濡らしかたに注意。 ○植付速度を遅くする。
		○根渡りしている。	○根を切断する。
	田植機	○苗支持板の変形。	○苗支持板の修正･交換。 (P48参照)
		○コンベアーベルトの上に土がたまっている。	○コンベアーベルトをよく洗う。 (P61参照)
		○コンベアーベルトのタイミング不良。	○調整。
		○植付爪のタイミング不良。	○調整。

不調時の処置

不調内容	原因		処置
 植付姿勢が悪い。 (浮き苗・ころび苗)	苗	○根張りが悪い。(ポットがくずれる)	○濡らしかたに注意。 ○植付速度を遅くする。
		○徒長苗。	○葉先を切断する。 ○植付速度を遅くする。
	ほ場	○ほ場が軟らかすぎる。	○ほ場を硬くする。 ○植付速度を遅くする。 ○植付深さをやや深くする。 ○油圧感度の調節を行なう。(P52参照)
		○ほ場が硬すぎる。	○植付速度を遅くする。 ○油圧感度の調節を行なう。(P52参照)
		○ほ場に水が多すぎる。	○水を少なくする。 ○植付速度を遅くする。
		○ほ場が粘土質である。	○ほ場に水を入れる。
	田植機	○苗支持板の変形。	○苗支持板の修正・交換。(P48参照)
		○苗受に土や小石がつまっている。 ○ガイド板に泥がつまっている。 ○ガイド板の変形。 ○フロート後部が浮いている。	○苗受をよく洗う。 ○ガイド板をよく洗う。 ○修正または交換。 ○ピッチング姿勢の調節。(P52参照)
 フロート通過後に植え付けた苗が倒れる。	ほ場	○ほ場が極端に軟らかすぎる。 (表土がトロトロで足跡もつかない状態)	○ほ場を硬くする。 ○植付速度を遅くする。 ○油圧感度の調節を行なう。(P52参照)
	田植機	○フロート後部が沈んでいる。	○ピッチング姿勢の調節。(P52参照)
 植え傷み苗ができる。	苗	○根張りが悪い。 ○貧弱苗。	○植付速度を遅くする。
	田植機	○ガイド板に泥・異物がつまってガイド板幅が開いている。	○泥・異物を取り除く。
		○ガイド板の変形。 ○苗支持板の変形・欠落。	○ガイド板の修正・交換。 ○苗支持板の修正・交換。(P48参照)

不調内容	原因	処置
植付部が下降し、フロートが表土に接地しても、植付クラッチが自動で入らない。	○油圧感度調節レバーが「硬い」での植え付け。	○手動で「入」にする。(P22参照)
	○ほ場が軟らかすぎる。	○手動で「入」にする。(P22参照)
	○植付深さが3箇所同じになっていない。	○必ず同じ位置に調節する。(P46参照)
フロートで泥を押す。	○油圧感度調節が適正でない。 ○ほ場が軟らかすぎる。	○調節確認。(P52参照) ○ピッチング姿勢の調節。(P52参照)
前進できるが植付部が動かない。	○株間切替レバーの切り替え不良。	○レバーを確実に切り替える。(P45参照)

サービス資料

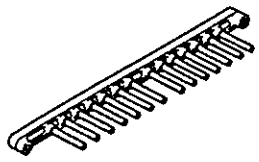
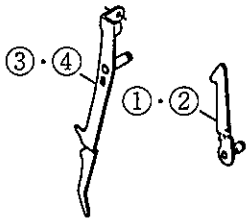
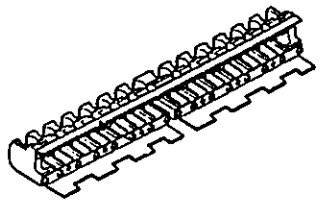
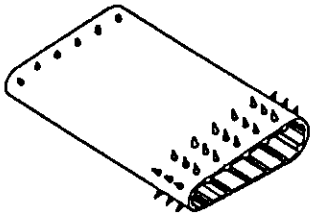
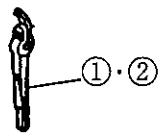
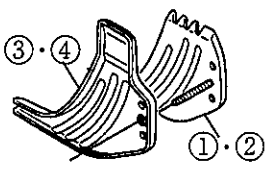
■主要諸元

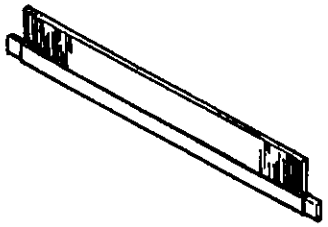
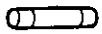
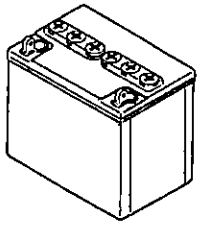
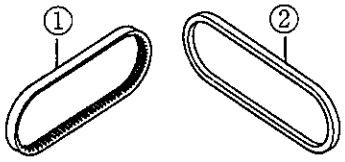
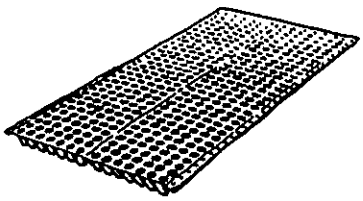
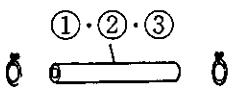
	型式名		みのるRXE60	
	区分		RXE60	RXEH60
	駆動方式		6輪駆動（前輪2、後輪4）	
機体寸法	全長（mm）		3450	
	全幅（mm）		2060（作業時の寸法2710）	
	全高（mm）		1670（作業時の寸法2470）	
	最低地上高（mm）		430（ステアリングアーム下部）	
	機体質量（重量）（kg）		750	755
エンジン	型式名		ロビンEX40	
	種類		空冷4サイクル傾斜型ガソリンエンジン	
	総排気量（c.c.｛ℓ｝）		404｛0.404｝	
	出力／回転速度（PS｛KW｝/rpm）		9.5｛7.0｝/3600（最大14.0｛10.3｝/3600）	
	使用燃料		自動車用無鉛ガソリン	
	燃料タンク容量（ℓ）		9.0（メーター付）	
	始動方式		セルモーター式	
走行部	かじ取り方式		アッカーマン式（パワーステアリング）	
	車輪	前輪（mm）	クッション（720）	
		中後輪（mm）	ゴムラグ（900）	
		外後輪（mm）	ゴムラグ（900）	
	輪距（mm）		前輪800　後輪680、1950	
	変速段数（段）		前進2（植付け1）、後進1	
植付部	植付方式		回転式強制植付け	
	植付条数（条）		6	
	植付条間（cm）		33	
	植付株間（cm）		14、15、16、17、18、21、22、23（スリップ率9%）	13、14、15、16、17、18（スリップ率9%）
	植付株数（株/3.3m²）		72、67、63、59、56、48、45、44（スリップ率9%）	77、72、67、63、59、56（スリップ率9%）
	植付深さ（cm）		1～4（4段）	
	1株本数調節量		播種量の調節による	
苗の条件	苗の種類		ポット苗	
	葉令・草丈		4～5.5葉、8～25cm	
	苗とう載数（箱）		46	54
	作業速度（m/s）		0.23～1.25（スリップ率9%）	
	作業能率（分/10a）		9～13	
	型式検査合格番号		―――	
	安全鑑定番号		申請中	

■標準付属品

No.	部　品　名	個　数	
		RXE60	RXEH60
1	取扱説明書	1	1
2	保　証　書	1	1
3	安全運転説明確認票	1	1
4	工　具　袋	1	1
5	プラグボックス	1	1
6	替ギヤー　5	1	—
7	替ギヤー　6	1	—
8	替ギヤー　11	—	1
9	替ギヤー　12	—	1
10	スペアキー	1	1

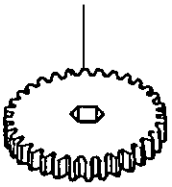
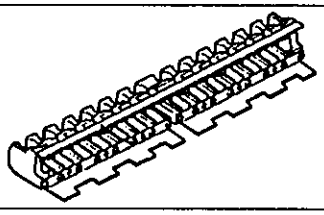
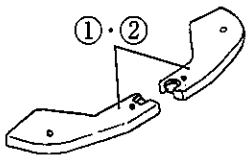
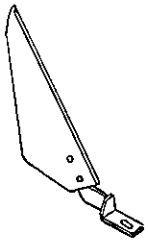
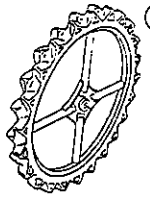
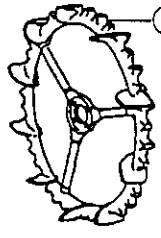
■主な消耗部品一覧表

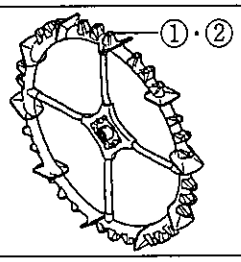
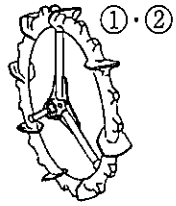
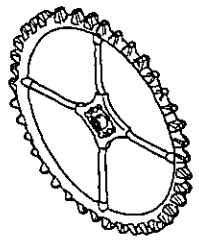
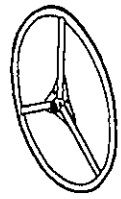
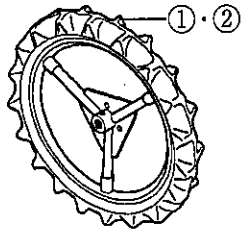
形　状	品　名	部品番号	備　考
	押出し棒座CP	X4－3118	破損、または摩耗した場合交換
	①縦送り爪下(左)CP ②縦送り爪下(右)CP ③縦送り爪上(左)CP ④縦送り爪上(右)CP	X4－3206(1)L X4－3206(1)R X4－3209(1)L X4－3209(1)R	破損、変形、摩耗した場合交換
	苗受CP	LPRH6－23401(1)	破損、変形、摩耗した場合交換
	タイミングベルト	LTP－3506(2)	破損、または伸びた場合交換
	苗支持板	LTP－3513(1)	欠落、または変形した場合交換
	①植付爪(左)AY ②植付爪(右)AY	LPRH6－24213(1)LAY LPRH6－24213(1)RAY	変形、または摩耗した場合交換
	①ガイド板内(左)CP ②ガイド板内(右)CP ③ガイド板外(左) ④ガイド板外(右)	X4－4302(1)L X4－4302(1)R X4－4301(3)L X4－4301(3)R	変形、または摩耗した場合交換

形　状	品　名	部品番号	備　考
	土落しブラシCP	MRX8－22608(1)	変形、または摩耗した場合交換
	ヒューズ20A	DC－20A	ヒューズ切れ時交換
	スローブローヒューズ30A	RXA8－43202－1	焼損時交換
	バルブ	H3 12V 55W	ランプ切れ時交換
	スパークプラグ	BR6HS(NGK)	
	バッテリー	12V－30A19L	
	①スーパーVSベルト ②Vベルト	RXE60－41201 RXE60－42202	亀裂時または摩耗時交換
	各ワイヤー	――――	作動が重くなった場合交換
	苗箱		10年以上経過した古い苗箱は交換 角穴が破損した場合交換
	①燃料パイプ上 ②ラバーパイプ ③ラバーパイプ	RXE60－41302 RN－085－10502－70 RN－085－10622－20	破損時または2年ごとに交換

■注文部品の紹介

オプションとして下記のものを準備してありますので、用途に応じてご購入の上ご利用ください。ご購入に当たっては販売店にご相談の上、ご使用ください。なお、取り付けは必ず販売店・農協（JA）で行なってください。

形　状	品　名	部品番号	備　考
①·②·③·④·⑤·⑥·⑦·⑧·⑨ 	①替ギヤー1 ②替ギヤー3 ③替ギヤー4 ④替ギヤー5 ⑤替ギヤー6 ⑥替ギヤー8 ⑦替ギヤー10 ⑧替ギヤー11 ⑨替ギヤー12	LT6－1405(1) LT6－1415(1) LT6－9301 LT6－9303 LT6－9305 LT6－9307 LTD3－8201 LTD3－9101 LTD3－9102	特殊株間用 （44ページ参照）
	苗受CP	LTP－9403	太苗用(突起なし)
	①マーカーアーム先（左）CP ②マーカーアーム先（右）CP	RX6－61301L RX6－61301R	
 ①·②	①バンパーウェートAY	RXE60－92100	48kg
	②バンパーウェートAY	RXE60－92200	24kg
	苗箱ガイド前AY	RXC6－91100	苗抜け防止用
①·② 	①後輪900×95(左)CP ②後輪900×95(右)CP	RXC6－93101L RXC6－93101R	外径φ900 ラグ幅95 後中車輪として使用
①·② 	①後輪900×125(左)CP ②後輪900×125(右)CP	RXC6－93201L RXC6－93201R	外径φ900 ラグ幅125 後中車輪として使用

形　状	品　名	部品番号	備　考
	①ゴムラグ後輪(左)CP ②ゴムラグ後輪(右)CP	RXA6－13801L RXA6－13801R	外径φ900 ラグ幅100 後中標準装備 後外車輪として使用
	①ゴムラグ車輪850(左)CP ②ゴムラグ車輪850(右)CP	RXA6－13803L RXA6－13803R	外径φ850 ラグ幅100 後外車輪として使用
	後輪900×50CP	RXE6－13801	外径φ900 ラグ幅50 後外車輪として使用
	ラグなし後輪797CP	RXC6－93301	後外車輪として使用
	①前輪広幅720(左)CP ②前輪広幅720(右)CP	RXA8－12405L RXA8－12405R	外径φ720 ラグ幅100 前車輪として使用

●注文部品使用上の注意点

(1)各種車輪

重要

- **車輪の性能は、ほ場の土質・耕盤の状態により違いますので慎重に選択してください。**
- **車輪を交換しますと、ほ場条件によってピッチング調節が必要となる場合があるので注意してください。**

索　引

	項　目	ページ
あ	アクセルレバー	20
	あぜぎわクラッチレバー	24
	あぜぎわマーカーの使い方	54
	アユミ板	37
	安全クラッチが作動したとき	62
	安全な作業をするために	1
	安全のポイント	1
	安全表示ラベル	8,9
い	移動のしかた	36
う	植え痛みの注意	12
	植えじまいのしかた	58
	植付株間の決めかた	44
	植付作業後の手入れ	76
	植付作業の手順	49
	植付作業前の準備	44
	植付手動入レバー	22
	植付爪	16
	植付深さ調節レバー	24
	植付深さの調節のしかた	46
	植付部の水洗いのしかた	61
	植付部フックレバー	25
	植付ミッションオイル	68
	運転のしかた	32
	運搬中の固定のしかた	39
え	エアークリーナーエレメントの点検・掃除	70
	エンジンオイルの点検と補給	28
	エンジンの始動	32
	エンジンの停止	33
	エンジン番号	15

	項　目	ページ
お	押出し棒	61
か	ガイド板	13,16
	替ギヤーの交換・切替レバーの切り替えかた	45
	各部の名称	16
	空箱受の取り付け	46
き	キースイッチ	18
	給油・注油箇所の点検と補給	27
	給油・注油点検一覧表	66
こ	コンベアーベルト	13,51
	後輪ミッションオイル	67
さ	サービス資料	80
	サイドクラッチペダル	23
	サイドクラッチペダルの点検	31
	サイドマーカー	49
	作業のしかた	41
	作業前点検	27
	座席の調節	26

索　　引

	項　　目	ページ
し	自給苗のせ台	50,56
	湿田での脱出のしかた	63
	ジャッキアップ	63
	車輪の点検	71
	主クラッチペダル	23
	主変速レバー	20
	主要諸元	80
	使用上のポイント	10
	消耗部品一覧表	82,83
す	スイッチ・ランプのはたらき	18
	筋付マーカーの使いかた	54
	スローブローヒューズの交換	75
せ	製造番号	15
	セットレバー	25
	旋回のしかた	54
	洗車時の注意	64
	センターマスコット	16,49
そ	外車輪作動スイッチ	55
た	縦送り爪下	11,29
ち	駐車のしかた	35
	駐車ブレーキレバー	24
	注文部品の紹介	84
	注油箇所	29,30
	長期格納時	76
	チョークノブ	20
つ		

	項　　目	ページ
て	定期点検	64
	定期点検一覧表	65
	停止のしかた	34
	点火プラグの点検・掃除・調整	70
	点検整備	64
	電装関係を取り扱うときは	7
	電装部の各配線コードの点検・交換	74
と	トラックへの積み・降ろし	37
な	苗受	13
	苗供給ブザー	56
	苗支持板の調節のしかた	48
	苗自動供給	21
	苗の準備	42
	苗のせ台	13,59
	苗の補給のしかた	56
	ならし運転について	33
に		
ぬ		
ね	燃料・オイルの点検・補給・交換	66
	燃料ゲージ	19
	燃料コック	32
	燃料タンク	16,27
	燃料の給油	27
	燃料の排出	66
	燃料ホースの点検・交換	71
の	残り苗の取り出しかた	59
は	発進のしかた	34
	バッテリーの点検・交換	72

索　　引

	項　　目	ページ		項　　目	ページ
ひ	ピッチング調節ハンドル	22	も		
	ピッチング姿勢の調節のしかた	52			
	非特殊自動車としての取り扱い	1			
	ヒューズの交換	75	や		
	標準付属品	81			
ふ	VS変速レバー	21	ゆ	油圧(植付クラッチ)レバー	21
	VS変速レバー・主クラッチペダルの点検	31		油圧オイル	68
				油圧感度調節のしかた	52
	VSベルト・油圧駆動ベルトの点検	71		油圧感度調節レバー	22
	不調時の処置	78,79			
	フロート	16			
	フロート引バネの調節	53	よ	予備苗台後の取り付け	47
	ブレーキペダル	23		予備苗台前	16
	ブレーキペダルの点検	31			
へ	ペダル・レバーの点検	31	ら	ライトスイッチ	19
	変速ミッションオイル	67			
			り		
ほ	保証とサービスについて	15			
	ほ場からの出かた	40			
	ほ場での植えかた	53	る		
	ほ場の準備	41			
	ほ場への入りかた	40			
	本機の吊り上げかた	38	れ		
			ろ		
ま	毎日の作業後	76			
	マーカースイッチ	18			
	マーカーロックレバー	23	わ		
み					
む					
め					

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは、いちばんよくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。

国内排出ガス自主規制について

このラベルは、(社) 日本陸用内燃機関協会の小形汎用エンジン排出ガス自主規制に適合していることを示しています。

(社)日本陸用内燃機関協会：陸用エンジン業界の健全な発展と最新技術の開発を図り、併せて関連する諸製造業界の発展にも寄与することを目的とする団体で、環境保全の重要性を考慮して小形汎用エンジンの排出ガス浄化のため自主規制に取り組んでいます。

自主規制の内容については、下記のホームページにてご覧頂けます。
http://www.lema.or.jp

みのる産業株式会社

本社工場　〒709-0892　岡山県赤磐市下市447
TEL.(086)955-1123(代)　FAX.(086)955-5520

東京支店　〒337-0042　埼玉県さいたま市見沼区南中野210
TEL.(048)683-9451(代)　FAX.(048)683-9452

長野営業所　〒389-1104　長野県長野市豊野町浅野582-4
TEL.(026)257-6530(代)　FAX.(026)257-6531

九州支店　〒818-0066　福岡県筑紫野市大字永岡1020-1
TEL.(092)921-6006(代)　FAX.(092)921-6008

宮崎営業所　〒880-0036　宮崎県宮崎市花ヶ島町小無田649-10
TEL.(0985)36-3870(代)　FAX.(0985)36-3871

ホームページ　http://www.agri-style.com